

# ノートブック コンピューター

## 取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。



**警告** 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。



## PCG-808/803

# 警告 安全のために

ソニー製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故につながることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

## 安全のための注意事項を守る

6～12ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

## 故障したら使わない

すぐにVAIOテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店にご連絡ください。

## 万一異常が起きたら

- 煙が出たら
- 異常な音、においがしたら
- 内部に水、異物が入ったら
- 製品を落としたり、キャビネットを破損したとき



- ① 電源を切る
- ② 電源コードや接続ケーブルを抜く  
またはバッテリーを取りはずす
- ③ VAIOテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店に連絡する

## データはバックアップをとる

ハードディスク内の記録内容は、バックアップをとって保存してください。ハードディスクにトラブルが生じて、記録内容の修復が不可能になった場合、当社は一切その責任を負いません。

## 警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



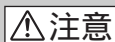
**危険**

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。



**警告**

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながることがあります。



**注意**

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

## 注意を促す記号



## 行為を禁止する記号



## 行為を指示する記号



## 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

## 漏洩電流自主規制について

この装置の本体およびディスプレイは、それぞれ社団法人日本電子工業振興協会のパソコン基準(PC-11-1988)に適合しております。

## 瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお勧めします。

(社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

## レーザー安全基準について

この装置には、レーザーに関する安全基準(JIS・C-6802、IEC825)クラス1適合のCD-ROMドライブが搭載されています。

- VAIOはソニー株式会社の商標です。
- Microsoft、MS、MS-DOSおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- IBMおよびPC/AT、PS/2は、米国International Business Machines Corporationの商標および登録商標です。
- So-netは、ソニーコミュニケーションネットワーク株式会社の登録商標です。
- その他、本書で登場するシステム名、製品名、サービス名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では™、®マークは明記していません。

権利者の許諾を得ることなく、本機に付属のソフトウェアおよび取扱説明書の内容の全部または一部を複製すること、およびソフトウェアを賃貸することは、著作権法上禁止されております。

本機、および本機に付属のソフトウェアを使用したことによって生じた損害、逸失利益、および第三者からのいかなる請求等につきましても、当社は一切その責任を負いかねます。

本機の保証条件は、同梱の当社所定の保証書の規定をご参照ください。

本機に付属のソフトウェアは、本機以外には使用できません。

本機、および本機に付属のソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご容赦ください。

---

# 目次

△危険・△警告・△注意 ...	6
こんなことができます .....	13
マニュアルの使いかた .....	15
ヘルプの使いかた .....	16

## 操作編

---

### 基本的な使いかた

電源を入れる .....	22
電源を切るには .....	24
再起動するには .....	25
タッチ패드を使う .....	26
キーボードを使う .....	28
文字を入力する .....	30
日本語入力を準備する .....	30
入力のしかたを選ぶ .....	32
文字を入力する .....	33
フロッピーディスクを使う .....	38
フロッピーディスクドライブを 取り付ける .....	38
フロッピーディスクを入れる ... .....	40
データを書き込み禁止にする ... .....	41
使用できるフロッピーディスク 41	
CD-ROMを使う .....	43
CD-ROMドライブを取り付け る .....	43
ディスクを入れる .....	44
使用できるディスク .....	46

バッテリーで使う .....	47
バッテリーパックを取り付ける .....	48
セカンドバッテリーパックを取 り付ける .....	49
バッテリーを充電する .....	50

---

### VAIOを使いこなす

インターネットを楽しむ .....	51
インターネットを楽しむには ... .....	52
外出先でインターネットにアク セスする .....	53
電話 / ファックスを使う .....	56
電話 / ファックスを準備する ... .....	56
電話をかける .....	59
電話を受ける .....	60
ファックスを送信する .....	61
ファックスを受信する .....	62
他の機器とデータをやりとりする .. .....	63
赤外線 (IrDA) でデータをやり とりする .....	63
シリアルケーブルを使ってデー タをやりとりする .....	66
ネットワーク (LAN) につない でデータをやりとりする ..	66
PCカードを使ってデータをや りとりする .....	67
音楽CD / ビデオCDを再生する	68
Digital Media Parkで音楽CD / ビデオCDを再生する ....	68
CDを長時間聞くには .....	69
いろいろなソフトウェアを使う ..	71

## 拡張編

### 周辺機器を接続する

内蔵モデムを電話回線につなぐ ..	74
プリンターをつなぐ .....	78
外部ディスプレイをつなぐ .....	79
デジタルスチルカメラを使う .....	81
USB機器をつなぐ .....	84
外部スピーカー/マイクをつなぐ85	
キーボード/マウスをつなぐ .....	86
ドッキングステーションに取り付け て使う .....	86

### 本体を拡張する

メモリーを増設する .....	87
PCカードを使う .....	91

## セットアップ編

### 本機の使用環境を設定する

本機の情報を確認する .....	96
赤外線データ通信 (IrDA) の設定を 変更する .....	97
パラレルポートの設定を変更する .. .....	99
起動ドライブを指定する .....	101
タッチパッドの設定を変更する .....	102
パスワードを登録する .....	103
デバイスを一時的に使用できないよ うに設定する .....	105
使用するデバイスごとに詳細な設定 をする .....	106

### バッテリーの消費電力を節約 する

PowerPanelを起動する .....	108
使用環境にあったプロファイルを選 ぶ .....	109
省電力動作モードについて .....	112

### バッテリーの残量を確認する

BatteryScopeを起動する .....	114
バッテリー残量の見かた .....	116

### 画面表示の設定を変更する

ディスプレイの設定を変更する .....	117
表示するディスプレイを選ぶ .....	119
デュアルディスプレイを使う .....	125
アクティブデスクトップを Windows 98のデスクトップ画面 からはずす .....	128
タッチパッドを便利に使う .....	129

## その他

使用上のご注意 .....	136
お手入れ .....	140
保証書とアフターサービス .....	141
主な仕様 .....	142
リカバリCDで本機を再セットアッ プする .....	144
各部のなまえ .....	146
キーボードショートカット .....	150
故障かな?と思ったら .....	153
モデムの設定 .....	158
ダイヤルの設定 .....	158
COMポートの設定 .....	160
索引 .....	162

# 警告



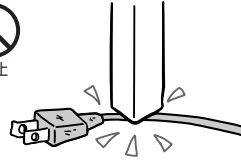
下記の注意事項を守らないと**火災・感電**などにより**死亡**や**大けが**の原因となります。

## 電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となることがあります。

- 本機と机や壁などの間にはさみこんだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、電源コードが傷んだら、VAIOテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店に交換をご依頼ください。



## 油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。取扱説明書に記されている使用条件以外の環境でのご使用は、火災や感電の原因となることがあります。



## 内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続ケーブルを抜いて、VAIOテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店にご相談ください。



## 内部を開けない

- 内部には電圧の高い部分があり、開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となることがあります。内部の点検、修理はVAIOテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店にご依頼ください。
- メモリーを増設するときは、この取扱説明書の「メモリーを増設する」(87ページ)に従って注意深く作業してください。また、指定されている部分以外には触れないでください。指定以外の部分にむやみに触れると、火災や感電の原因となることがあります。



---

### 指定のACアダプター以外は使用しない

火災や感電の原因となります。



---

### 雷が鳴りだしたら、テレホンコードや電源プラグに触れない

感電の原因となります。



---

### ひざの上で長時間使用しない

長時間使用すると本体の底面が熱くなり、低温やけどの原因となります。



---

### 本機は日本国内専用です

本機に内蔵されているモデムは国内専用です。海外などでモデムを使用すると、故障・火災・感電の原因となることがあります。



---

### モデムは一般電話回線以外に接続しない

本機の内蔵モデムをISDN(デジタル)対応公衆電話のデジタル側のジャックや、構内交換機(PBX)へ接続すると、モデムに必要以上の電流が流れ、故障・発熱・火災の原因となります。

特に、ホームテレホン・ビジネスホン用の回線などには、絶対に接続しないでください。





**警告**

下記の注意事項を守らないと、  
**健康を害する**おそれがあります。

### ディスプレイ画面を長時間続けて見ない

ディスプレイなどの画面を長時間見続けると、目が疲れたり、視力が低下するおそれがあります。

ディスプレイ画面を見続けて体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。



禁止

### キーボードを使いすぎない

キーボードやタッチパッドなどを長時間使い続けると、腕や手首が痛くなったりすることがあります。

キーボードやタッチパッドを使用中、体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みが取れないときは医師の診察を受けてください。



禁止





下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**物品に損害**を与えたりすることがあります。

### ぬれた手で電源プラグにさわらない

ぬれた手で電源プラグの抜き差しをすると、感電の原因となることがあります。



### 接続するときは電源を切る

電源コードや接続ケーブルを接続するときは、本機や接続する機器の電源を切ってください。感電や故障の原因となることがあります。



### 指定された電源コードや接続ケーブルを使う

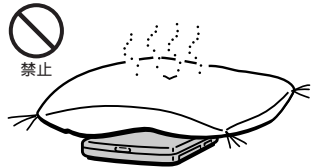
取扱説明書に記されている電源コードや接続ケーブルを使わないと、感電や故障の原因となることがあります。



### 通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。風通しをよくするために次の項目をお守りください。

- 毛足の長い敷物（じゅうたんや毛布など）の上に放置しない。
- 布などでくるまない。



### 通電中の本体やACアダプターに長時間ふれない

長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。



### 本体やACアダプターを布や布団などでおおった状態で使用しない

熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。





下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**物品に損害**を与えたりすることがあります。

### 安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置かないでください。また、横にしたり、ひっくり返して置いたりしないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。



禁止



### 本機の上に重いものを載せない

壊れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。



禁止



### お手入れの際は、電源を切ってプラグを抜く

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く



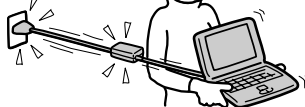
### 移動させるときは、電源コードや接続ケーブルを抜く

接続したまま移動させると、ケーブルが傷つき、火災や感電の原因となったり、接続している機器が落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。

また、本機を落とさないようにご注意ください。



注意

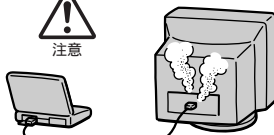


### コネクターはきちんと接続する

- コネクターの内部に金属片を入れないでください、ピンとピンがショート(短絡)して、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクターはまっすぐに差し込んで接続してください。斜めに差し込むと、ピンとピンがショートして、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクターに固定用のスプリングやネジがある場合は、それらで確実に固定してください。接続不良が防げます。



注意



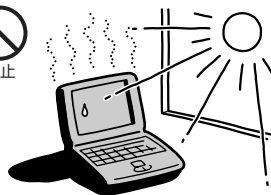
長時間使用しないときは電源プラグを抜く  
長時間使用しないときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。



プラグをコンセントから抜く

直射日光のあたる場所や熱器具の近くに設置・保管しない

内部の温度が上がり、火災や故障の原因となることがあります。



液晶画面に衝撃を与えない

液晶画面はガラス製のため、強い衝撃を与えると割れて、けがの原因となることがあります。



## 電池についての安全上のご注意

漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

### 危険

- 指定された充電方法以外で充電しない。
- 火の中に入れない。ショートさせたり、分解しない。電子レンジやオーブンで加熱しない。コインやヘヤーピンなどの金属類と一緒に携帯、保管するとショートすることがあります。
- 火のそばや炎天下などで充電したり、放置しない。
- バッテリーパックから漏れた液が目に入った場合は、きれいな水で洗った後、ただちに医師に相談してください。
- 本体付属または別売りのバッテリーパック以外は使用しないでください。

### 警告

バッテリーパックを廃棄する場合は、以下のご注意をお守りください。

- 地方自治体の条例などに従う。
- 一般ゴミに混ぜて捨てない。

または、ソニーサービスステーションにお持ちください。

## 本機の発熱についてのご注意

使用中に本体の底面やACアダプターが熱くなることがあります

CPUの動作や充電時の電流によって発熱していますが、故障ではありません。使用している拡張機器やソフトウェアによって発熱量は異なります。

本体やACアダプターが普段よりも異常に熱くなったときは

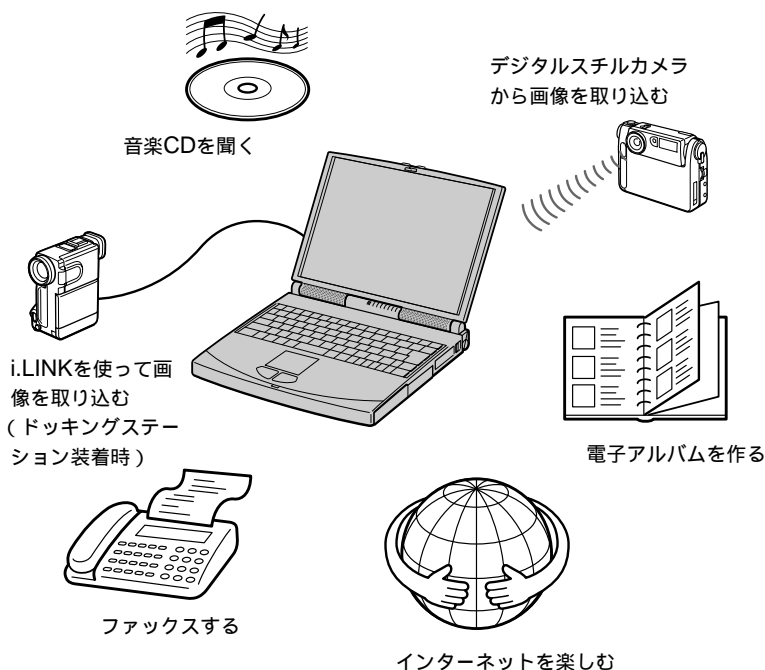
本機の電源を切り、ACアダプターの電源コードを抜き、バッテリーパックを取り外してください。次に、VAIOテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または購入された販売店に連絡してください。

# こんなことができます

## VAIOノートが広げるデジタルワールド

本機はデジタルスチルカメラやデジタルビデオカメラレコーダーなどのAV機器と組み合わせて使うことを想定して設計された、ソニーならではのノートブックコンピュータです。

ここでは、本機を使ってできることの例をあげてみましょう。



デジタルスチルカメラから画像を取り込む

別売りのソニーデジタルスチルカメラからケーブルをつなぐずに、赤外線通信で画像を高速に取り込めます。

i.LINKを使って画像を取り込む

別売りのドッキングステーションを本機に装着することで、i.LINK (IEEE1394) インターフェースを持つデジタルスチルカメラやデジタルビデオレコーダーなどから、デジタル信号のまま美しい画像を取り込めます。

取り込んだ画像を自由自在に活用する

デジタルスチルカメラやデジタルビデオカメラレコーダーから取り込んだ画像は、付属の「PictureGear Version 2.0」ソフトウェアで簡単に管理できます。付属の「Adobe PhotoDeluxe 2.0J」ソフトウェアを使えば、取り込んだ画像にタイトルを入れたり、特殊効果をかけたりできます。本機で作成した画像をデジタルビデオカメラレコーダーで録画することもできるなど、取り込んだ画像を思いのままに活用できます。

AV再生を楽しむ

付属の「Digital Media Park」ソフトウェアを使って、音楽CDやビデオCDを再生できます。付属のリモコン付きヘッドホンを使って音楽CDを長時間聴くこともできます。

インターネットを楽しむ

通信用のモデムを内蔵しているため、インターネットに接続して世界中の情報に接したり、電子メールをやり取りしたりできます。

## ノートブックパソコンとしての特長

本機は軽量で、バッテリーで長時間使用できるノートブックパソコンです。この特長を生かして、本機を使いこなしてください。

外出先でデータ収集

携帯電話やPHSとつないで、外出先でもインターネットに接続して情報収集したり、電子メールで情報交換できます。

旅行や出張のおともに

旅行先から家族・友人に電子メールを送信できます。旅の便りも電子メールで。その日のうちに新鮮な感動が届きます。

使用環境に合わせたバッテリー管理

付属の「PowerPanel」ソフトウェアを使えば、処理速度を優先したり、バッテリーの寿命を優先したりなどといった動作環境を簡単に設定できます。また、付属の「BatteryScope」ソフトウェアを同時に使うことで、バッテリーの放電予測時間なども同時に把握できます。これで「プレゼンテーション中に突然のバッテリー切れ」といった心配もありません。

# マニュアルの使いかた

本書は、以下の4章で構成されています。

## □ 操作編

パソコンを初めてお使いになる方は、「基本的な使いかた」からお読みください。一歩進んだ使いかたは「VAIOを使いこなす」をご覧ください。

## □ 拡張編

プリンターなどの周辺機器のつながりかたや、PCカードの使いかたなどについて説明しています。

## □ セットアップ編

本機をお使いになる状況や好みに合わせて、本機の設定を変更できます。ここでは、付属のソフトウェアを使った設定のしかたを説明しています。

## □ その他

本機をご使用になる際のご注意やお手入れのしかたなどについて説明しています。本機がうまく動作しないときは、「故障かな?と思ったら」をお読みください。

本機のできることの一部をご紹介します。それぞれ詳しくは右側の参照先の説明をご覧ください。

また、本機にどんなソフトウェアが付属されているかは、別冊の「付属ソフトウェア一覧」をご覧ください。

こんなことがしたい	詳しくは
インターネットを楽しみたい	「インターネットを楽しむ」(51ページ)
CDを聞きたい	「音楽CD / ビデオCDを再生する」 (68ページ)
電話をかけたい	「電話 / ファックスを使う」(56ページ)
ファックスを送りたい	「電話 / ファックスを使う」(56ページ)
デジタルスチルカメラを使いたい	「デジタルスチルカメラを使う」 (81ページ)
他のパソコンのデータを 本機で使いたい	「他の機器とデータをやりとりする」 (63ページ)

# ヘルプの使いかた

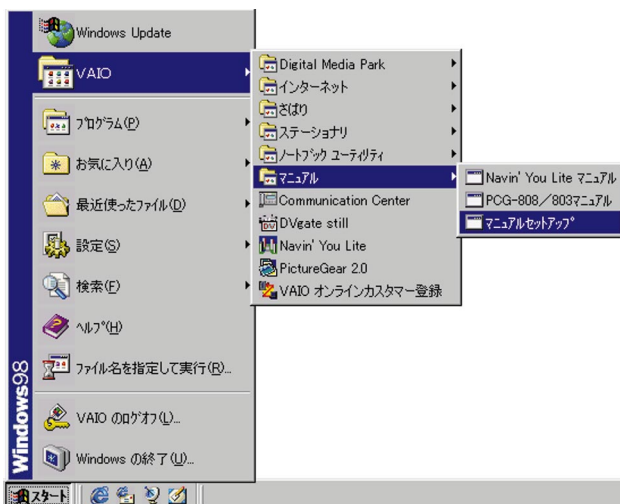
この取扱説明書の内容は、ヘルプとして画面上でお読みいただけます。取扱説明書を持ち歩かなくても、外出先で本書の内容を参照できます。

## ヘルプを準備する

ヘルプを見るには、付属のソフトウェア「Adobe Acrobat Reader 3.0J」を本機にインストールする必要があります。

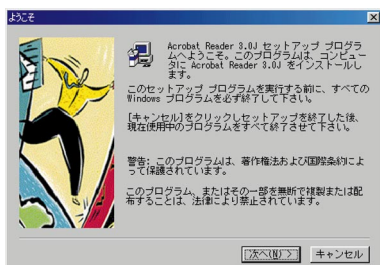
次の手順に従って操作してください。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[VAIO]にポインターを合わせ、[マニュアル]を選び、[マニュアルセットアップ]をクリックする。



- 2 [次へ]をクリックする。

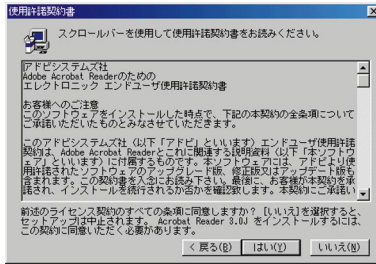
インストールをしないときは、[キャンセル]をクリックします。





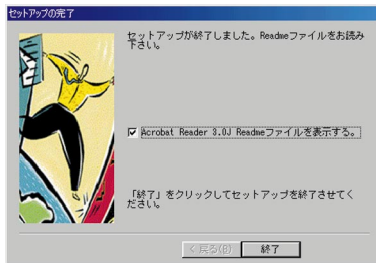
### 3 画面の内容を確認し、[ はい ]をクリックする。

「ようこそ」画面のつぎに、「使用許諾契約書」が表示されます。内容を確認し、[ はい ]をクリックします。

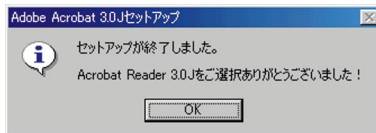


引き続き画面の指示に従って操作します。前の画面を見るには[ <戻る ]をクリックします。

### 4 [ 終了 ]をクリックする。



### 5 [ OK ]をクリックする。

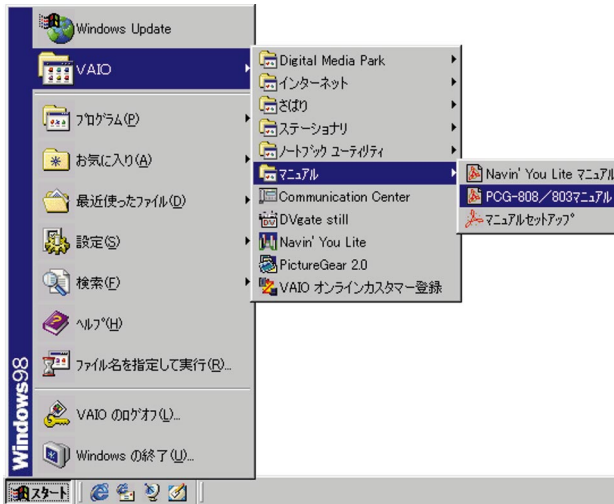


これでインストールが終了しました。

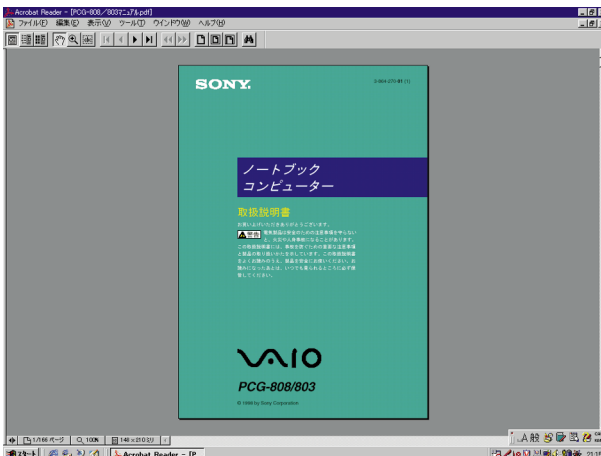
## ヘルプを見るには

ヘルプを見るには、本機の電源が入っている状態で、次のように操作します。

- 1 [スタート] ボタンをクリックして [VAIO ] にポインターを合わせ、[ マニュアル ] を選び、[ PCG-808/803マニュアル ] をクリックする。




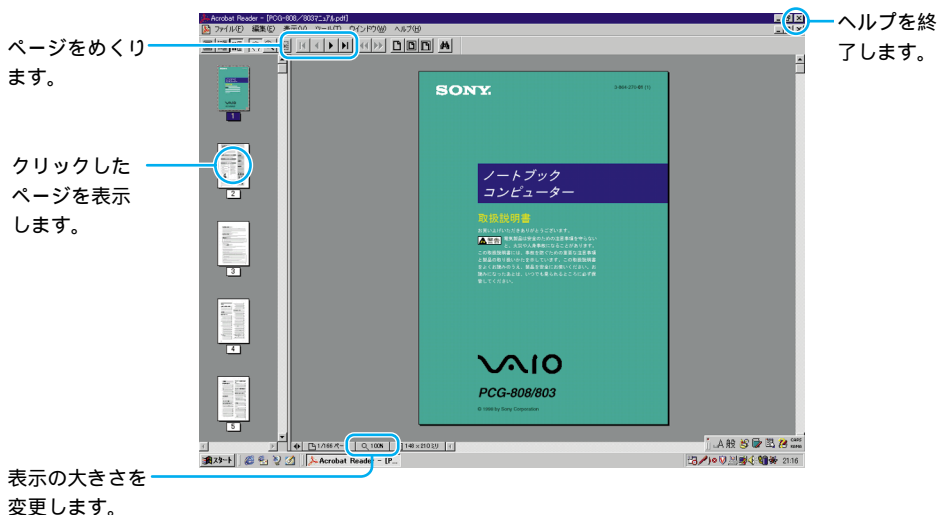
ヘルプの表紙が表示されます。



## ヘルプの見かた

基本的なヘルプの見かたを説明します。

サムネール(縮小表示)を見たいときは、をクリックします。



## 各ソフトウェアのヘルプを見るには

本機に付属しているソニー製のソフトウェアにもヘルプが添付されています。それぞれのヘルプの使いかたについて詳しくは、各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。



---

# 操作編

この章では、最初に本機の基本的な使いかたを、次にいろいろな目的にあった本機の使いかたを説明します。

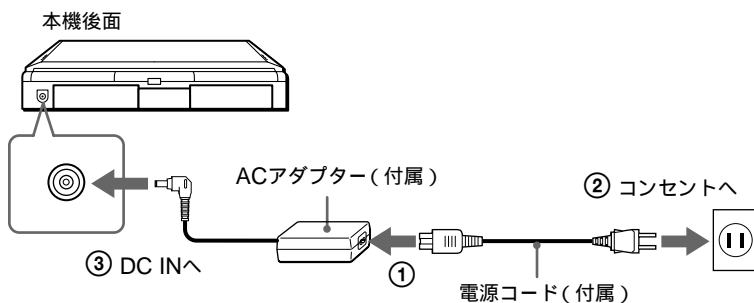
# 第 1 章

# 基本的な使いかた

## 電源を入れる

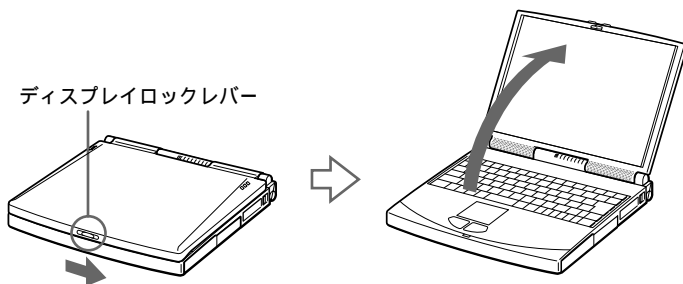
ここではAC電源につないだときの電源の入れかたについて説明します。バッテリーを使うときは、「バッテリーで使う」(47ページ)をご覧ください。

### 1 AC電源をつなぐ。



### 2 ディスプレイパネルを開く。

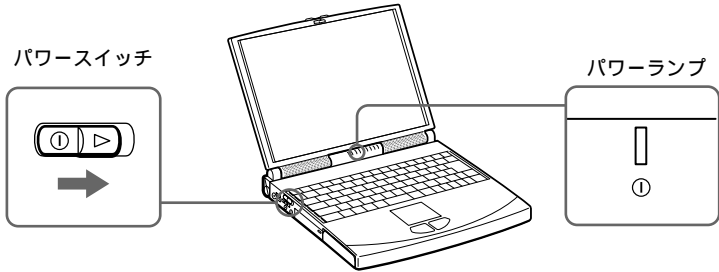
ディスプレイロックレバーを矢印の方向にずらしながら、ディスプレイパネルを開きます。



**3** パワースイッチを▷の方向にずらし、パワーランプが点灯(グリーン)したらはなす。

本機の電源が入り、しばらくして、Windows 98が起動します。

初めて電源を入れたときは、Windows 98セットアップ画面が表示されます。Windows 98セットアップ画面については、別冊の「はじめにお読みください」をご覧ください。



**ご注意**

- 4秒以上パワースイッチをずらしたままにすると、電源は切れてしまいます。

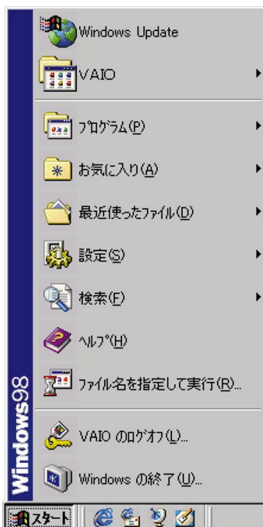
# 電源を切るには

本機の電源を切るときは、次の手順で操作してください。

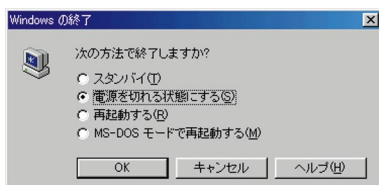
## ご注意

以下の手順通りに電源を切らないと故障の原因になったり、作成した文書などのファイルが使えなくなったりすることがあります。

- 1 [スタート]ボタンをクリックする。  
「スタート」メニューが表示されます。



- 2 メニューの[ Windowsの終了 ]をクリックする。  
「Windowsの終了」が表示されます。



- 3 「電源を切れる状態にする」をクリックして選択し、[ OK ]をクリックする。

「Windowsを終了しています」と数秒表示されてから、本機の電源が自動的に切れます。



「スタート」メニューから[ Windowsの終了 ]を選んでも電源が切れないときは

パワースイッチを4秒間以上▷の方向にずらしたままにして、電源が切れたら離します。ただし、この操作をすると作成したファイルが使えなくなることがあります。



移動するときなどしばらく作業を中断するときや、翌日まで本機を使わないときなどは、システムサスペンドモードやシステムハイバネーションモードを使うと便利です。

詳しくは「バッテリーの消費電力を節約する」(108ページ)、 「省電力動作モードについて」(112ページ)をご覧ください。

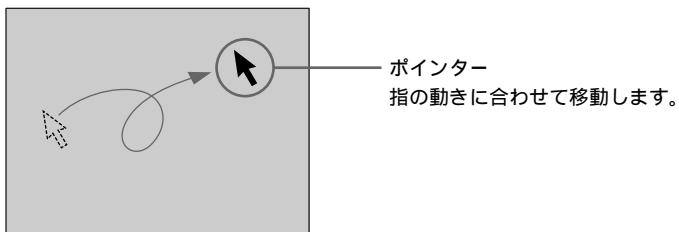
## 再起動するには

本機の設定を変更したり、アプリケーションソフトをインストールしたときなどは、本機を再起動する必要があります。

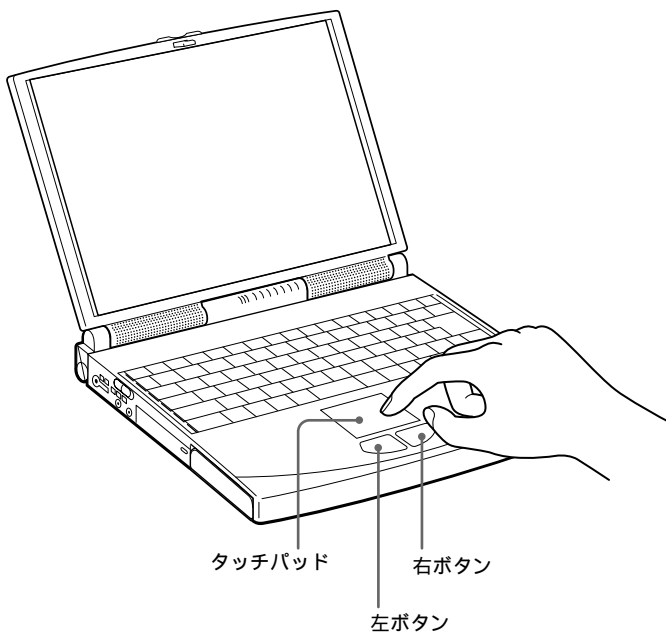
- 1 [スタート]ボタンをクリックする。  
「スタート」メニューが表示されます。
- 2 メニューの[ Windowsの終了 ]をクリックする。  
「Windowsの終了」ウィンドウが表示されます。
- 3 「再起動する」をクリックして選び、つぎに[ OK ]をクリックする。  
「Windowsを終了しています」と数秒間表示されてから、本機が再起動します。

# タッチパッドを使う

タッチパッドに触れて指を動かすと、画面上的ポインターも同じ方向に移動します。



ポインターを目的の位置まで動かして左または右のボタンを押すだけで、メニューを選んだりさまざまな命令をコンピューターに伝えることができます。



## クリックする

ポインターを希望の位置に合わせて、タッチパッドの手前にある左ボタンを1回押します。[OK]や[キャンセル]などのボタンを押したり、メニューを選ぶときなどに使います。

また、タッチパッドを指で1回軽くたたいても同じ働きをします。

## ダブルクリックする

ポインターを希望の位置に合わせて、左ボタンを2回続けて押します。ワードプロセッサや表計算などのソフトウェアを実行したり、作成した文書などのファイルを開くときなどに使います。

またタッチパッドを、2回続けて軽くたたか、2本の指で同時に1回軽くたたいても同じ働きをします。

## ドラッグする

ポインターを希望の位置に合わせて、左ボタンを押したまま、タッチパッド上で指を動かし、希望の位置でボタンを離します。ファイルを移動したり、ウィンドウの大きさを変更するときなどに使います。

また、タッチパッドを2回続けて軽くたたき、そのままタッチパッド上で指を動かして希望の位置で離しても同じ働きをします。

## 右クリックする

ポインターを希望の位置に合わせて、右ボタンを1回押します。

押したときのポインターの位置によって、さまざまな内容のポップアップメニューが表示されます。

また、タッチパッドを3本の指で同時に1回軽くたたいても同じ働きをします。

## スクロールする

指をタッチパッド上の右端に合わせて、上下に動かします。選択されているアプリケーション上の垂直方向のスクロールバーを移動できます。

また、指をタッチパッドの下端に合わせて、左右に動かします。選択されているアプリケーション上の水平方向のスクロールバーを移動できます。

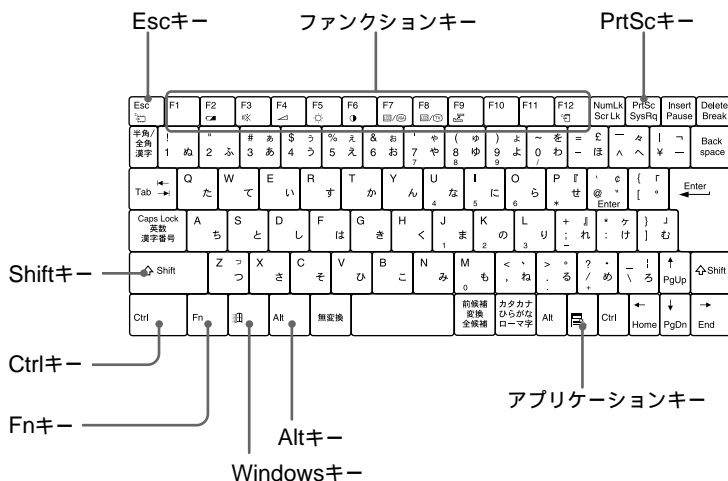


上記は工場出荷時の設定です。設定を変更したり、タッチパッドをより便利に使うには、「タッチパッドを便利に使う」(129ページ)をご覧ください。



# キーボードを使う

キーボードを使って文字や記号を入力したり、パソコンへ命令を送ることができます。ここでは、他のキーと組み合わせて使う、特殊なキーのなまえと機能を紹介します。

文字の入力のしかたについては、「文字を入力する」(30ページ)をご覧ください。



なまえ	機能
ファンクションキー	使用するソフトウェアによって動きが異なります。
Ctrl(コントロール)キー	文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。使用するソフトウェアによって動きが異なります。詳しくはソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。  例) Ctrlキーを押しながら、Sキーを押す。 メニューから「保存する」を選ばずに、ファイルを保存できます。

なまえ	機能
Alt(オルト)キー	<p>文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。オルタネートキーともいいます。</p> <p>使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくはソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。</p> <p>例)Altキーを押しながら半角/全角キーを押す。押すたびに入力する文字を漢字または英数字に切り換えます。</p>
Shift(シフト)キー	<p>文字キーと組み合わせて使うと、大文字を入力できます。また、文字キーと他の機能キーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。</p>
Windowsキー 	<p>Windows 98の「スタート」メニューが表示されます。</p> <p>他のキーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくはソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。</p> <p>「Windowsキーとの主な組み合わせと機能」(150ページ)をご覧ください。</p>
アプリケーションキー 	<p>タッチパッドの右ボタンを押したときと同じ働きをします。</p>
Fn(エフエヌ)キー	<p>キーボード上で紫色で表記されている機能を使うとき、このキーと組み合わせて押します。また、ファンクションキー(F1からF12キー)などと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。</p> <p>「Fnキーとの主な組み合わせと機能」(151ページ)をご覧ください。</p>
Esc(エスケープ)キー	<p>設定を取り消したり、実行を中止するときなどに押します。</p>
PrtSc(プリントスクリーン)キー	<p>表示されている画面を取り込みます。取り込んだ画像は「ペイント」などのソフトウェア上に貼りつけられます。詳しくはソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。</p>

# 文字を入力する

ここでは、文字の入力のしかたについて説明します。文字を入力するにはキーボードを使います。本機に付属している、「ワードパッド」という文章を作成するためのソフトウェアを使って、文字入力を練習してみましょう。

キーボード上の各キーの名前と働きについては、「キーボードを使う」(28ページ)をご覧ください。

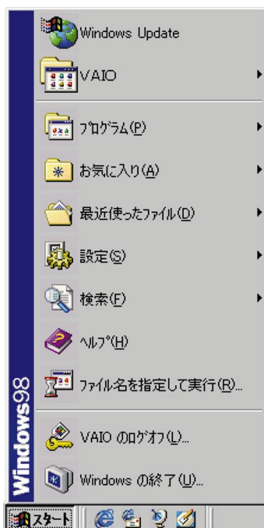
## 日本語入力を準備する

ここでは、ワードパッドを起動して、日本語を入力できるようにするまでの手順を説明します。

### 1 ワードパッドを起動する

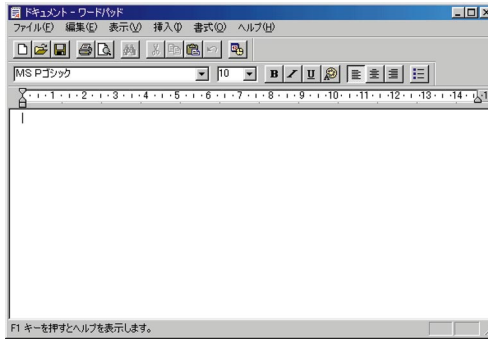
まず、ワードパッドを起動します。

- 1 [スタート]ボタンをクリックする。  
スタートメニューが表示されます。



- 2 [プログラム]をクリックして、ポインターを[アクセサリ]に合わせてから、[ワードパッド]をクリックする。

ワードパッドが起動し、文字を入力する画面が表示されます。

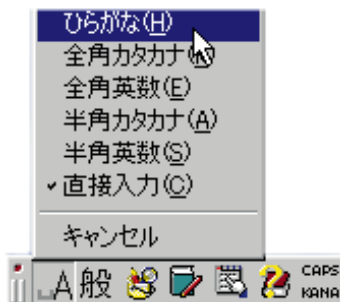


## 2 日本語入力を選ぶ

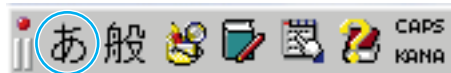
キーボード上の各キーにはアルファベットやひらがなが印刷されていますが、ただキーを押しても、漢字やカタカナは入力できません。日本語を入力するためには、画面に表示されているMS-IME98 ツールバーを使って、入力文字を切り換える必要があります。




- 1 MS-IME 98ツールバーの[ A ]をクリックする。  
文字入力選択メニューが表示されます。



- 2 [ ひらがな ] をクリックする。  
画面上に表示されているツールバーの表示が[ A ]から[ あ ]に変わり、日本語を入力できるようになります。



[ A ] から [ あ ] に変わる。

ツールバーが表示されていないときは  
タスクバーの右側にあるをクリックして、「ツールバーを表示」をクリックしま  
す。  
ツールバーについて詳しくは、付属のWindows 98の取扱説明書をご覧ください。

## 入力のしかたを選ぶ

日本語を入力する方法として、ローマ字入力方式とかな入力方式がありま  
す。お好みにあわせて、入力方法を選んでください。  
なお、お買い上げ時は、ローマ字入力に設定されています。

### ローマ字入力

キーボード上のアルファベットを組み合わせ、ローマ字で日本語を入力  
する方法です。1文字を入力するために2つのキーを組み合わせるので、操  
作が多少めんどうですが、英文タイプライターに慣れているかたはこちら  
が便利です。

### かな入力

キーボード上の各キーに印刷されているひらがなを使って、日本語を入力  
する方法です。1文字につき1つのキーを押せばよいので操作は楽ですが、  
50音それぞれのキーの配置を覚える必要があります。

### かな入力とローマ字入力を切り換える

MS-IME98 ツールバーの[ KANA ]をクリックするか、Ctrlキーを押しな  
がら英数キーを押す。

ローマ字入力とかな入力とが切り換わります。

かな入力



KANAの文字が  
押された状態



[ KANA ]をクリックするか、Ctrlキーを押しな  
がら英数キーを押す。

ローマ字入力



KANAの文字が  
押されていない状態

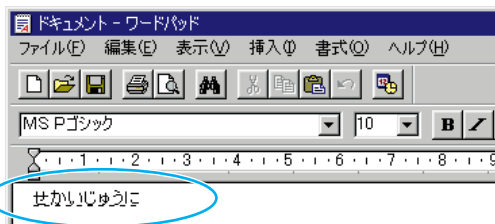


# 文字を入力する

ここでは、具体的な文字の入力のしかたを説明します。  
例として、「世界中にひろがったVAIOノート」という言葉を入力してみます。

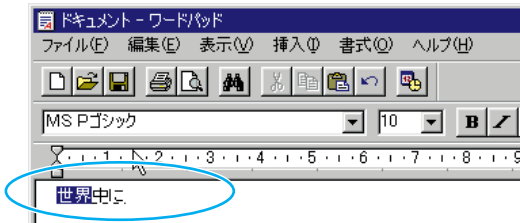
## 1 漢字を入力する

1 「世界中に」の読みを入力する。



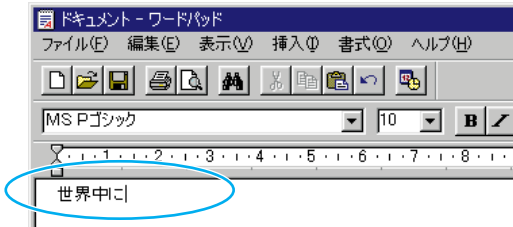
- ローマ字入力の場合  
S、E、K、A、I、J、U、U、N、Iの順にキーを押します。
- かな入力の場合  
せ、か、い、し、` (濁点)、ゆ (Shiftキーを押しながら「ゆ」を押します)、う、に、の順にキーを押します。  
キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

2 スペースキーを押す。



入力した読みに当てはまる漢字が表示されます。  
まちがった漢字が表示されたときは、正しい漢字が表示されるまで、  
何回かスペースキーを押します。

### 3 Enterキーを押す。



変換が確定します。

間違って入力したときは

次のキーを使って修正します。

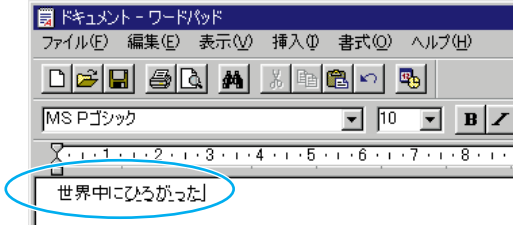
Backspaceキー：カーソルの直前の1字を消し、カーソルの位置が戻ります。

Deleteキー：カーソルのある位置の1字を消します。

Escキー：確定していない文字をすべて消去します。

## 2 ひらがなを入力する

### 1 「ひろがった」の読みを入力する。



- ローマ字入力の場合

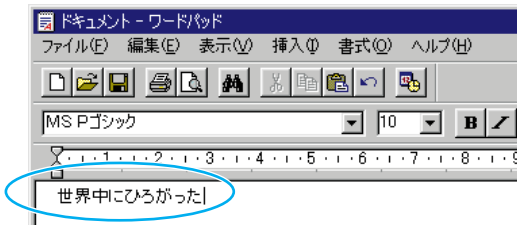
H、I、R、O、G、A、T、T、Aの順にキーを押します。

- かな入力の場合

ひ、ろ、か、`（濁点）つ（Shiftキーを押しながら「つ」を押します）た、の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

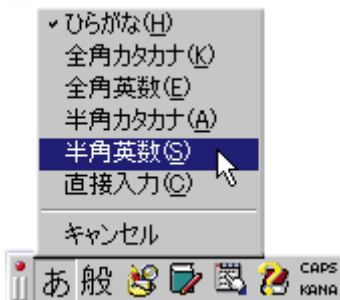
## 2 Enterキーを押す。



変換する必要がないので、スペースキーを押す必要はありません。

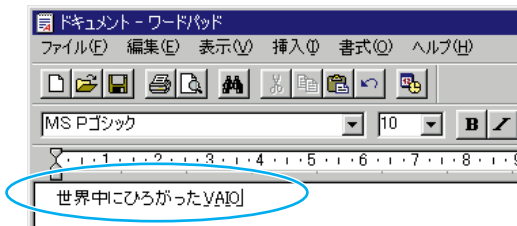
## 3 英字を入力する

- 1 MS-IME98 ツールバーの[あ]をクリックして、[半角英数]を選ぶ。



ツールバーの表示が[ A ]になり、アルファベットが入力できる状態になります。

- 2 Shiftキーを押しながら、V、A、I、Oの順にキーを押す。



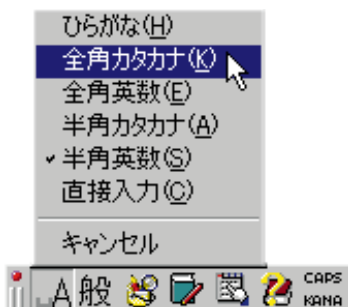
- 3 Enterキーを押す。



アルファベットの小文字や数字を入力するときは、Shiftキーを押す必要はありません。

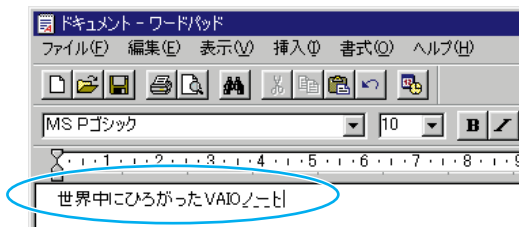
## 4 カタカナを入力する



- 1 MS-IME98 ツールバーの[ ㇿA ]をクリックして、[ 全角カタカナ ]を選ぶ。



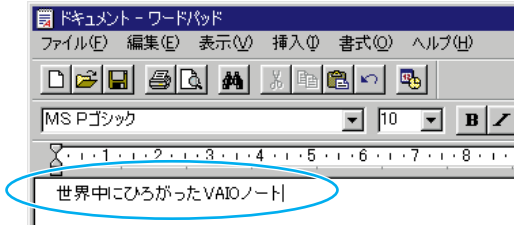
ツールバーの表示が[ カ ]になり、カタカナが入力できる状態になります。

- 2 「ノート」の読みを入力する



- ローマ字入力の場合  
N、O、- (長音、キー)、T、Oの順にキーを押します。
- かな入力の場合  
の、 (長音、キー)、との順にキーを押します。  
キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

### 3 Enterキーを押す。



変換する必要がないので、スペースキーを押す必要はありません。

これで「世界中にひろがったVAIOノート」と入力できました。  
キーボード上にない文字や記号の入力のしかたや、漢字に変換する文節の位置の調節のしかたなどについては、付属の「Microsoft Windows 98 ファーストステップガイド」の取扱説明書またはMS-IME98のヘルプをご覧ください。

# フロッピーディスクを使う

フロッピーディスクは、薄くて軽い、手軽に取り扱うことのできる記録メディアです。

ここでは、フロッピーディスクドライブの取り付けかたや、フロッピーディスクの取り扱いについて説明します。

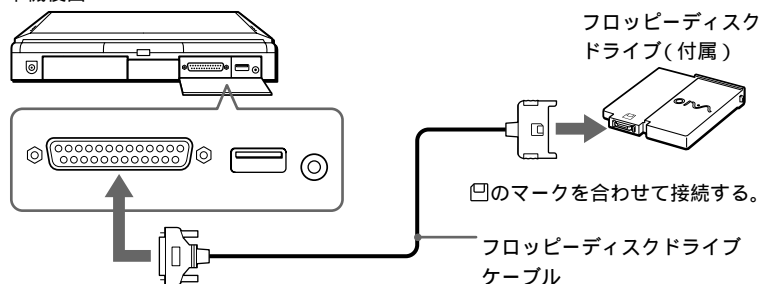
## フロッピーディスクドライブを取り付ける

本機はフロッピーディスクドライブを外付けドライブとして使うことも、マルチパーパスベイに内蔵することもできます。

### 外付けドライブとして使う

フロッピーディスクドライブケーブルを使って、フロッピーディスクドライブ(付属)を本機に接続します。

本機後面



FDD/PRINTERへ

- ①コネクターの上下を確認して、しっかり差し込む。
- ②コネクターの両わきのネジをしっかりとしめる。

### ご注意

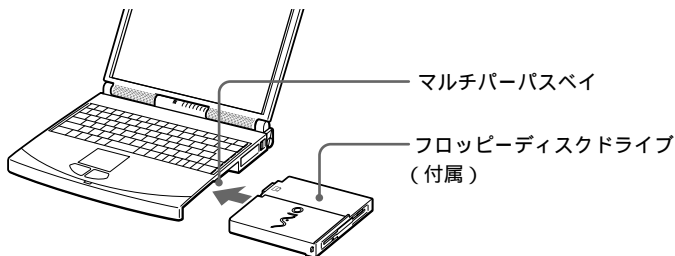
フロッピーディスクドライブを外付けドライブとして接続すると、2HD1.2Mバイトのフロッピーディスクの読み書きはできません。

電源を切ってからフロッピーディスクドライブを取り付けたときは電源を入れると、フロッピーディスクドライブは自動的に認識されます。

電源を切らずにフロッピーディスクドライブを取り付けたときは取り付けただけでは使えません。フロッピーディスクを使うためには、取り付けてから「Sony Notebook Setup」ソフトウェアでパラレルポートの設定を変更する必要があります。詳しくは、「パラレルポートの設定を変更する」(99ページ)をご覧ください。

## 内蔵ドライブとして使う

本機右側面のマルチパーパスベイにフロッピーディスクドライブを取り付けることもできます。電源を切ってから取り付けてください。なお、取り付けたあとの設定は必要ありません。



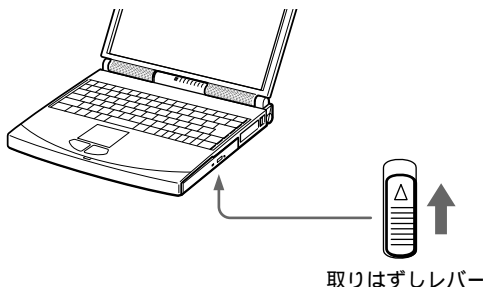
VAIOマークのある面を上にして挿入します。取りはずしレバーが確実にロックされるまで押し込んでください。

### ご注意

出荷時、本機のマルチパーパスベイにはCD-ROMドライブが取り付けられています。本機の電源を切ってCD-ROMドライブを取りはずしてから、フロッピーディスクドライブを取り付けてください。CD-ROMドライブを取りはずすには、「CD-ROMドライブを取りはずすには」(43ページ)をご覧ください。

### フロッピーディスクドライブを取りはずすには

電源を切ってから、フロッピーディスクドライブ底面の取りはずしレバーを矢印の方向(奥)にずらし、ディスクドライブを引き出します。

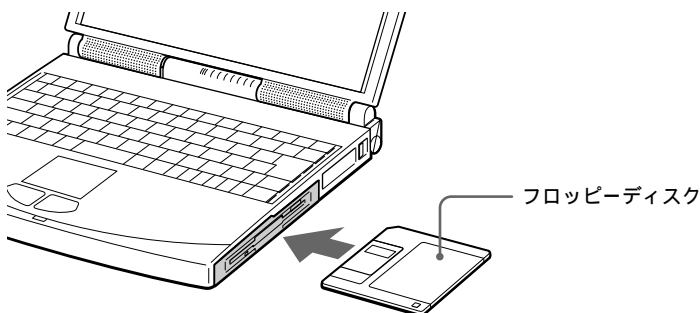


### ご注意

フロッピーディスクドライブを取りはずしたあとは、ウェイトセーバーをマルチパーパスベイに取り付けておいてください。ウェイトセーバーの取り付けかたについては、49ページをご覧ください。

## フロッピーディスクを入れる

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れます。



本機で使うフロッピーディスクは、あらかじめ初期化しておく必要があります。市販されているフロッピーディスクをお使いになるときは、「DOS/V 1.44MBフォーマット済」のものをご購入ください。初期化する必要がなくなります。

その他、本機で使えるフロッピーディスクについて詳しくは、次ページの「使用できるフロッピーディスク」をご覧ください。

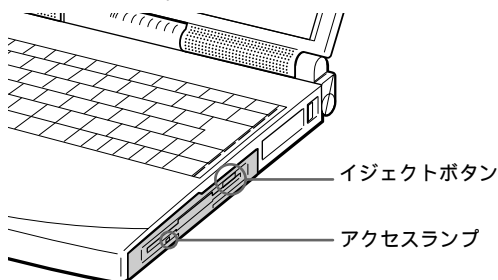
フロッピーディスクの初期化について詳しくは、Windows 98の取扱説明書をご覧ください。

### フロッピーディスクを取り出すには

ディスクドライブのアクセスランプが点灯していないことを確認してから、イジェクトボタンを押します。

#### ご注意

アクセスランプが点灯しているときにイジェクトボタンを押すと、ディスクの破損の原因となります。



イジェクトボタンを押してもフロッピーディスクが取り出せないときはフロッピーディスクドライブを取りはずして、VAIOテクニカルレスポンスセンターにご連絡ください。



## データを書き込み禁止にする

大切なデータを誤って消してしまうことのないように、フロッピーディスクには書き込み禁止のタブがついています。このタブを上下に動かして、フロッピーディスクを書き込み可能に、あるいは書き込み禁止にできます。

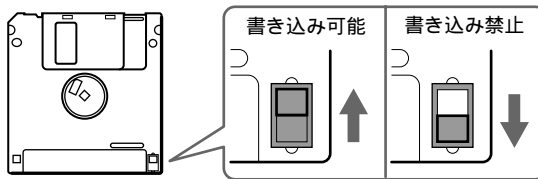
### □ 書き込み可能

データを書き込みが可能な状態です。

### □ 書き込み禁止

穴が見える位置にタブをスライドさせると、書き込み禁止の状態になります。データの読み出しはできますが、書き込みはできません。

フロッピーディスク裏面



## 使用できるフロッピーディスク

3.5型フロッピーディスクには、2HD(両面高密度)タイプと2DD(両面倍密度倍トラック)タイプのものがあり、フォーマットによって2HD 1.44Mバイト、2DD 720Kバイト、2HD 1.2Mバイトの3種類に分けることができます。

本機はこれらのフロッピーディスクに対応しています。

種類	本機でできること
2HD 1.44Mバイト	フォーマット、読み書きとも可。
2DD 720Kバイト	フォーマット、読み書きとも可。
2HD 1.2Mバイト*	読み書きとも可。 FORMAT、SYS、DRVSPACE(ドライブスペース) DISKCOPYコマンドは実行不可。

\* 2HD 1.2Mバイトタイプでは、フロッピーディスクドライブを外付けにしているときは読み書きとも不可です。

## ご注意

- データを保存するときは、2HD 1.44Mバイトまたは2DD 720Kバイトタイプのフロッピーディスクをご使用ください。
- 他のパソコンとデータのやりとりをする場合は、下記のフロッピーディスクをご使用ください。

データをやりとりしたいパソコンの フロッピーディスクドライブの種類	使用するフロッピーディスク
1.44Mバイトの フロッピーディスクドライブ	2HD 1.44Mバイトまたは 2DD 720Kバイト
1.2Mバイトの フロッピーディスクドライブ	2HD 1.2Mバイトまたは 2DD 720Kバイト

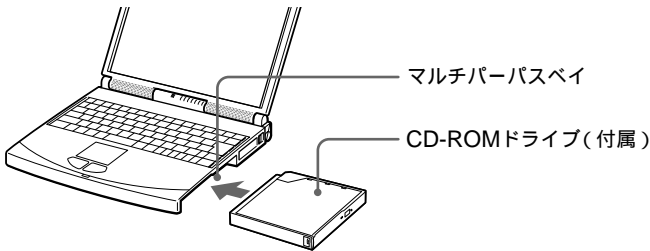
- 2HD 1.2Mバイトタイプのフロッピーディスクのデータを利用するときは、いったん2HD 1.44Mバイトタイプのフロッピーディスクへコピーしてから利用することをおすすめします。
- 市販のアプリケーションソフトはフロッピーディスクの種類に関係なく作られています。一部のソフトウェアには2HD 1.44Mバイトおよび2DD 720Kバイト専用で作られているものがあります。これらのソフトウェアから2HD 1.2Mバイトのフロッピーディスクに読み書きを行ったときは、一部の機能が正しく動作しない場合があります。

# CD-ROMを使う

CD-ROMは、コンピューターで扱うプログラムやデータを記録した、読みとり専用の記録メディアです。ここでは、CD-ROMドライブの取り付けかたや、CD-ROMの取り扱いについて説明します。

## CD-ROMドライブを取り付ける

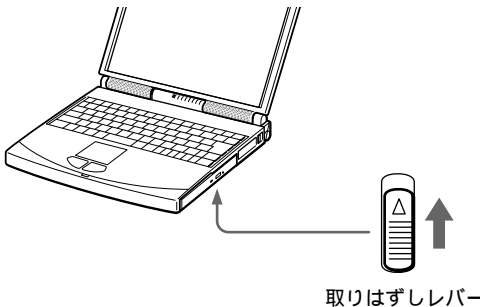
CD-ROMドライブ(付属)を本機のマルチパーパスベイに取り付けます。本機の電源を切ってから行ってください。



電源を入れると、CD-ROMドライブは自動的に認識されます。

## CD-ROMドライブを取りはずすには

本機の電源を切ってから、CD-ROMドライブ底面の取りはずしレバーを矢印の方向(奥)にずらし、ドライブを引き出します。



### ご注意

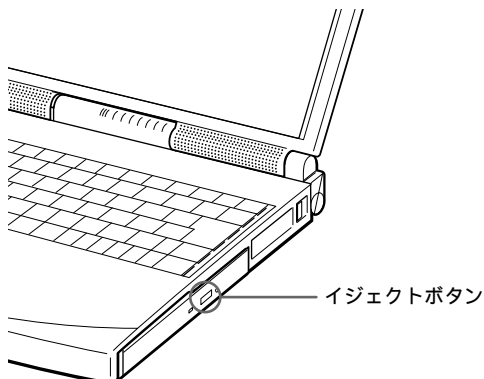
CD-ROMドライブを取りはずしたあとは、ウェイトセーバーをマルチパーパスベイに取り付けておいてください。

ウェイトセーバーの取り付けかたについては、49ページをご覧ください。

## ディスクを入れる

本機の電源を入れてから、CD-ROMを入れます。

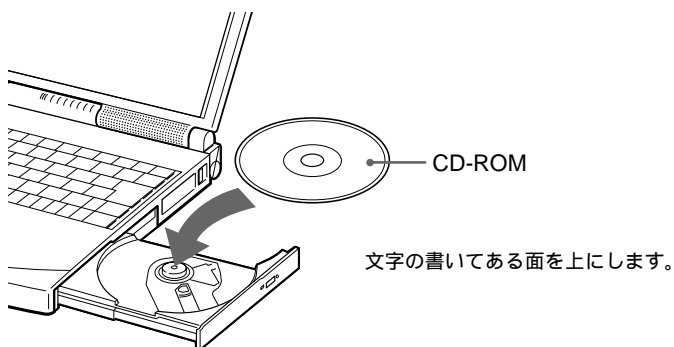
- 1 イジェクトボタンを押す。  
ディスクトレイがでてきます。



- 2 ディスクをトレイにのせ、トレイ下部を手で支えながら、トレイ中央の突起部にカチッと音がするまでディスクをはめ込む。

### ご注意

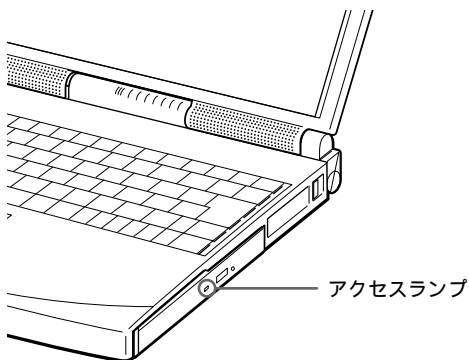
きちんとディスクをはめ込まないでトレイを閉じると、トレイが開かなくなることがあります。



- 3 ディスクトレイを軽く押して、トレイを閉める。

## ディスクを取り出すには

ドライブにあるアクセスランプが点滅していないことを確認してから、イジェクトボタンを押します。



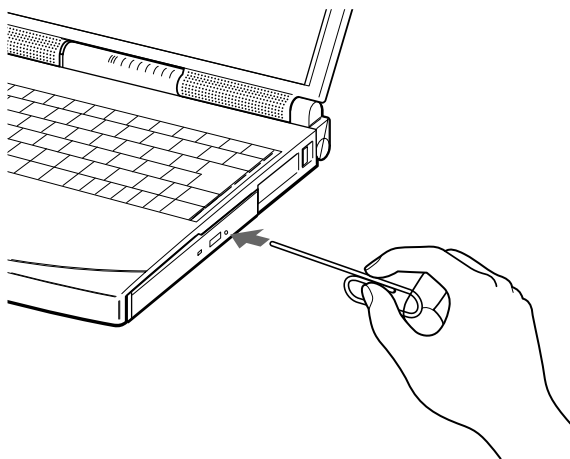
### ご注意

本機がシステムサスペンドモードまたはシステムハイバネーションモードのときは、ディスクを取り出せません。本機を通常の状態に復帰させてから、イジェクトボタンを押してください。

システムサスペンドモード、システムハイバネーションモードについて詳しくは、「バッテリーの消費電力を節約する」(108ページ)、「省電力動作モードについて」(112ページ)をご覧ください。

## イジェクトボタンを押してもディスクが取り出せないときは

針金のようなもの(太めのクリップで代用可)を、マニュアルイジェクト穴に押し込んでください。



## 使用できるディスク

本機のCD-ROMドライブで再生できるディスクは以下の通りです。

ディスクの種類	マーク
CD-ROM	
音楽CD	
CD Extra	
ビデオCD	 
フォトCD	_____
電子ブック	

### ご注意

本機ではCD(円形ディスク)のみお使いいただけます。

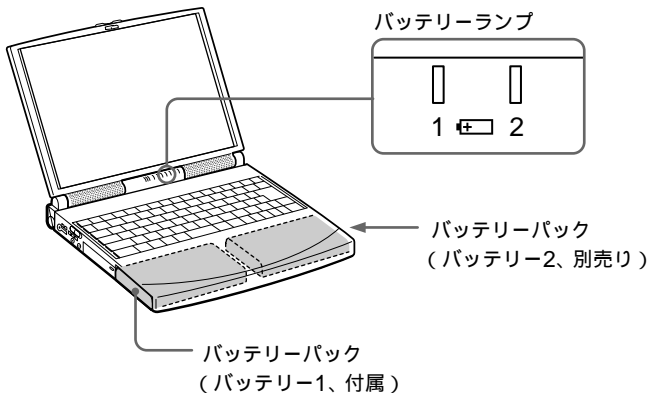
円形以外の特殊な形式(星型、ハート型など)をしたディスクを使用すると、本機の故障の原因となります。

# バッテリーで使う

充電したバッテリーパックを本機に装着していると、AC電源につながなくても本機を使えます。付属のバッテリーパックに加えて、別売りのバッテリーパックを取り付けることもできます。

## ご注意

- 出荷時に装着されているバッテリーは完全には充電されていないため、はじめてお使いになるときからバッテリーが消耗している状態になっていることがあります。
- バッテリーの残量が5～7%になると、自動的にシステムハイバネーションモードになりますが(工場出荷時の設定)、このとき、作業中の文書が失われることがあります。バッテリー使用時のモードについて、詳しくは「省電力動作モードについて」(112ページ)をご覧ください。



## バッテリーランプについて

本機の動作状態を示します。

点灯	バッテリー動作中
1秒おきに1回点滅	バッテリーの残量が少ない状態
2秒おきに2回点滅	バッテリー充電中
消灯	バッテリー切れ、またはAC電源で動作中

### □ バッテリーランプ1

本機左側面に取り付けたバッテリーの状態を示します。

### □ バッテリーランプ2

本機右側面のマルチパーパスベイに取り付けたバッテリーの状態を示します。

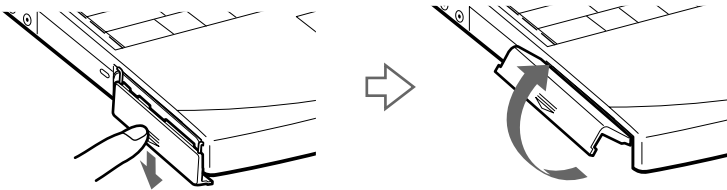


- 完全に充電したバッテリーで本機を約2~4時間使用できます。バッテリーの使用可能時間は、本機の使用状況により変わることがあります。バッテリーの使用時間について詳しくは、「バッテリーの残量を確認する」(114ページ)をご覧ください。
- AC電源につないでいるときは、バッテリーパックを装着しているときでも、AC電源から電源が供給されます。
- バッテリーで長時間使うには  
付属の「PowerPanel」ソフトウェアを使って本機の動作モードをスタミナモードに変更することで、バッテリーの使用時間をのばすことができます。詳しくは「バッテリーの消費電力を節約する」(108ページ)をご覧ください。
- バッテリーの残量を確認するには  
付属の「BatteryScope」ソフトウェアを起動すると、バッテリーの残量と放電予想時間を確認できます。詳しくは「バッテリーの残量を確認する」(114ページ)をご覧ください。

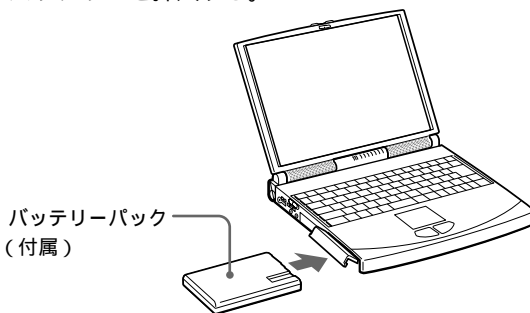
## バッテリーパックを取り付ける

本機左側面のバッテリーベイにバッテリーパックを取り付けます。

### 1 バッテリーベイのふたを開ける。



### 2 バッテリーを挿入する。

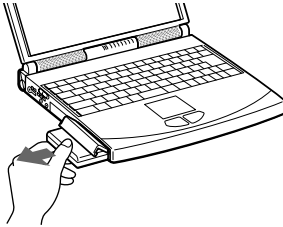


ラベルのない面を上にして挿入します。



- 3** バッテリーベイのふたを閉じる。  
カチッと音がするまでしっかりと閉じてください。

バッテリーパックを取りはずすには  
バッテリーベイのふたを開けて、バッテリーを引き出します。



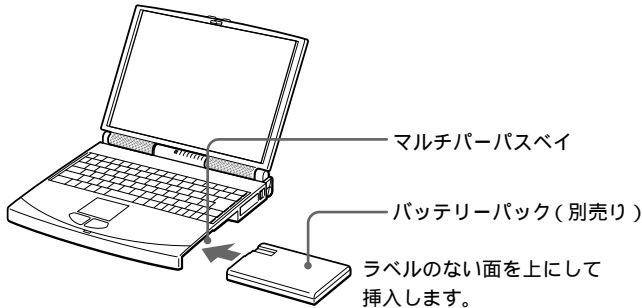
**ご注意**

ACアダプターをつないでいない状態で、パワーランプが点灯または点滅しているとき（電源オンまたはシステムサスペンドモード時）にバッテリーを取りはずすと、作業中のデータが失われます。

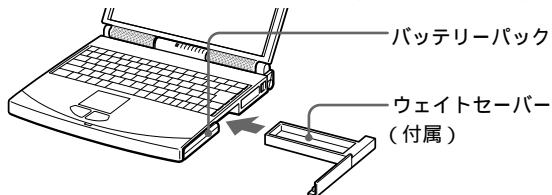
## セカンドバッテリーパックを取り付ける

付属のバッテリーに加えて、別売りのバッテリーパックを取り付けると、バッテリーでの使用時間が約2倍になります。

- 1** 本機右側面のマルチパーパスベイにバッテリーを取り付ける。

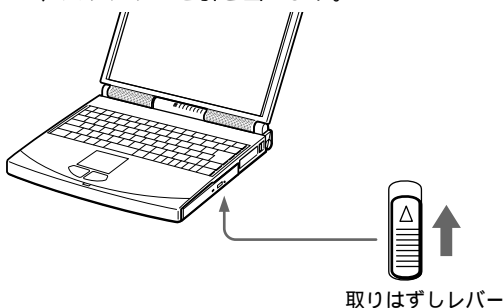


- 2** ウェイトセーバー（付属）を取り付ける。  
ウェイトセーバーはバッテリーを固定するために必要です。



## バッテリーパックを取りはずすには

ウェイトセーバーの底面にある取りはずしレバーを矢印の方向(奥)にずらし、バッテリーを引き出します。



### ご注意

バッテリーパックを取りはずしたあとは、ウェイトセーバーをマルチパーパスベイに取り付けておいてください。

ウェイトセーバーの取り付けかたについては、49ページをご覧ください。

## バッテリーを充電する

本機をAC電源につないでいれば、本機を使ってもバッテリーは充電されます。充電中は、バッテリーランプがゆっくりした周期で2度連続点滅します。


本機を使用しながら充電した場合、バッテリーの残量が空の状態から充電されるまでに約2時間かかります(85%充電、使用状況による)。

バッテリーが85%まで充電されると、バッテリーランプは消灯します。85%まで充電されたバッテリーは、約1時間後に完全に充電されます。

### 本機に2つのバッテリーを取り付けているときは

最初に取り付けたバッテリーから充電されます。バッテリーの充電が85%まで完了したら、次に取り付けたバッテリーが充電されます。

どのバッテリーが充電されているかは、本機のバッテリーランプで確認してください。

 ドッキングステーションでも充電できます

別売りのドッキングステーションでもバッテリーを充電できます。詳しくは、PCGA-DB8/DH8の取扱説明書をご覧ください。

# VAIOを使いこなす

## インターネットを楽しむ

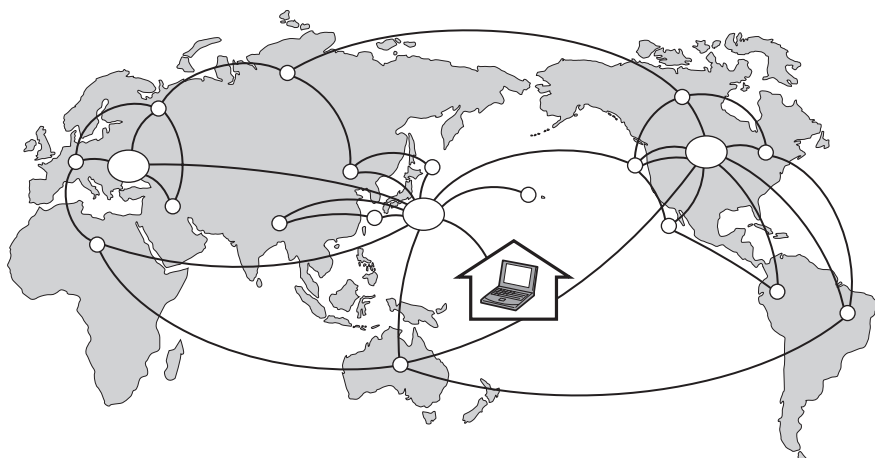
本機には電話回線に接続して通信を行うためのモデムが内蔵されているので、電話線につないでインターネットを楽しむことができます。

### 「インターネット」とは？

世界中のコンピューターがつながった、地球規模のネットワークのことです。インターネットにつながったパソコンを使うことで、世界中の情報を入手したり、世界にむけて自分の情報を発信したりすることができます。電子メールを利用すれば、ほとんど同時に国内だけでなく、世界中の友人・知人に連絡を取ることもできます。

インターネットを利用して、以下のようなことができます。

- ホームページを見る
- 自分のホームページをつくって公開する
- 電子メールをやり取りする
- オンラインショッピングをする



## インターネットを楽しむには

世界中の情報に接することのできるインターネットですが、インターネット自体は電話線のように、ケーブルがつながったものでしかありません。情報を受け取ったり、発信したりするためには専用のソフトウェアが必要になります。

また、電話回線を通してインターネットにつなぐために、インターネットサービスプロバイダー(以下、「プロバイダー」と略します)という接続業者と契約する必要があります。

### プロバイダーについて

現在では数多くのプロバイダーがありますので、料金やサービスの内容をご検討のうえで、ご自分にあったプロバイダーと契約するようおすすめします。料金やサービスの内容について詳しくは、それぞれのプロバイダーにお問い合わせください。また、契約時にクレジットカードが必要になるプロバイダーもあります。クレジットカードをお持ちでないときは、クレジットカードなしで契約できるプロバイダーをお探してください。

### 準備1 電話線につなぐ

本機に内蔵しているモデムを電話線につなぎます。  
詳しくは「内蔵モデムを電話回線につなぐ」(74ページ)をご覧ください。

### 準備2 インターネットサービスプロバイダーと契約する

接続の契約をしていない方のために、本機にはソニーコミュニケーションネットワーク(株)の運営する、So-netのスターターキットが付属しています。このスターターキットを利用すると、契約とそのあとの設定をより簡単に行えます。詳しくは付属のSo-netオンラインサインアップソフトウェアのヘルプをご覧ください。

### 準備3 接続のための設定をする

プロバイダーと契約したあとの設定内容は、プロバイダーの指示にしたがってください。

## 外出先でインターネットにアクセスする

ここでは、外出先でインターネットにアクセスする方法の概略を説明します。外出先でアクセスできるようにしておくと、外出先でどうしても電子メールを送信したいときや、電子メールを確認したいときに便利です。

外出先でインターネットにアクセスするには、4通りの方法があります。

- 公衆電話を使ってアナログ接続する
- 公衆電話を使ってISDN接続する
- デジタル携帯電話を使って接続する
- PHS電話機を使って接続する

公衆電話機を使ってアクセスする



デジタル携帯電話機やPHSを使ってアクセスする



## 公衆電話機を使ってアナログ接続する

本機はモデムを内蔵しているので、モジュージャックのある公衆電話に直接つなげます。

テレホンコードとモジュージャック付きの電話機さえあれば、どこからでもアクセスできますが、アナログ接続のため、使用する電話機によってはすぐに接続が切れてしまうことがあります。

- 1 本機と電話機をテレホンコードでつなく。
- 2 電話機の「データ通信」ボタンを押す。
- 3 テレホンカードを入れる。
- 4 通信用のソフトウェアを起動する。  
これでインターネットにアクセスできます。

通信を終了するときは

次の2つの方法があります。使用するソフトウェアにあわせて使い分けてください。

- タスクバーの通信インジケータをタッチパッドの右ボタンでクリックして、ショートカットメニューを表示させてから、[切断]を選ぶ。
- 通信用ソフトウェアで、通信を終了するコマンドを実行する。

## 公衆電話を使ってISDN接続する

ISDNのTA(ターミナルアダプター)カードを本機に装着してモジュージャックのある公衆電話につなぐと、外出先でもISDN経由で接続できます。

通信速度が速く(最大64kbps)、安定した状態でアクセスできますが、市販のISDNのターミナルアダプターカードが必要です。

### ご注意

アクセスしようとしているプロバイダーがISDNに対応しているかどうかをあらかじめ確認しておいてください。プロバイダーによっては通常のアナログ接続用とISDN接続用で、異なる電話番号を用意していることがあります。

## デジタル携帯電話機を使って接続する

本機をデジタル携帯電話機に接続して、インターネットにアクセスできます。

デジタル携帯電話機が使えるところではどこからでも、また移動中でもアクセスできますが、通信速度が遅く（9600 bps）、携帯電話機にあわせた接続キットが必要です。

### ご注意

接続キットや接続のしかたについて詳しくは、電話会社にお問い合わせください。

## PHS電話機を使って接続する

本機をPHS電話機に接続して、インターネットにアクセスできます。

通信速度が速く（最大32kbps）、PHS電話機が使えるところではどこからでもアクセスできますが、PHS電話機にあわせた接続キットが必要です。また、PIAFS方式で接続するときは、契約しているプロバイダーなどがPIAFSに対応している必要があります。

### ご注意

- 接続キットや接続のしかたについて詳しくは、電話会社にお問い合わせください。本機のPCカードスロットに直接装着できるPHS電話機もあります。
- PIAFS方式でアクセスするときは、接続しようとしている電話番号がPIAFS方式に対応しているかどうかをあらかじめ確認しておいてください。

# 電話 / ファックスを使う

本機に電話回線をつなぐと、普通の電話と同じように電話をかけ、相手と話せます。また、本機に内蔵しているモデムはファックスにも対応していますので、電話回線をつないでファックスを送受信することもできます。電話をかけたりファックスを送ったりするためには、付属の

「Communication Center」ソフトウェアを使用します。

電話回線へのつなぎかたについては、「内蔵モデムを電話回線につなぐ」(74ページ)をご覧ください。

ここでは、① 電話をかける、② 電話を受ける、③ 留守番電話として使う、④ ファックスを送信する、⑤ ファックスを受信する、という基本的な使いかたのみ説明します。

機能の詳細な説明や制限事項などについては、「Communication Center」に付属しているヘルプをご覧ください。

## 電話 / ファックスを準備する

本機で電話 / ファックスを使うためには、本機を電話回線につないでから、「Communication Center」ソフトウェアを起動する必要があります。

### 1 本機を電話回線に接続する。

電話回線へのつなぎかたについて詳しくは、「内蔵モデムを電話回線につなぐ」(74ページ)をご覧ください。

### 2 [スタート] ボタンをクリックして、ポインターを[プログラム] に合わせ、[Communication Center] を選び、[Communication Centerの起動] をクリックする。

「Communication Center」ソフトウェアが起動し、「セットアップウィザード」が表示されます。

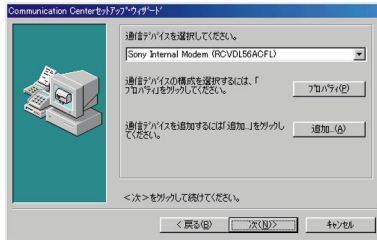




### 3 [次>]をクリックする。

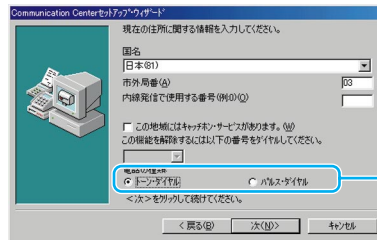
画面の指示にしたがって必要な情報を入力し、[次>]をクリックします。

前の画面を見るには、[<戻る]をクリックします。



### 4 電話の種類を選ぶ。

お使いの電話回線の種類を選びます。



お使いの電話回線がプッシュホン回線のときは[トーンダイヤル]を、ダイヤル回線のときは[パルスダイヤル]をクリックして選びます。

### 5 電話番号を入力する。

自宅電話番号を入力します。勤務先電話番号、ファックス番号は必要がなければ空欄のままでもかまいません。



引き続き画面の指示にしたがって必要な情報を入力します。

## 6 応答の設定をする。

応答メッセージや、自動応答するまでの呼び出し回数などを設定します。



## 7 [終了]をクリックする。

画面の指示に従ってすべて入力したら、[終了]をクリックします。



これで電話をかけたリファックスを送受信できるようになりました。

## 電話をかける

59ページの「電話 / ファックスを準備する」が終わったら、電話をかけてみましょう。

- 1 画面上の電話番号ボタンをクリックして、相手先の電話番号を入力する。

電話番号はキーボードでも入力できます。



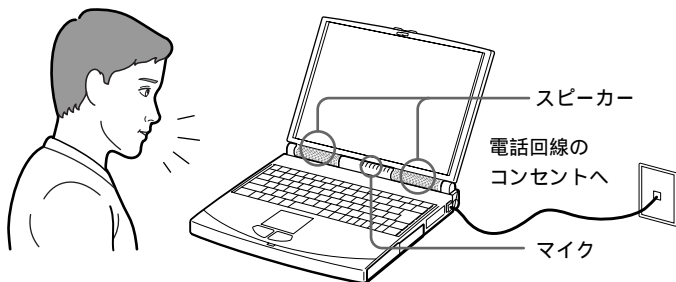
電話番号を入力すると、左下の「SPEAKER PHONE」ボタンが「DIAL」ボタンに変わります。

- 2 [DIAL]をクリックする。

手順1で指定した電話番号に自動的にダイヤルします。

ダイヤルを始めると、左下の「DIAL」ボタンが「HANGUP」ボタンに変わります。

- 3 相手が電話に出たら、本機に内蔵のマイクに向かって話す。



相手の音声は内蔵スピーカーから聞こえます。受話器を取る必要がないので、キーボードを操作していて手がふさがっているときでも話せます。

## 電話を切るには

画面左下の[HANGUP]をクリックします。

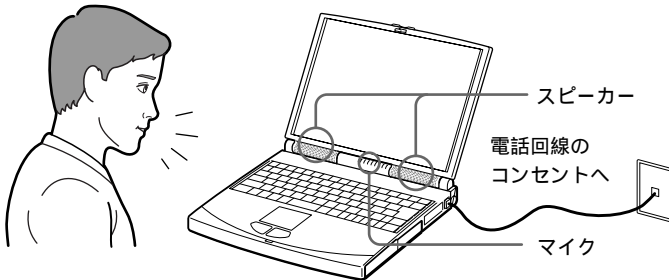
## 電話を受ける

本機で電話を受けることもできます。

- 1 画面左下の[ ANSWER ]をクリックする。  
電話がかかってくると、画面左下の「SPEAKER PHONE」ボタンが「ANSWER」ボタンに変わります。



- 2 本機に内蔵のマイクに向かって話す。



相手の音声は内蔵スピーカーから聞こえます。受話器を取る必要がないので、キーボードを操作していて手がふさがっているときでも話せます。

### 留守番電話として使う

電話がかかってくると、すでに設定されているメッセージまたはご自分で録音したメッセージで自動応答します。ファックスのみに応答することなどもできます。

詳しくは、「Communication Center」のヘルプをご覧ください。  
留守番電話として使うには、以下の準備を行っておいください。

- 1 本機にACアダプターをつなぐ。

## 2 自動的に本機がシステムハイバネーションモードにならないように設定する。

「PowerPanel」ソフトウェアを使って設定します。詳しくは、「PowerPanel」のヘルプをご覧ください。

工場出荷時の設定では、ACアダプターをつないでいるときはシステムハイバネーションモードにはなりません。

### ご注意

留守番電話録音機能を使用したときに、相手のメッセージの始めの部分(約1秒)を録音できないことがあります。あらかじめご了承ください。

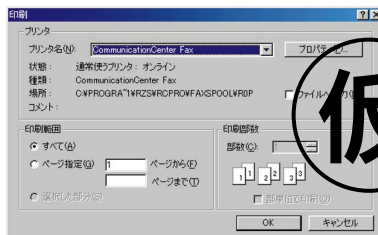
## ファックスを送信する

本機でファックスを送信できます。本機で作成したり、本機に読み込んだりした文書を、そのままファックスとして送れるため、印刷する手間と紙を節約できます。

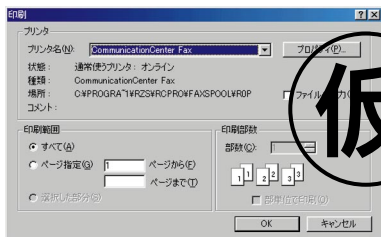
ここでは、アプリケーションソフトウェアで作成した文書を直接ファックスで送る手順を説明します。

- 1 ワープロなどのアプリケーションソフトウェアで、ファックスで送りたい文書を作成する。
- 2 文書を作成したアプリケーションソフトウェアで、[印刷](または[プリント])など文書を印刷するためのコマンド)を実行する。「印刷」が表示されます。

ワードパッドでの例



- 3 [プリンタ名]をクリックして、[Communication Center Fax]を選び、[OK]をクリックする。



Communication Centerが起動し、「ファックス送信」が表示されません。

- 4 相手先の氏名と電話番号を入力する。

- 5 [ファックス送信]をクリックする。

ファックス送信が始まります。

送信をやめるときは、[キャンセル]をクリックします。

## ファックスを受信する

ファックスを受信するときは、送られてきたファックスを画像データとして直接受け取るため、あとでファックスを見ながら必要な内容をパソコンに入力する手間が省けます。

本機は電話がかかってくると、自動的にファックスを受信します。

通話中でもファックスを受信できます。詳しくは、「Communication Center」のヘルプをご覧ください。

### ご注意

受け取ったファックスは画像データとして取り扱われます。そのため、ファックス中の文字をそのまま文字テキストとして利用することはできません。



- 「Communication Center」は、内蔵モデムを電話回線につないでいるときのみ使用できます。
- 携帯電話やPHSをつないでファックスを送信するときは、お使いの電話機に対応した通信用PCカードおよびPCカードに付属、または推奨しているソフトウェアが別途必要です。詳しくは、お持ちの携帯電話またはPHSの販売店にご相談ください。

## 他の機器とデータをやりとりする

本機で作成したデータを他機に送ったり、他機で作成したデータを本機で受け取ったりすることができます。自宅や職場などで複数のパソコンをお使いのときは、作成したデータをやりとりすることで、本機をより活用いただけます。また、データ交換の方法を工夫することで、Macintoshなど、Windowsが動作しない機種とデータをやりとりすることもできます。

例えば...

外出するときに、必要なデータだけを職場のデスクトップパソコンから本機に読み込んで、外出先でデータを修正します。職場に戻ってから、本機で修正したデータをデスクトップパソコンに戻して、データを加工したり保存したりできます。

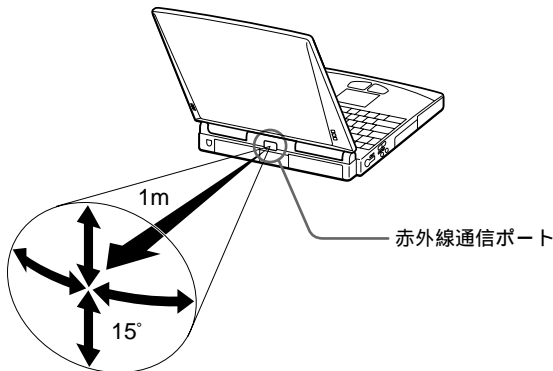
ここでは、データ交換で使われている、以下の方法について説明します。

- 赤外線 (IrDA) を使ってやりとりする
- シリアルケーブルを使ってやりとりする
- ネットワークを使ってやりとりする
- PCカードを使ってやりとりする

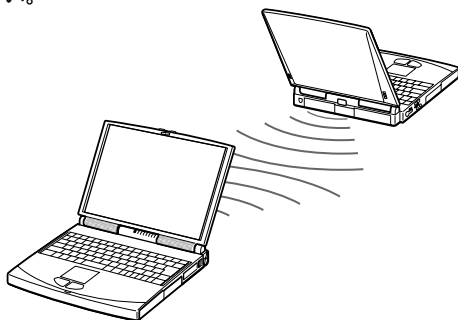
### 赤外線 (IrDA) でデータをやりとりする

本機後面の赤外線通信ポートを使って、IrDA対応の赤外線通信ポートの付いた他の機器とデータをやりとりできます。ケーブルをつなぐずにデータの送受信ができるため、ケーブルをつなぐ手間が省けるうえに、ケーブルを使ったときに比べて短時間でデータをやりとりできます。

パソコンだけでなく、赤外線通信ポートを持っている機器であればデータをやりとりできます。例えば、ソニー製のデジタルスチルカメラDSC-F1/F2/F3にもIrDA対応の赤外線通信ポートがついているため、本機と赤外線ですべてデータをやりとりできます。



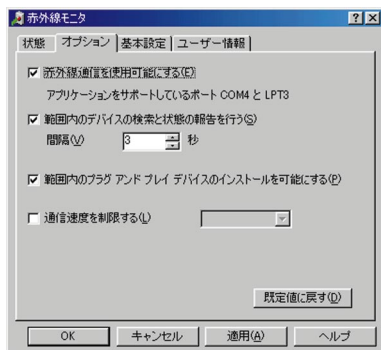
他のノートパソコンとデータをやりとりするときは、下図のように配置してください。



## 赤外線でデータをやりとりするには

工場出荷時の設定では、赤外線でデータをやりとりすることができません。次の操作を行って、赤外線通信が使えるようにしてください。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[設定]にポインターを合わせ、[コントロールパネル]をクリックする。
- 2 [コントロールパネル]の中の[赤外線モニタ]をダブルクリックする。
- 3 [オプション]タブをクリックし、「赤外線通信を使用可能にする」をチェックする。



- 4 [OK]をクリックする。



**ご注意**

- 赤外線通信が使える状態では、一定時間ごとに通信相手を探すため、本機の省電力機能が働かなくなり、バッテリーの消耗が早まります。バッテリーの消耗を防ぐため、データのやりとりが終わったあとは、上記手順3のチェックをはずしておくことをおすすめします。
- タスクトレイの赤外線モニターアイコンを右クリックして、赤外線通信の設定を変更しないでください。上記手順3で設定するか、タスクトレイの赤外線モニターアイコンを左クリックし、赤外線モニターを起動して設定してください。
- 内蔵ハードディスク以外のデバイス(内蔵CD-ROM、PCカードに接続したCD-ROM、ハードディスクなど)と赤外線通信で直接データをやりとりするときは、システムサスペンドまたはシステムハイバネーションのタイマー設定をオフにしてください。大きなファイルをうまくやりとりできないことがあります。

実際にデータをやりとりするには、付属の「Intellisync for Windows」ソフトウェアを使います。操作方法について詳しくは、「Intellisync for Windows」のヘルプをご覧ください。

**ご注意**

データを正しく送受信するために、赤外線線でデータをやりとりするときは、以下の点にご注意ください。

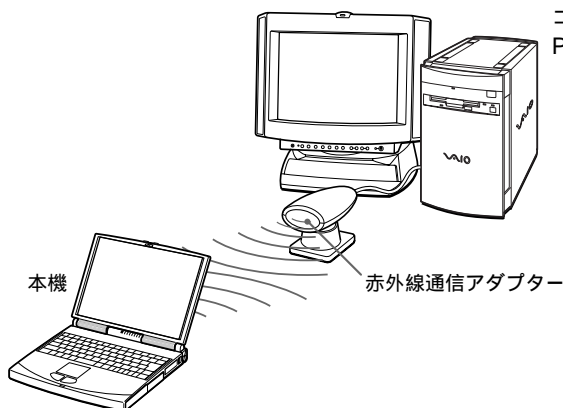
- 通信を行う機器を近づけ過ぎない。
- 赤外線通信ポートは真正面を向き合うように配置する。
- 赤外線通信ポート間に物を置かない。
- 強い直射日光の当たる場所や、インバーター蛍光灯の下では赤外線通信を避ける。



赤外線通信ポートのない機器でも、別売りの赤外線通信アダプターを取り付けると、本機と赤外線線でデータをやりとりできるようになるものもあります。

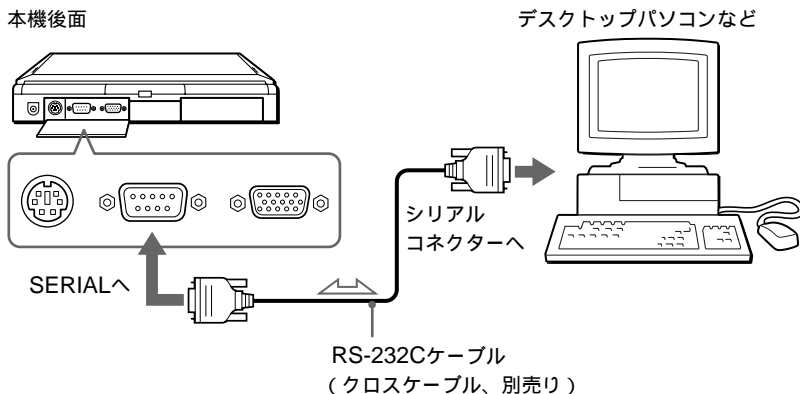
詳しくは、お持ちの機器の販売店にご相談ください。

ソニーデスクトップ  
コンピューター  
PCV-S600など



## シリアルケーブルを使ってデータをやりとりする

本機とデスクトップパソコンなどを接続ケーブルを使って接続して、データをやりとりできます。赤外線通信に比べて通信に多少時間はかかりますが、シリアルコネクターのある機器とならRS-232Cケーブル1本でデータをやりとりできます。



### ご注意

- 接続ケーブルをつなぐときは、本機と接続する機器および周辺機器の電源を切ってから接続してください。
- 電源を入れるときは、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- RS-232Cケーブルは、クロスケーブルをお使いください。ストレートケーブルでつないでも、データをやりとりできません。
- RS-232Cケーブルを購入されるときは、コネクターの形状に十分ご注意ください。

## ネットワーク(LAN)につないでデータをやりとりする

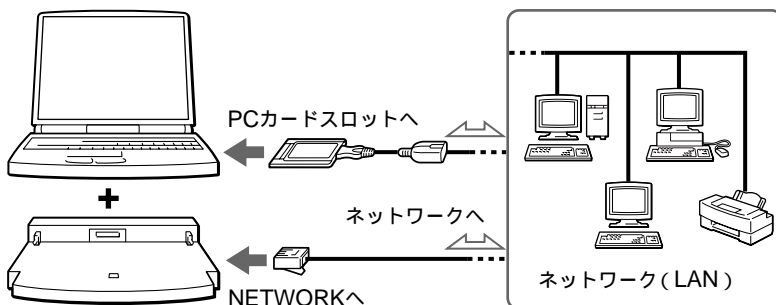
本機を職場などのネットワーク(LAN)に接続して、ネットワーク内の他の機器とデータをやりとりできます。

本機とネットワークをつなぐには、ネットワークPCカードが必要です。この場合、接続したいネットワークに合わせた種類のネットワークカードをお使いください。

また、本機にネットワークドッキングステーションを装着しているときは、ネットワークドッキングステーション後面のNETWORKコネクターを使って、10BASE-Tタイプのイーサネットのネットワークに接続できます。ドッキングステーションについて詳しくは、PCGA-DB8/DH8の取扱説明書をご覧ください。

ネットワークに接続するために必要な周辺機器や設定については、職場などのネットワークのシステム管理担当者にご相談ください。

本機



ネットワーク  
ドッキングステーション

#### ご注意

- 本機用のドッキングステーションは、PCGA-DB8/DH8のみです。
- ネットワーク機能が使用できるのは、PCGA-DB8のみです。

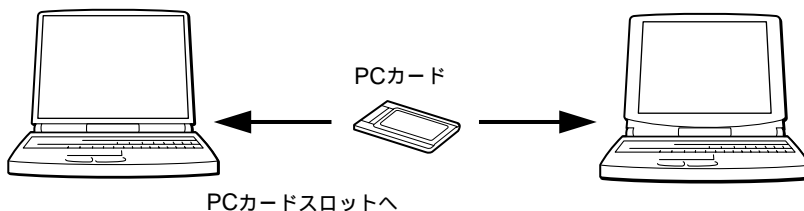
## PCカードを使ってデータをやりとりする

PCカードを使って、PCカードに対応した機器とデータをやりとりできます。PCカードについて詳しくは、「PCカードを使う」(91ページ)をご覧ください。

本機やPCカードに対応した機器で作成したデータをメモリーカードに保存して、データをやりとりできます。

本機

ノートブックパソコンなど



PCカードスロットへ

# 音楽CD / ビデオCDを再生する

音楽CDやビデオCDを再生して楽しむことができます。音楽CDを再生して音楽を聞きながら、他のソフトウェアを操作することもできます。(一部ソフトウェアを除きます。)また、本機をシステムサスペンドモードに設定すると、音楽CDを長時間再生できます。

## Digital Media Parkで音楽CD / ビデオCDを再生する

「Digital Media Park」を使うとMIDIファイルなどの音声・動画ファイルを再生することもできます。「Digital Media Park」を使うには以下の流れに沿って行います。

画面上の「AV再生の設定」アイコンをダブルクリックする  
「Digital Media Park」を設定するための画面が表示されます。

画面の指示に従って操作する

画面の指示に従って必要な項目を設定します。

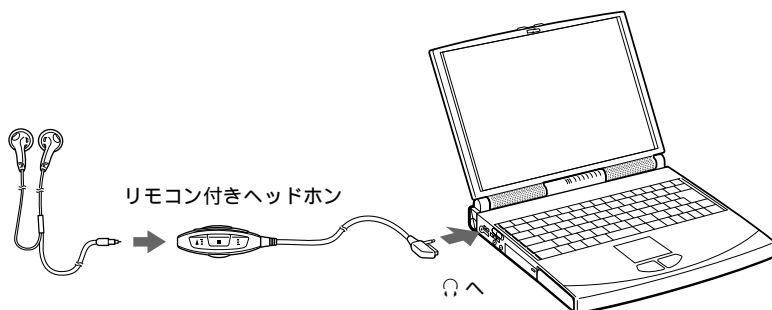
再生する

設定が終了すると、画面上部に「Digital Media Park」の中の「Media Bar」操作画面が表示されます。「Digital Media Park」の使いかたについては、「Digital Media Park」の取扱説明書をご覧ください。

## CDを長時間聞くには

本機がシステムサスペンドモードのとき(112ページ)は、付属のリモコン付きヘッドホンを使って音楽CDを長時間再生できます。再生時間は完全に充電されたバッテリーが取り付けられているとき、約6～7時間です。この再生方法では、本機の操作をしながら音楽CDを聞くことはできません。本機を操作しながら聞きたいときは「Digital Media Park」ソフトウェアを使います。

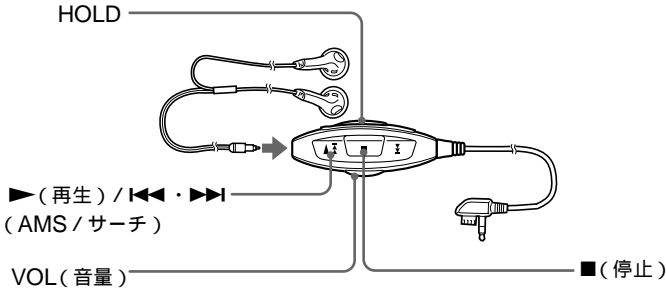
- 1 リモコン付きヘッドホンを実機に取り付ける。



- 2 Fnキーを押しながら、Escキーを押す。  
本機がシステムサスペンドモードに入ります。
- 3 リモコンの■ボタンを押す。
- 4 CD-ROMドライブのイジェクトボタンを押す。  
ディスクトレイがでできます。
- 5 聞きたい音楽CDをのせて、ディスクトレイを軽く押す。  
ディスクトレイが閉まります。
- 6 リモコンの▶ボタンを押す。  
再生が始まります。  
再生をやめるときは、■ボタンを押してからCD-ROMドライブのイジェクトボタンを押して、音楽CDを取り出します。

システムサスペンドモードから通常の動作モードに戻すには  
いずれかのキーを押します。

## リモコンの使いかた



操作	押すボタン
今聞いている曲を 頭出しする (AMS <sup>1)</sup> 機能)	◀◀ (▶ボタンの◀◀側) を1度押す。 <sup>2)</sup>
前の曲、さらに前の曲を 頭出しする (AMS機能)	◀◀ (▶の◀◀側) を繰り返し押す。
次の曲を頭出しする (AMS機能)	▶▶ (▶の▶▶側) を1度押す。
さらに先の曲を頭出しする (AMS機能)	▶▶ (▶の▶▶側) を繰り返し押す。
早戻りする (サーチ機能)	◀◀ (▶の◀◀側) を押したままにする。 <sup>2)</sup>
早送りする (サーチ機能)	▶▶ (▶の▶▶側) を押したままにする。 <sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> AMS = Automatic Music Sensorの略。曲の頭を探す機能です。

<sup>2)</sup> 演奏中のみ操作できます。

### 💡 誤動作を防ぐには (HOLD機能)

HOLDスイッチを矢印の方向にずらしません。誤ってボタンが押されるのを防げます。  
HOLD機能を解除するには、HOLDスイッチを矢印と反対の方向にずらしません。

### 📌 ご注意

- リモコン付きヘッドホンは本機に付属のものをお使いください。
- 再生を停止してから音楽CDを取り出すときは、リモコンの■ボタンを押してから1分以内に取り出してください。1分以上たつと、イジェクトボタンを押してもディスクトレイができません。この場合は、もう1度リモコンの■ボタンを押してから取り出してください。
- 音が出ない場合は、本機の画面右下の🔊アイコンを右クリックし、[音量コントロールを開く]をクリックして、音量を確認してください。

# いろいろなソフトウェアを使う

本機は、さまざまな用途に応じたソフトウェアを付属しています。これまで説明してきた使いかたの他にも、幅広く本機を活用していただけます。ここでは、付属のソフトウェアの中から一部をご紹介します。

## □ i.LINK対応機器から静止画を取り込む

「DVgate still」ソフトウェアを使います。

ドッキングステーションのi.LINKコネクタにi.LINK対応機器をつなぐことにより、静止画を本機に取り込むことができます。

使いかたについて詳しくは、「DVgate still」の取扱説明書をご覧ください。

## □ 画像データを管理する

「PictureGear Version 2.0」ソフトウェアを使います。

デジタルスチルカメラなどから読み込んだいろいろな種類の画像データを表示し、まとめて管理できます。

使いかたについて詳しくは、「PictureGear Version 2.0」の取扱説明書をご覧ください。

## □ 仮想世界を散歩する

「さばり(3Dマルチユーザーチャットワールド)」ソフトウェアを使います。

インターネット上に点在する仮想世界を、現実の世界のように散歩します。また、「さばり」の「公園」や「コースト」などのマルチユーザー対応の仮想世界ではチャット(会話)も楽しめます。

使い方について詳しくは、「さばり」のオンラインマニュアルをご覧ください。

## □ 地図を見る

「Navin' You Version 2.0 Lite」ソフトウェアを使います。

ナビ研規格(S規格/Ver.2.01/Ver.2.1)および株式会社アルプス社製「プロアトラス」シリーズに準拠している地図ディスクを見たり、地図上の情報を検索することができます。

使いかたについて詳しくは、「Navin' You Version 2.0 Lite」のオンラインマニュアルをご覧ください。

このほかにも、以下のような使いかたができます。

- 画像を加工する
- インターネットのホームページを見る
- 辞書を使う
- ゲームを楽しむ

別冊の「付属ソフトウェア一覧」には、本機に付属のソフトウェアをまとめてご紹介しています。そちらもあわせてご覧ください。



---

# 拡張編

この章では、本機と電話回線やプリンターなどの周辺機器の接続のしかたや、メモリーの増設のしかたなどを説明します。

# 第 2 章

# 周辺機器を接続する

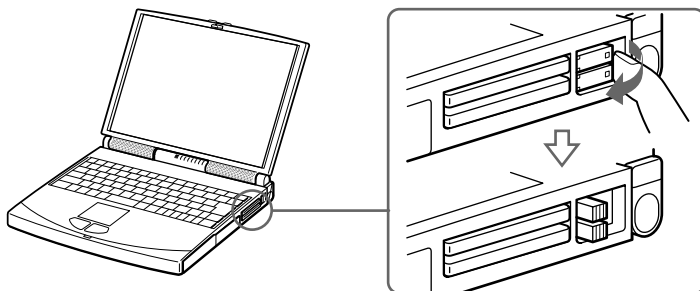
## 内蔵モデムを電話回線につなぐ

本機には、ファックスモデムが内蔵されています。付属のテレホンコードを使って本機と電話回線をつなぐと、インターネットなどのデータ通信をしたり、ファックスを送受信できるようになります。

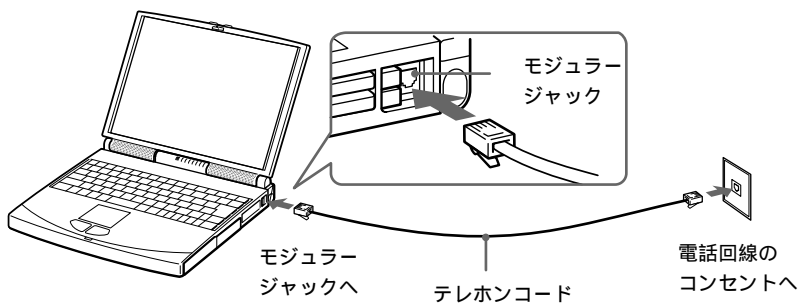
内蔵モデムの通信速度は、データ受信時最大56,000bps、データ送信時最大33,600bpsです。電話回線の状況によって通信速度は変化することがあります。

- 1 お使いの電話回線のダイヤル方法を確認する。  
電話機のダイヤルボタンを押すと「ピポパ」と音がし、電話機から「カチカチ」という音がしないときはトーン式ダイヤルです。ボタンではなく、ダイヤルを回す電話機、ダイヤルボタンを押すたびに電話機から「カチカチ」という音がする電話機は、パルス式ダイヤルです。
- 2 モデムのダイヤル方法を設定する。
  - ① [スタート] ボタンをクリックして [設定] にポインターを合わせ、[コントロールパネル] をクリックする。
  - ② [コントロールパネル] の中の [モデム] をダブルクリックする。
  - ③ [ダイヤルのプロパティ] をクリックする。
  - ④ [ダイヤル方法] からお使いの電話回線のダイヤル方法に合わせて [トーン] または [パルス] を選択する。

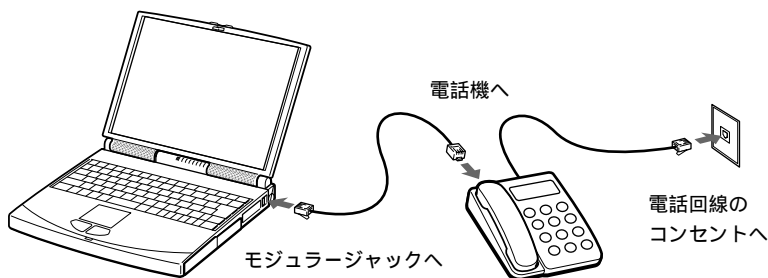
### 3 PCカードスロットのイジェクトボタンを起こす。



### 4 電話回線につなぐ。



「カチッ」と音がするまでテレホンコードを差し込んでください。  
モジュラージャックが2つある電話機をお使いのときは、下図のようにつなぎます。



次のページにつづく

## ご注意

接続したあとに、使用する電話、ファックス、通信などのソフトウェアで設定をする必要があります。詳しくはソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

### 電話回線についてのご注意

- 使用可能な回線は、一般電話回線です。
- PBX回線を職場内で使用するとき  
職場内でPBX(構内交換機)を使用しているときは、モジュラー型電話回線差し込み口にモデムを直接つなぐと、うまく送受信できないことがあります。これは呼び出し信号の使われかたが、一般の電話回線と異なるためです。  
PBX回線につなぐときは、PBX回線の電氣的条件がNTTの電話回線と同じである必要があります。接続できるかどうかは、PBXメーカーまたはPBX保守業者にお問い合わせください。
- PBXの種類によっては、故障・発火の原因になることがあります。
- 本機の内蔵モデムは、通信相手が応答しない場合、50秒で電話を切るように設定されています。30秒以内に電話を切るようにモデムの設定を変更することもできますが、この場合、交換機の接続遅延時間によっては接続できないことがあります。設定を変更する場合でも、30秒以上に設定するようおすすめします。
- ISDN回線などでTAをお使いのときは、TAとの接続やTAの設定を確認してください。
- 契約したプロバイダーがK56flexに対応している場合、最大56kbpsで通信が可能です。ただし、電話回線の状態によって、通信速度は変化します。

### PBX回線で0発信が必要なときは

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[設定] [コントロールパネル]の順に選択する。
- 2 [コントロールパネル]の中の[モデム]をダブルクリックする。
- 3 [ダイヤルのプロパティ]をクリックし、「外線発信番号」に“0,“(ゼロ、カンマ)を入力する。
- 4 [OK]をクリックする。
- 5 [全般]タブに表示されているモデムから使用したいモデムを選択し、[プロパティ]をクリックする。
- 6 [接続]タブをクリックし、「トーンを待ってからダイヤルする」のチェックをはずす。
- 7 [OK]をクリックする。
- 8 「モデムのプロパティ」の[閉じる]をクリックする。

## 電話回線のコンセントの種類

電話回線のコンセントは以下の4種類があります。ご自宅、外出先のコンセントに合った方法で接続してください。

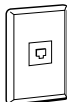
---

コンセントの型	接続に必要なソニーの別売りアクセサリ
---------	--------------------

---

モジュラー型	不要(そのままつなぐことができます)
--------	--------------------

---



---

3ピンジャック型	テレホンモジュラーアダプターTL-30
----------	---------------------

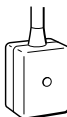
---



---

直付け型ローゼット <sup>1)</sup>	モジュラーローゼットTL-32CRなど
-------------------------	---------------------

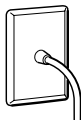
---



---

埋め込み型 <sup>2)</sup>	テレホンモジュラージャックコンセントTL-31
---------------------	-------------------------

---



<sup>1)</sup> 直付けタイプからモジュラージャックへの交換工事が必要です。NTT(局番なしの116番)へご依頼ください。

<sup>2)</sup> 電話工事担当者による取り付け工事が必要です。NTT(局番なしの116番)へご依頼ください。

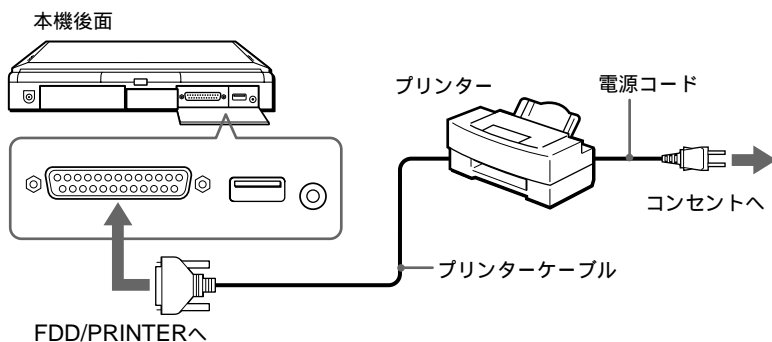
### ご注意

ビジネスホン、ホームテレホンなどの電話機やドアホン付きの電話機をお使いのときは、工事が必要となるものがあります。電話機を取り付けた業者にご相談ください。

# プリンターをつなぐ

Windows 98に対応しているプリンターを本機につないで、作成した書類などを印刷できます。

プリンターに付属しているプリンターケーブルを使って本機につなぎます。



## ご注意

- 本機とプリンターの電源を切ってから接続してください。
- 電源コードは、すべての接続が終わってからつないでください。
- 電源を入れるときは、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- Windows 98に対応していないプリンターを本機につないでも、正常に動作しません。

## プリンターを使用するには

プリンターを使用するには、次の準備が必要です。

- プリンターに付属のドライバーソフトを本機にインストールする。  
詳しくはプリンターの取扱説明書をご覧ください。
- プリンターポートを設定する。  
詳しくは、「パラレルポートの設定を変更する」(99ページ)をご覧ください。

# 外部ディスプレイをつなぐ

大きな画面で内容を確認したいときなどは、本機に外部ディスプレイやテレビを接続します。

## ご注意

- 本機と接続する機器の電源を切ってから接続してください。
- 電源コードは、すべての接続が終わってからつないでください。
- 電源を入れるときは、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。

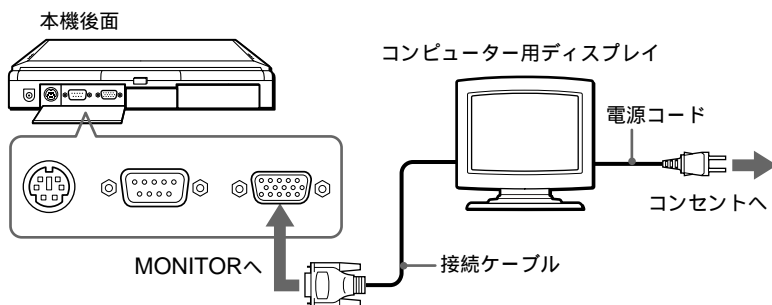


本機のディスプレイと接続した外部ディスプレイの表示を切り換えられます。詳しくは、「表示するディスプレイを選ぶ」(119ページ)をご覧ください。

## コンピューター用ディスプレイをつなぐ

スピーカーなどが内蔵されていない通常のディスプレイにつなぐときは、ディスプレイの他に外部アクティブスピーカーとマイクを別につなぐことで、AV環境をよりお楽しみいただけます。

外部スピーカーなどの接続のしかたについては、「外部スピーカー/マイクをつなぐ」(85ページ)をご覧ください。



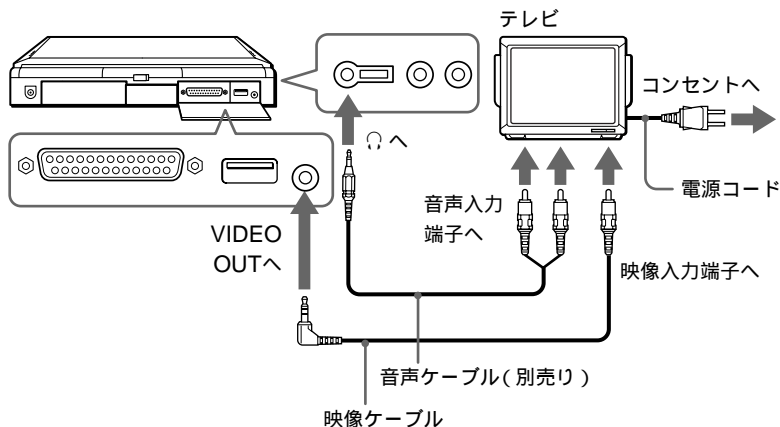
## テレビをつなぐ

映像 / 音声接続ケーブルを使って、本機とテレビをつなぎます。接続してから、テレビの入力切り換えを「外部入力」に合わせます。

本機側の設定も必要です。詳しくは「表示するディスプレイを選ぶ」(119ページ)をご覧ください。

### ご注意

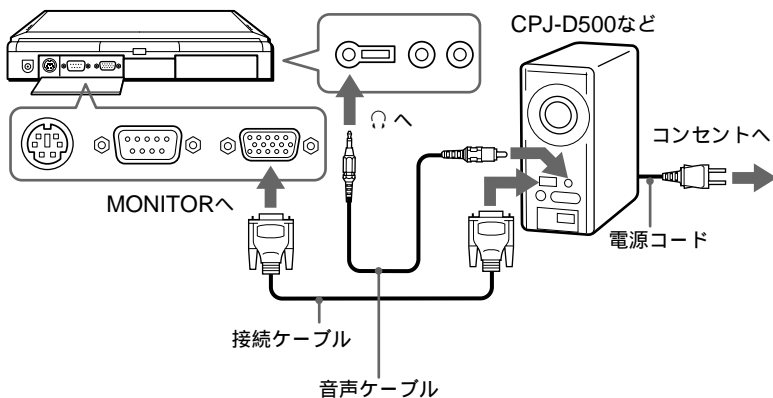
- MONITORコネクターにつないだ接続ケーブルははずしてください。



## 液晶プロジェクターをつなぐ

ソニーCPJ-D500などの小型の液晶プロジェクターを使うと、プレゼンテーションをするときなどに便利です。

接続のしかたは機器によって異なります。詳しくは、液晶プロジェクターの取扱説明書をご覧ください。





# デジタルスチルカメラを使う

デジタルスチルカメラで撮影した画像を本機に取り込みます。ここではソニーデジタルスチルカメラと本機を赤外線で接続する方法と、他の機種をお使いのときの一般的なご注意を説明します。

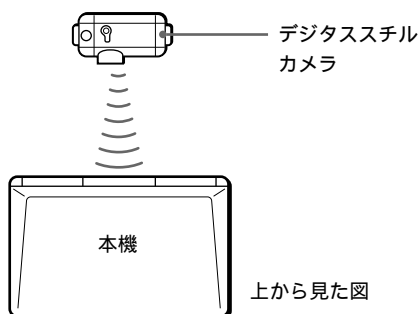
## ご注意

- 接続のしかたや画像の取り込みかたは、デジタルスチルカメラによって異なります。詳しくはデジタルスチルカメラの取扱説明書をご覧ください。
- 赤外線で接続するには、赤外線通信が使えるようにする必要があります。詳しくは「赤外線でデータをやりとりするには」(63ページ)をご覧ください。

## ソニーデジタルスチルカメラと赤外線で接続する

赤外線通信機能があるソニーデジタルカメラでは、ケーブル接続は必要ありません。

- 1 赤外線通信ポートアダプターを使わずに、本機のみ後ろにカメラを置く。



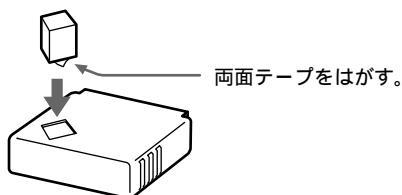
## 付属の赤外線通信ポートアダプターを使う

付属の赤外線通信ポートアダプターを使うと、デジタルスチルカメラを本機の横に置いたままでもデータのやりとりができます。

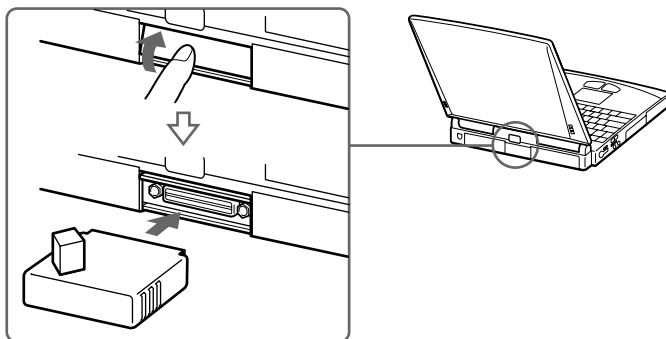
### ご注意

- 赤外線通信ポートアダプターはソニーデジタルスチルカメラとの赤外線通信専用です。他の機器との赤外線通信は保証しかねます。
- 赤外線通信ポートアダプターは、ドッキングステーション使用時は使えません。

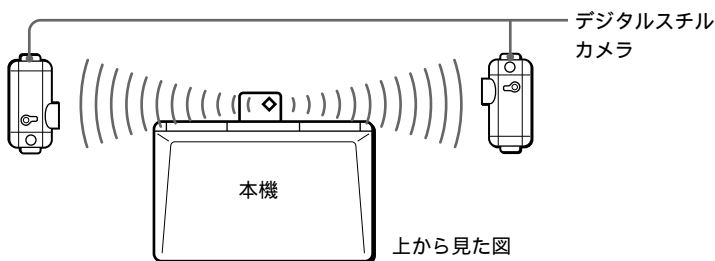
- 1 プリズムの両面テープをはがし、赤外線通信ポートアダプター本体のくぼみに貼り付ける。



- 2 本機後面にあるドッキングコネクターのふたを開き、赤外線通信ポートアダプターをドッキングコネクターに取り付ける。



赤外線通信を行うときは下記のように設置します。



## 画像を取り込む

本機に付属している「PictureGear Version 2.0」ソフトウェアを使って、画像を取り込みます。

操作方法について詳しくは、「PictureGear Version 2.0」の取扱説明書をご覧ください。

## 他のデジタルスチルカメラを使う

デジタルスチルカメラから撮影した画像を取り込むには、一般的に次の方法があります。お使いの機種に合った方法で、画像を取り込んでください。

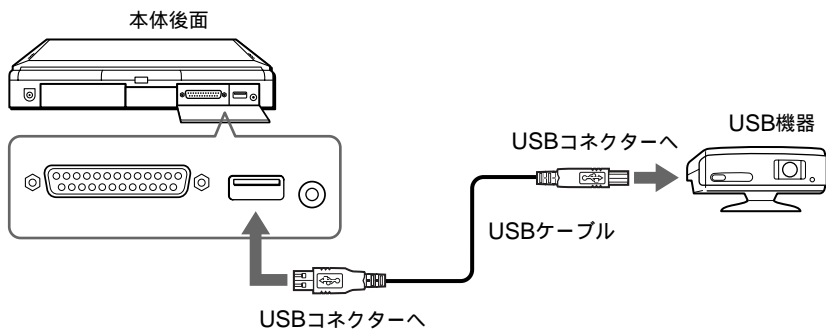
- 画像を記録したフロッピーディスクを本機のフロッピーディスクドライブに入れる。  
ソニーデジタルスチルカメラのデジタルマピカなどで記録したフロッピーディスクの画像は、本機に付属の「PictureGear Version 2.0」ソフトウェアで取り込みます。
- デジタルスチルカメラと本機のSERIALコネクタ - をケーブルで接続する。接続するケーブルやソフトウェアは、お使いのデジタルスチルカメラ専用品をお使いください。
- PCカードに画像を記録するデジタルスチルカメラのときは、メモリーカードを本機のPCカードスロットに差し込む。  
PCカードについて詳しくは、「PCカードを使う」(91ページ)をご覧ください。

### ご注意

お使いの機種およびソフトウェアが本機に対応しているかどうかについては、デジタルスチルカメラおよびソフトウェアの販売元にお問い合わせください。

# USB機器をつなぐ

本体後面のUSBコネクターを使って、USB機器を接続することができます。



## ご注意

詳しくは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。

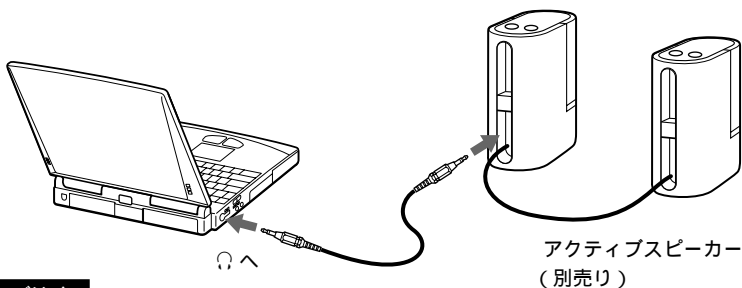
# 外部スピーカー／マイクをつなぐ

## ご注意

- 接続ケーブルをつなぐときは、本機と接続する機器の電源を切ってから接続してください。
- 電源コードは、すべての接続が終わってからつないでください。
- 電源を入れるときは、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。

## 外部スピーカーを接続する

スピーカーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

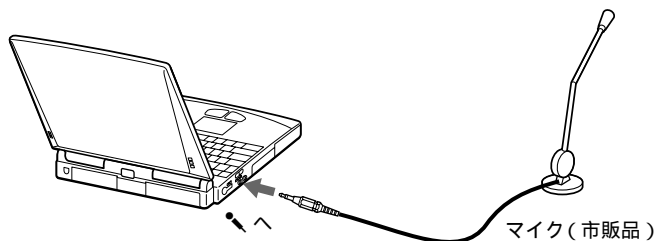


## ご注意

- 電源を入れるときは、スピーカーの音量を最小にしてください。
- スピーカーの上にフロッピーディスクなどを置かないでください。スピーカーの磁気によりディスクに記録されているデータが破壊されることがあります。

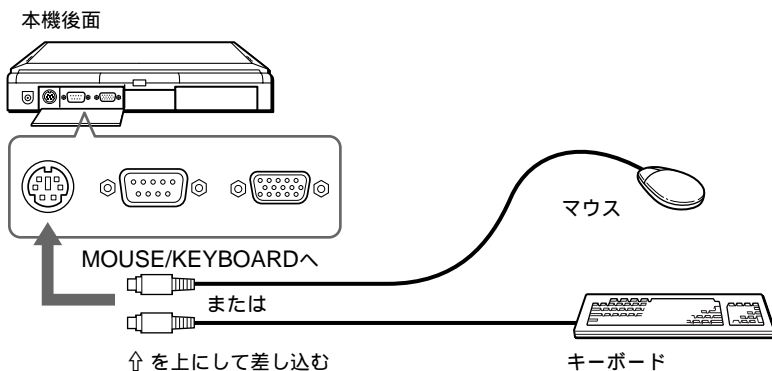
## マイクをつなぐ

マイクの取扱説明書もあわせてご覧ください。



# キーボード/マウスをつなぐ

PS/2準拠のフルサイズのキーボードやマウスを接続できます。



フルサイズのキーボードとマウスを同時に使用するときは、キーボードをMOUSE/KEYBOARDコネクタに、マウスをSERIALコネクタにつなぎます。

## ご注意

- 接続ケーブルをつなぐときは、本機と接続する機器の電源を切ってから接続してください。
- 本機の電源が入っている状態でPS/2デバイス(キーボードやマウス)を接続したり、はずしたりしないでください。誤動作の原因になります。
- マウスをSERIALコネクタにつなぐときは、そのマウスが「シリアルポート対応」のものかどうかを確認してからお使いください。シリアルポートに対応していないマウスを本機のSERIALコネクタにつないでも、動作しません。

# ドッキングステーションに取り付けて使う

別売りのドッキングステーションを取り付けると、デジタルビデオカメラ等より多くの周辺機器を接続できます。AC電源コードやプリンターなどを常にドッキングステーションにつないでおけば、接続の手間がはばけ便利です。本機用のドッキングステーションは、PCGA-DB8/DH8のみです。

詳しくは、PCGA-DB8/DH8の取扱説明書をご覧ください。

# 本体を拡張する

## メモリーを増設する

メモリーを増設すると、データの処理速度や、複数のアプリケーションソフトウェアを同時に起動したときの処理速度が向上します。

### ご注意

- メモリーの増設は注意深く行う必要があります。取り付けかたや取りはずしかたを誤ると、本機の故障の原因になります。  
メモリーの増設についてのご相談やご質問は、VAIOテクニカルレスポンスセンターまでご連絡ください。
- 別売りのソニー製RAMボード以外では、正常に認識されなかったり、Windowsの動作が不安定になるものがあります。別売りのソニー製RAMボード以外をお使いになる場合には、販売店またはRAMボードの製造メーカーにご相談ください。

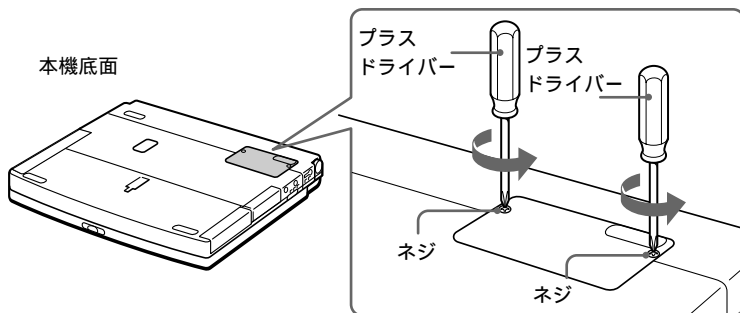
## RAMボードを取り付ける

別売りのRAMボードを取り付けることにより、メモリーを増設します。本機にはRAMボードを取り付けるスロットが1つあり、本機に内蔵されている64Mバイトのメモリーと合わせて、最大192Mバイトまでメモリーを増設できます。RAMボードの取りはずしかたについて詳しくは、90ページをご覧ください。

### RAMボード取り扱い上のご注意

- 静電気でRAMボードが破壊しないように、RAMボードを取り扱うときは、次のことをお守りください。
  - －メモリーを増設するときは、静電気の起こりやすい場所(カーペットの上など)では作業しないようにしてください。
  - －静電気を体から逃がすため、本体の金属部に触れてから作業を始めてください。
  - －RAMボードは静電気防止袋に入っています。取り付け直前まで袋から出さないでください。
- RAMボードを保管するときは、静電気防止袋またはアルミホイルで覆ってください。

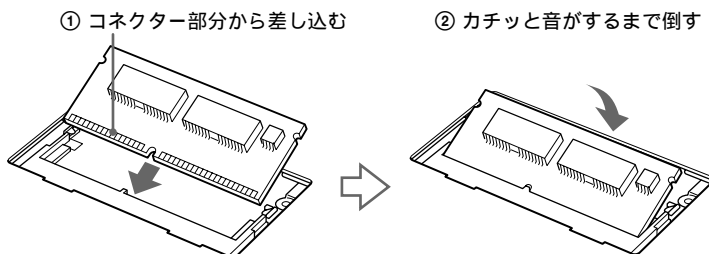
- 1 本機と周辺機器の電源を切り、すべての接続を取りはずす。  
バッテリーも取りはずしてください。
- 2 しばらくしてから本機を裏返し、底面のふたを開ける。  
電源を切ったすぐあとは、本機の内部が熱くなっており、やけどをす  
る恐れがあります。本機が冷えるのを待ってから行ってください。



- 3 RAMボードを梱包から取り出す。  
本体の金属部に触れて体の静電気を逃がしてから、RAMボードを静  
電気防止袋から取り出します。

#### 4 RAMボードを取り付ける。

- ① RAMボードのエッジコネクター部分を下にむけ、切り欠き  
部分をスロットの溝にあわせて、しっかりと差し込む。
- ② カチッと音がするまで、矢印の方向にRAMボードを倒す。  
RAMボードの両端が固定されます。

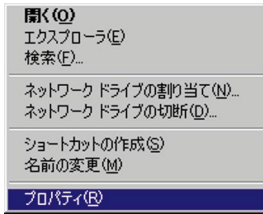


- 5 ふたを元に戻す。  
ネジをしっかりと締めてください。

- 6 本機の電源を入れる。



7 [マイコンピュータ]を右クリックして、[プロパティ]をクリックする。



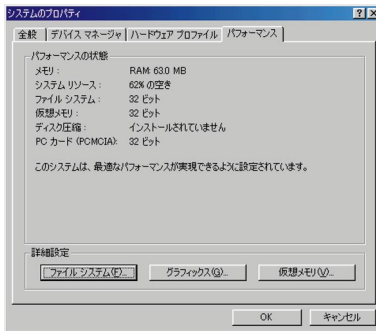
「システムのプロパティ」が表示されます。



本体を拡張する

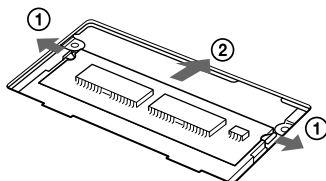
8 [パフォーマンス]タブをクリックして、「メモリ」の項目が増設後のメモリー容量になっていることを確認する。

メモリーの容量の表示が正しければ、メモリーの増設は完了しました。メモリーの容量が増えていないときは、本機の電源を切って、もう1度正しく増設の手順を繰り返してください。



## RAMボードを取りはずす

- 1** 本機と周辺機器の電源を切り、すべての接続を取りはずす。  
バッテリーも取りはずしてください。
- 2** 本機を裏返し、底面のふたを開ける。  
電源を切ったすぐあとは、本機の内部が熱くなっており、やけどを  
する恐れがあります。本機が冷えるのを待ってから行ってください。
- 3** RAMボードを取りはずす。
  - ① RAMボードを固定しているタブを、注意しながら同時に押し広げ  
る。
  - ② RAMボードを矢印の方向に引き抜く。



- 4** ふたを元に戻す。  
ネジをしっかりと締めてください。

# PCカードを使う

本機には、PC CardタイプIとタイプII、タイプIIIに準拠したPCカードを挿入できるPCカードスロットがあります。タイプIとタイプIIのカードは同時に2枚挿入できます。また、本機のPCカードスロットはCard BusおよびZV(Zoomed Video) Portにも対応しています。

## PCカードとは

PC Card規格に準拠した、着脱可能な機能拡張デバイスです。形はクレジットカードに似ていますが、やや大きくて厚みがあります。PCカードは厚みによって、もっとも薄いタイプIからもっとも厚いタイプIIIまでの3種類に分けられます。

主なPCカードには以下のような種類があります。

### メモリーカード

データをフラッシュメモリーに保存します。PCカードに対応したデジタルスチルカメラで撮影した画像であれば、PCカードを本機に取り付けてそのまま取り込めます。

### SCSIカード

MOドライブやスキャナーなどのSCSIデバイスを接続できます。

### ネットワークカード

イーサネットなどのネットワークに接続できます。

### TA(ターミナルアダプター)カード

ISDN回線に接続できます。

### ビデオカード

ビデオ機器を接続して、動画や静止画を取り込めます。

### ご注意

- PCカードによっては本機で使用できないものや、機能が制限されるものがあります。
- PCカードによっては、ドライバーソフトを最新のものにすることによって不具合が改善される場合があります。PCカードの製造メーカーから最新のドライバーソフトを入手してお使いください。

## PCカードを取り付ける

本機のPCカードスロットは2つあります。タイプIIIカードは下段のスロットに取り付けてください。タイプIとタイプIIカードとZV Port対応カードは、上下段どちらのスロットにも取り付けられます。

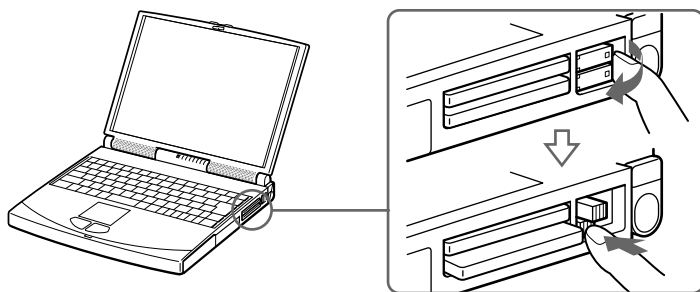
PCカードを取り付けるときに電源を切る必要はありません。

### 1 PCカードスロットプロテクターを取り出す。

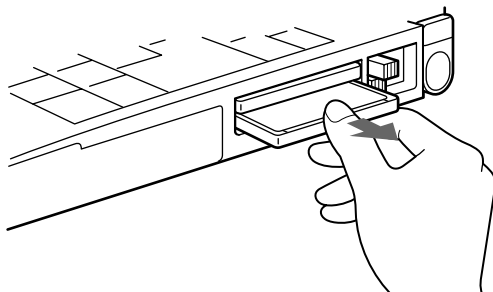
スロットを保護するために、PCカードスロットプロテクターが装着されています。PCカードを挿入する前に、プロテクターを取り出す必要があります。

- ① イジェクトボタンを起こしてから、ボタンを押す。

プロテクターが出ます。



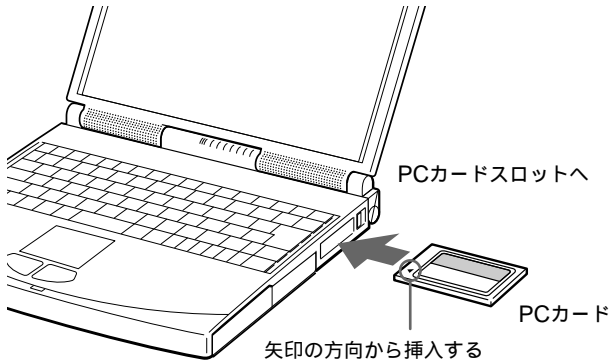
- ② プロテクターの端を持って、スロットから引き抜く。



タイプIIIカードをお使いになるときは、上下段ともプロテクターを取り出してください。

## 2 カードをスロットに挿入する。

スロットの奥にあるコネクタに、カードがしっかりと固定されるまで押し込みます。カードを挿入すると、イジェクトボタンが出ます。カードがうまく入らない場合は、無理にカードを押し込まずに、カードの挿入方向を確認してからもう1度挿入し直してください。



取り付けたあとの使いかたについては、PCカードの取扱説明書をご覧ください。

### ご注意

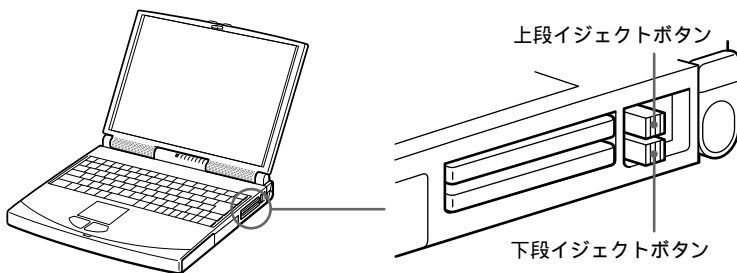
- PCカードによっては、Sony Notebook Setupを起動し、使用しないデバイスを一時的に無効にする必要がある場合があります。(105ページ)
- お使いのPCカードのメーカーが提供する最新のドライバーをお使いください。
- [システムのプロパティ]の[デバイスマネージャ]タブでPCカードに[!]が付いている場合は、一度ドライバーを削除し、もう1度組み込んでください。

## PCカードを取り出す

### ご注意

本機の電源が入っているときにカードを取り出すときは、必ず以下の手順に従ってください。誤った取り出しかたをすると、システムが正常に動作しない可能性があります。本機の電源が切れているときは、手順1～4の操作は不要です。

- 1** [スタート]ボタンをクリックして[設定]にポインターを合わせ、[コントロールパネル]をクリックする。
- 2** [PCカード]をダブルクリックする。
- 3** リストから取り出したいPCカードをクリックし、次に[終了]ボタンをクリックする。
- 4** 「このデバイスは安全に取りはずせます。」と表示されたら[OK]ボタンをクリックする。
- 5** PCカードスロットのイジェクトボタンを押す。  
カードがコネクターからはずれます。カードの端を持って、スロットから引き抜いてください。



カードを引き抜いたあとは、スロットを保護するために、必ずPCカードスロットプロテクターを挿入してください。

---

# セットアップ編

Sony Notebook SetupやPowerPanel、BatteryScopeといった付属のユーティリティソフトウェアを使ったり、Windowsの設定を変更することで、ご使用になる環境や好みに合わせた動作環境をつくれます。

## 第 3 章

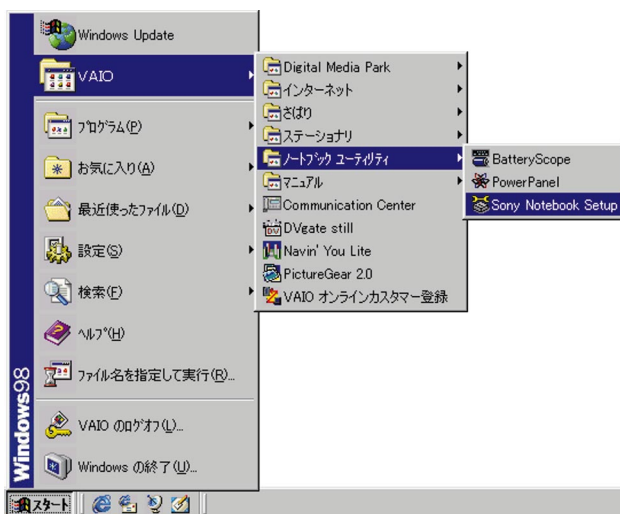
# 本機の使用環境を設定する

## 本機の情報を確認する

本機の製品情報や、メモリーの容量などのシステム情報を確認することができます。

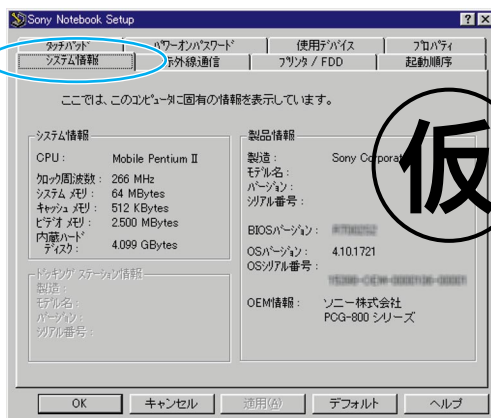
- 1 [スタート]ボタンをクリックして[VAIO]にポインターを合わせ、[ノートブック ユーティリティ]から[Sony Notebook Setup]をクリックする。

Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。





- 2 [システム情報]タブをクリックする。  
本機の製品情報やハードウェア情報を確認できます。



- 確認が終わったら  
[OK]をクリックします。

## 赤外線データ通信(IrDA)の設定を変更する

赤外線通信をする相手の機器によっては、赤外線データ通信の設定を変更する必要があります。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[VAIO]にポインターを合わせ、[ノートブックユーティリティ]から[Sony Notebook Setup]をクリックする。  
Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。

- 2** [ 赤外線通信 ] タブをクリックする。  
赤外線データ通信の設定項目が表示されます。



- 3** 設定したい内容に合わせて、設定項目を変更する。  
本機と通信する機器の通信モードに合わせて設定します。  
通常は「IrDA 1.1方式」に設定します。

- 4** [ OK ] をクリックする。  
手順3で通信モードを変更した場合は、設定を有効にするために本機を再起動する必要があります。表示されたダイアログボックスの[再起動]をクリックして、本機を再起動してください。

IrDAのモード設定が選べないときは

「使用デバイスの設定」画面で「赤外線通信ポート」がチェックされていません。  
チェックしてから赤外線通信の設定をしてください。

詳しくは、「デバイスを一時的に使用できないように設定する」(105ページ)をご覧ください。

# パラレルポートの設定を変更する

本機のFDD / PRINTERコネクタに次のものをつなぐときは、パラレルポートの設定を変更する必要があります。

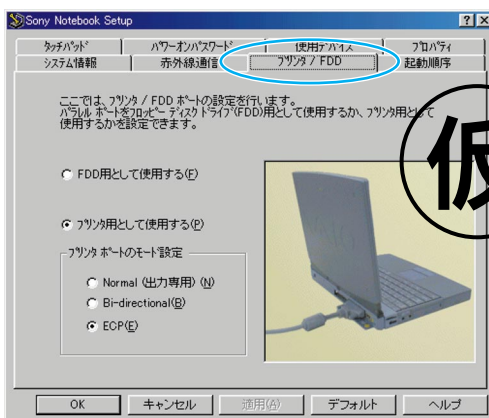
- 付属のフロッピーディスクドライブ。
- プリンターなどのパラレル機器( 機器によってはパラレルポートの設定を変更する必要のないものもあります )。

また、パラレルポートのモードも変更できます。

- 1 [ スタート ] ボタンをクリックして[ VAIO ] にポインターを合わせ、[ ノートブック ユーティリティ ] から[ Sony Notebook Setup ] をクリックする。

Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。

- 2 [ プリンタ / FDD ] タブをクリックする。  
パラレルポートの設定項目が表示されます。



- 3 設定したい内容に合わせて、設定項目を変更する。

- FDD用として使用する  
付属のフロッピーディスクドライブを外付けドライブとして、本機後面のFDD/PRINTERコネクタに接続して使うとき。

- プリンタ用として使用する

本機後面のFDD/PRINTERコネクタを、通常のパラレルポートとして使うとき。

接続する機器にあわせてパラレルポートのモードを選びます。

- Normal : 通常のパラレルポートとして使う。
- Bi-direction : 双方向のパラレルポートとして使う。
- ECP : ECP対応機器をつないで使う。

#### 4 [OK]をクリックする。

手順3でパラレルポートのモードを変更した場合は、設定を有効にするために本機を再起動する必要があります。表示されるメッセージに従って再起動してください。

パラレルポートのモード設定が選べないときは

「使用デバイスの設定」画面で「プリンタポート(LPT1)」がチェックされていません。チェックしてからパラレルポートの設定をしてください。

詳しくは、「デバイスを一時的に使用できないように設定する」(105ページ)をご覧ください。

# 起動ドライブを指定する

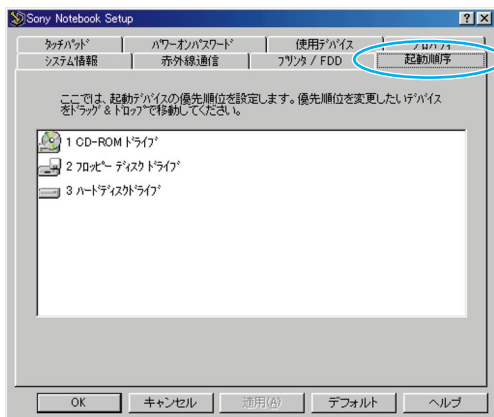
本機を起動するときの、起動ドライブを指定できます。フロッピーディスクドライブから起動したり、CD-ROMドライブから起動したいときなどに便利です。

- 1 [ スタート ] ボタンをクリックして [ VAIO ] にポインターを合わせ、[ ノートブック ユーティリティ ] から [ Sony Notebook Setup ] をクリックする。

Sony Notebook Setup が起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。

- 2 [ 起動順序 ] タブをクリックする。

「起動順序」が表示されます。



- 3 順序を変更したいドライブを上下にドラッグする。

リスト表示中の上にあるドライブから先に本機が起動します。

- 4 [ OK ] をクリックする。

次に電源をいれるときは、手順3で設定した順位の高いドライブから本機が起動します。

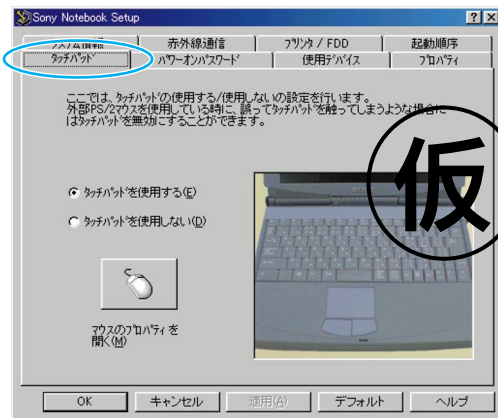
# タッチパッドの設定を変更する


タッチパッドを使っていて、思ったようにポインターを動かかせないときは、タッチパッドの感度を調節してみてください。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[VAIO]にポインターを合わせ、[ノートブックユーティリティ]から[Sony Notebook Setup]をクリックする。

Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。

- 2 [タッチパッド]タブをクリックする。  
タッチパッドの設定項目が表示されます。



- 3  をクリックする。  
「マウスのプロパティ」が表示されます。

- 4 変更したい設定項目を、好みの値に変更する。

- 5 「マウスのプロパティ」画面の[OK]をクリックする。  
変更した設定が有効になります。

## ご注意

タッチパッドのタップ機能について  
キーボード操作時に指や手のひらがタッチパッドに触れてしまった場合、カーソル位置が移動してしまう場合がありますが、これは故障ではありません。使いにくい場合は、「マウスのプロパティ」の「タッチパッド」タブをクリックし、タッチパッドのタップ機能を無効にしてください。

本機にマウスをつないでいるときは

本機のMOUSE/KEYBOARDコネクタにマウスをつないでいるときは、本機のタッチパッドを無効にすることもできます。

前ページの手順3で、「タッチパッドを使用しない」のラジオボタンをクリックしてから、[ OK ]をクリックします。

## パスワードを登録する

パスワードを登録して、パスワードを知っているユーザーだけが本機を使えるようにできます。大切なデータを守りたいときなどに便利です。

ここで登録したパスワードは、本機を起動してSONYのロゴマークが表示されたあとに入力します。

### ご注意

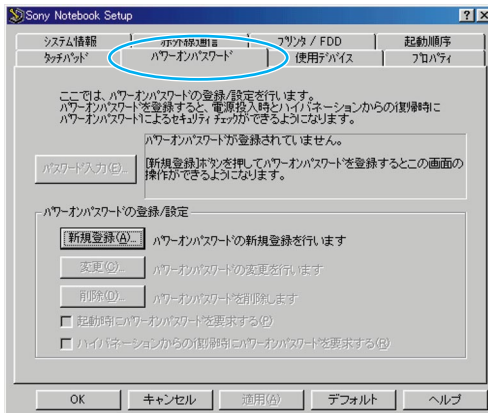
パスワードを忘れると、本機を起動することができなくなります。  
パスワードは必ずメモを取るなどして、忘れないようにしてください。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[VAIO]にポインターを合わせ、[ノートブックユーティリティ]から[ Sony Notebook Setup ]をクリックする。

Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。

- 2 [パワーオンパスワード]タブをクリックする。

パスワードの設定項目が表示されます。

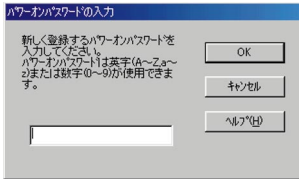


次のページにつづく

**3** [新規登録]をクリックする。

**4** [はい]をクリックする。

**5** 登録したいパスワードを入力してから、[OK]をクリックする。  
パスワードは半角の英数字7文字以内で入力します。1文字入力するごとに、\*が表示されます。



**6** 手順5で入力したパスワードをもう1度入力してから、[OK]をクリックする。

**7** [OK]をクリックする。  
入力したパスワードが登録されます。

パスワードの登録をやめるときは

手順4で、[いいえ]をクリックします。

## パスワードを変更する

**1** 「パスワードを登録する」の手順1と2を行う。

**2** 「パスワード入力」をクリックする。  
パスワード入力画面が表示されます。変更前のパスワードを入力し、[OK]をクリックします。

**3** [変更]をクリックする。  
パスワード入力画面が表示されます。

**4** 登録したいパスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

**5** 手順4で入力したパスワードをもう1度入力してから、[OK]をクリックする。  
パスワードが変更されます。

**6** [OK]をクリックする。



## パスワードを削除する

- 1 「パスワードを登録する」(103ページ)の手順1と2を行う。
- 2 「パスワード入力」をクリックする。  
パスワード入力画面が表示されます。削除したいパスワードを入力し、[OK]をクリックします。
- 3 [削除]をクリックする。  
確認画面が表示されます。
- 4 [はい]をクリックする。  
パスワードが削除されます。  
削除をやめるときは、[いいえ]をクリックします。
- 5 [OK]をクリックする。

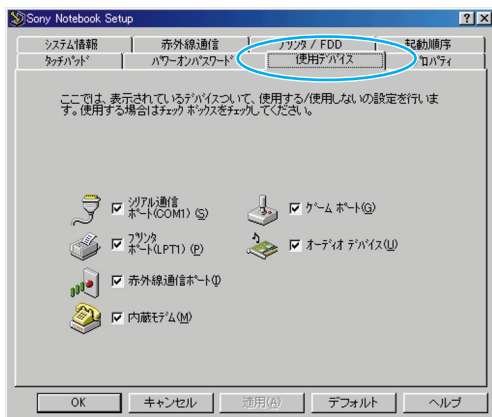
---

## デバイスを一時的に使用できないように設定する

別売りのハードウェアやソフトウェアを使用するときに、IRQ、DMAといったハードウェアリソースが足りなくなることがあります。この場合、本機の使用していないデバイスを使用できないように設定することで、使えるハードウェアリソースの割り当てを、一時的に変更できます。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[VAIO]にポインターを合わせ、[ノートブックユーティリティ]から[Sony Notebook Setup]をクリックする。  
Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。

- 2** [使用デバイス]タブをクリックする。  
使用デバイスの設定項目が表示されます。



- 3** 使用するデバイスのチェックボックスをクリックし、チェックする。  
(初期設定ではすべてのデバイスがチェックされています。)

- 4** [OK]をクリックする。  
チェックしたデバイスにリソースが割りあてられます。  
設定を有効にするために本機を再起動する必要がある場合もあります。  
表示されるメッセージに従って再起動してください。

---

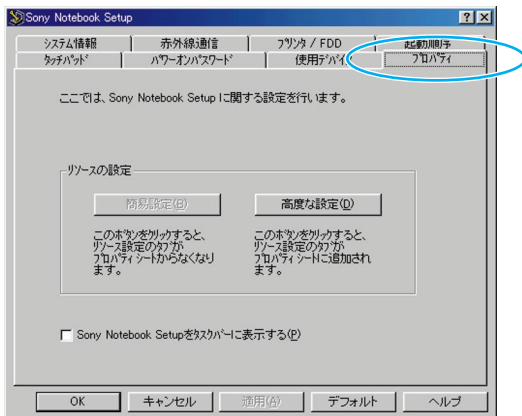
## 使用するデバイスごとに詳細な設定をする

Sony Notebook Setup の [簡易設定] と [高度な設定] を切り換えることで、使用するデバイスごとに IRQ や DMA といったリソースを割りあてられます。

- 1** [スタート] ボタンをクリックして [VAIO] にポインターを合わせ、[ノートブック ユーティリティ] から [Sony Notebook Setup] をクリックする。  
Sony Notebook Setup が起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。

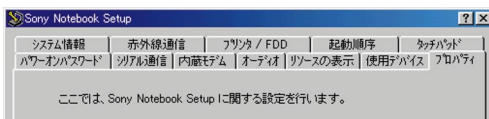
## 2 [プロパティ]タブをクリックする。

「プロパティ」が表示されます。



## 3 [高度な設定]をクリックする。

「シリアル通信」と「内蔵モデム」、「オーディオ」、「リソースの表示」タブが新たに表示されます。



## 4 リソースを設定する。

設定したいデバイスのタブをクリックして、設定画面を表示させ、リソースの一覧から任意の値を選んでクリックします。

## 5 すべての設定が終わったら、[OK]をクリックする。

設定を有効にするために本機を再起動する必要があります。表示されるメッセージに従って再起動してください。

工場出荷時の設定に戻すには

Sony Notebook Setup の[デフォルト]をクリックします。

なお、[デフォルト]をクリックしても、以下の設定は戻りません。


- 登録したパスワード
- 「起動順序」の設定
- 「使用デバイス」の設定

# バッテリーの消費電力を節約する

バッテリーで本機を使用しているときは、本機の動作速度を下げたり、ハードディスクや液晶ディスプレイを自動的に停止させたりしてバッテリーの消耗を遅らせることができます(パワーマネージメント機能)。詳しくは「省電力動作モードについて」(112ページ)をご覧ください。


## PowerPanelを起動する

本機に付属している「PowerPanel」ソフトウェアを使うことで、使用状況に合わせた電力の節約をできるようになります。

画面右下のをダブルクリックすると、画面右側にPowerPanelのアプリケーションバーが表示されます。



ポインターをボタンに合わせて、情報ボックスが表示されてボタンの機能を確認できます。

画面右下にが表示されていないときは

[スタート]ボタンをクリックして[VAIO]にポインターを合わせ、[ノートブックユーティリティ]を選び、[PowerPanel]をクリックします。

「PowerPanel」が起動し、画面右下にPowerPanelのアイコンが表示されます。

# 使用環境にあったプロファイルを選ぶ

## 本機の動作モードを設定する(プロファイルボタン)

設定したいボタンをクリックすると、クリックしたボタンのパワーマネジメント機能が実行されます。

コマンドボタンが表示されているときは、アプリケーションバーを右クリックして、ショートカットメニューから[プロファイル]を選びます。



### AC

ACアダプターをつないで使用するときに、ここで設定した状態になります。ACアダプターをはずすと、バッテリーで使用していたときに選んでいた状態に戻ります。



### ノーマル

消費電力を節約しつつ、できるだけ通常の動作状態を保つよう、自動的に調整します。



### スタミナ

バッテリーを最大限に長時間使用できるように動作状態を自動的に調節します。

## 特定のデバイスの電力供給をコントロールする

### (コマンドボタン)

設定したいボタンをクリックすると、クリックしたボタンのパワーマネジメント機能が実行されます。

プロファイルボタンが表示されているときは、アプリケーションバーを右クリックして、ショートカットメニューから[コマンド]を選びます。



### システムサスペンド

現在の本機の状態をメインメモリーに記憶させ、CPUの電源を切ります。システムをもとの状態に戻すには、いずれかのキーを押します。

翌日まで作業を中断するときなどに便利です。



### システムハイバネーション

現在のシステムの状態をハードディスクに書き込んでから、自動的に本機の電源を切ります。本機の電源を入れると、システムハイバネーション前の状態に戻ります。

24ページの「電源を切るには」の手順を行って本機の電源を切る代わりにこの機能を使うと、次回電源を入れたときに短時間でもとの作業状態に復帰できます。2~3日、本機を使わないときなどに便利です。



### LCD/Video スタンバイ

液晶ディスプレイの電源を切り、ビデオスタンバイ状態になります。いずれかのキーを押すともとの状態に戻ります。



### ハードディスクスリープ

ハードディスクモーターの回転を止め、アイドル状態になります。ハードディスクへのアクセスがあるともとの状態に戻ります。



### スピードコントローラー

CPU速度を変更するダイアログボックスが表示され、CPUの動作モードを変更できます。



### PCカード

PCカードウィンドウが表示されます。

## 好みのプロファイルを設定する

使用環境に合わせて設定を変更したり、ボタンを追加したりすることもできます。

初期設定で表示されるボタンの他にもさまざまな設定が用意されています。また、用意されている設定を好みに合わせて変更したり、新しい設定を作成して登録することもできます。

詳しくは「PowerPanel」のヘルプをご覧ください。

# 省電力動作モードについて

本機はバッテリーでの放電予測時間を延ばすため、いくつかの省電力動作モードを持っています。モードごとに特長がありますので、使用状況に合わせて使い分けてください。

## 本機の動作モードについて

### □ 通常モード(パワーランプ点灯(グリーン))

通常の動作モードですが、液晶ディスプレイやハードディスクなど、特定のデバイスの電源だけを切って、消費電力を節約することもできます。

バッテリーの残量が5~7%になると、自動的にシステムハイバネーションモードになります(工場出荷時の設定)。このときは、復帰しても作業中の文書が失われることがありますのでご注意ください。

### □ システムサスペンドモード(パワーランプ点滅(アンバー))

現在作業中の状態を保持したまま、CPUの電源を切ります。翌日に作業を再開するときなどに便利です。システムサスペンドモードでバッテリーの残量が5~7%未満になると、自動的にシステムハイバネーションモードになります。このときは、復帰しても作業中の文書が失われることがありますのでご注意ください。

#### • システムサスペンドモードにするには

Fnキーを押しながらEscキーを押します。パワースイッチを▷方向に4秒以内ずらしたり、「PowerPanel」ソフトウェアを使って設定することもできます(108ページ)。

#### • 通常モードに戻すには

本体のキーボードのいずれかのキーを押します。



□ システムハイバネーションモード（電源ランプ消灯）

現在作業中の状態をハードディスクに保存して、本機の電源を切ります。2～3日使わないようなときに便利です。

- システムハイバネーションモードにするには  
Fnキーを押しながらF12キーを押します。または、「PowerPanel」ソフトウェアを使って設定します（108ページ）。

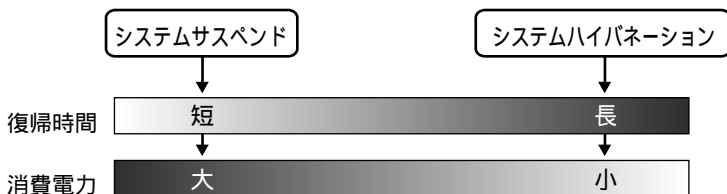
また、バッテリー残量が5～7%になると、自動的にシステムハイバネーションモードになります（工場出荷時の設定）。このときは、復帰しても作業中の文書が失われることがありますのでご注意ください。

- 通常モードに戻すには  
パワースイッチで本機の電源を入れ直します。電源を入れると、前回の作業中の状態に戻ります。

**ご注意**

システムハイバネーションモードから通常モードに戻すときに、パワースイッチを4秒以上▷の方向にずらしたままにすると、ハードディスクに保存していたシステムハイバネーションモードになる前の作業状態がすべて消去されます。


復帰時間と消費電力について



# バッテリーの残量を確認する

## BatteryScopeを起動する

本機に付属している「BatteryScope」ソフトウェアを使うことで、本機に取り付けたバッテリーの状態を、パーセント表示または時間表示で確認できます。

画面右下のをダブルクリックすると、画面右側にPowerPanelとBatteryScopeのアプリケーションバーが表示されます。



### パーセント表示

バッテリーの残容量がパーセントで表示されます。

### 時間表示

バッテリーの放電予測時間が「分単位」で表示されます。

## BatteryScopeが起動されていないときは

[ スタート ] ボタンをクリックして [ VAIO ] にポインターを合わせ、[ ノートブックユーティリティ ] を選び、[ BatteryScope ] をクリックします。「BatteryScope」が起動し、画面右下にBatteryScopeのアイコンが表示されます。


## バッテリーアイコンの見かた

BatteryScopeのアプリケーションバーに表示されるバッテリーアイコンの種類と、バッテリーの状態は以下の通りです。

バッテリーアイコン	バッテリーの状態
	放電中
	充電中
	未使用
	バッテリー未装着

アプリケーションバーの表示を変更したり、バッテリーの残量を知らせる警告を表示したりすることもできます  
使用環境に合わせてアプリケーションバーの表示を変更したり、「BatteryScope」ソフトウェアの初期設定で用意されている警告表示や警告音を変更したりすることができます。  
詳しくは、「BatteryScope」のヘルプをご覧ください。

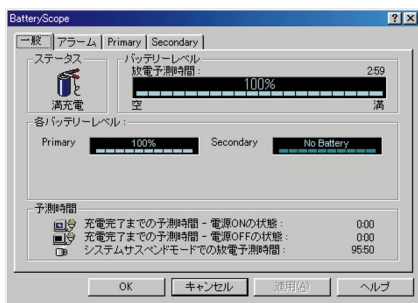
# バッテリー残量の見かた

画面右下のをダブルクリックするか、アプリケーションバーのアイコンなどの表示をクリックすると、「BatteryScope」が表示され、バッテリーについてより詳しい情報を見ることができます。

本機に取り付けたすべてのバッテリー情報を見るには

[一般]タブをクリックします。

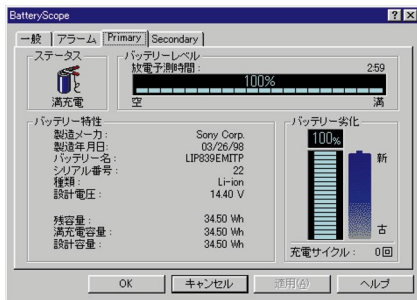
バッテリーの放電予測時間や完全に充電されるまでの予測時間を確認できます。



本機に取り付けた個々のバッテリー情報を見るには

本機の左側面に取り付けたバッテリーの情報を見るには[ Primary ]タブを、右側面に取り付けたバッテリーの情報を見るには[ Secondary ]タブをクリックします。

それぞれのバッテリーの放電予測時間や、バッテリーの製品情報などを確認できます。



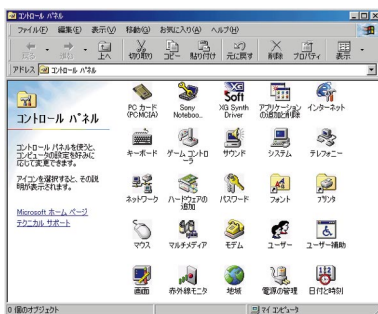
# 画面表示の設定を変更する

## ディスプレイの設定を変更する

本機の解像度は、標準では1024×768ドットに設定されています。ディスプレイの解像度と色数の設定の変更をするには、以下の手順に従ってください。

Windows 98のヘルプもあわせてご覧ください。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[設定]にポインターを合わせ、[コントロールパネル]をクリックする。  
「コントロールパネル」が表示されます。

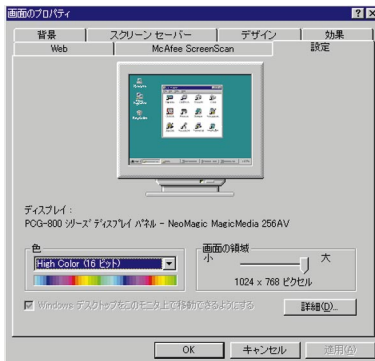


## 2 [画面]をダブルクリックする。

「画面のプロパティ」が表示されます。



## 3 [設定]タブをクリックする。



## 4 「色」リストで色数を、「画面の領域」のスライダーで解像度を設定する。

## 5 [OK]をクリックする。

設定が更新されます。

### ご注意

設定によっては本機を再起動する必要があるものもあります。画面に表示される指示に従ってください。

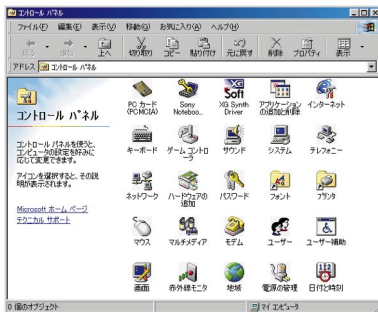
#### 👁️ 色数について

- 手順4の「色」の設定と実際に表示される色数は以下の通りです。High Color (16ビット)→ 65,536色  
True Color (24ビット)→ 約1,677万色
- True Color (24ビット)に設定すると、画面の描画速度が少し遅くなります。

# 表示するディスプレイを選ぶ

本機はNeoMagicビデオコントローラーを使用しています。本機に外部ディスプレイなどをつないでいる場合には、どのディスプレイに表示するか設定できます。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[設定]にポインターを合わせ、[コントロールパネル]をクリックする。  
「コントロールパネル」が表示されます。



- 2 [画面]をダブルクリックする。  
「画面のプロパティ」が表示されます。



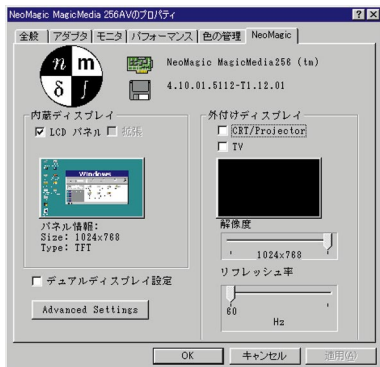
3 [設定]タブをクリックする。

4 [詳細]をクリックする。

「NeoMagic MagicMedia 256AVのプロパティ」が表示されます。

5 [NeoMagic]タブをクリックする。

NeoMagicの設定項目が表示されます。



6 外付けディスプレイの種類を選ぶ。

#### 外付けディスプレイ

設定	表示される機器
CRT/Projector	本機後面のMONITORコネクターにつないだコンピューター用外部ディスプレイ、およびRGB接続したプロジェクター
TV	本機後面のVIDEO OUTコネクターにつないだテレビや、アナログ接続したプロジェクター




- [内蔵ディスプレイ]の[LCDパネル]のチェックをはずすと、本機の液晶ディスプレイの表示を消すことができます。
- CRT/Projectorを選んだときは、お使いのディスプレイに合わせ、解像度スライダーを動かしてデスクトップの広さを、リフレッシュ率スライダーを動かしてディスプレイの水平周波数を設定できます。



7 [OK]をクリックする。  
「画面のプロパティ」に戻ります。

8 [OK]をクリックする。  
選んだディスプレイが有効になります。

 Fnキーとファンクションキーを組み合わせて押しても、表示するディスプレイを切り換えられます。

詳しくは、「Fnキーとの主な組み合わせと機能」(151ページ)をご覧ください。

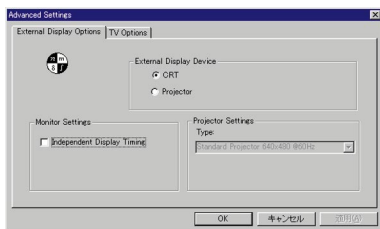
#### ご注意

- 本機のMONITORコネクタにつないだコンピューター用ディスプレイと、VIDEO OUTコネクタにつないだテレビなどは同時表示できません。
- 本機のVIDEO OUTコネクタにつないだテレビに画像を表示させたいときは、MONITORコネクタにはなにもつながないでください。
- コンピューター用ディスプレイやプロジェクターの種類によっては、本機の液晶ディスプレイと同時表示できないものもあります。

## CRTに表示するときは

「表示するディスプレイを選ぶ」(119ページ)の手順6で「CRT/Projector」を選んだときは、表示するコンピューター用外部ディスプレイの種類(CRT、プロジェクター)やプロジェクターの対応解像度などが設定できます。

- 1 「表示するディスプレイを選ぶ」(119ページ)の手順6で [Advanced Settings] をクリックする。  
「Advanced Settings」が表示されます。



- 2 [External Display Options] タブをクリックする。

### External Display Device

設定	機能
CRT	コンピューター用外部ディスプレイを接続
Projector	プロジェクターを接続

### Monitor Settingsの「Independent Display Timing」

ディスプレイの解像度やリフレッシュシートを、内蔵液晶ディスプレイとは別々に設定できます。

### Projector Settings

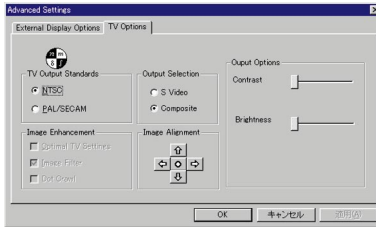
お使いのプロジェクターの対応解像度を選びます。

- 3 [OK] をクリックする。

## テレビに表示するときは

「表示するディスプレイを選ぶ」(119ページ)の手順6で「TV」を選んだときは、表示するテレビの方式の設定や、表示位置の調節ができます。

- 1 「表示するディスプレイを選ぶ」(119ページ)の手順6で  
[ Advanced Settings ]をクリックする。  
「Advanced Settings」が表示されます。
- 2 [ TV Options ]タブをクリックする。



### TV Output Standards

設定	機能
NTSC	日本の通常のテレビに接続
PAL/SECAM	PAL方式のテレビやビデオモニターに接続

#### ご注意

[ PAL/SECAM ]を選んで、SECAM方式のテレビやビデオモニターには表示できません。

### Output Selection

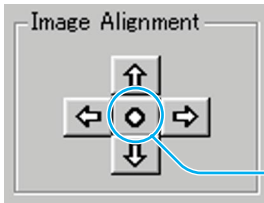
設定	機能
S Video	無効(本機では使えません)
Composite	通常のビデオ出力

### Image Enhancement

設定	機能
Optimal TV Settings	テレビで見やすい解像度に変換して表示
Image Filter	テレビ表示のちらつきを改善
Dot Crawl	無効(本機では使えません)

## Image Alignment

画面の表示位置を設定します。



画面の中央に表示します。

矢印ボタンを押すと、矢印の方向に表示位置が移動します。

## Output Options

設定	機能
Contrast	明度の範囲(コントラスト)を調整
Brightness	明るさ(ブライトネス)を調整

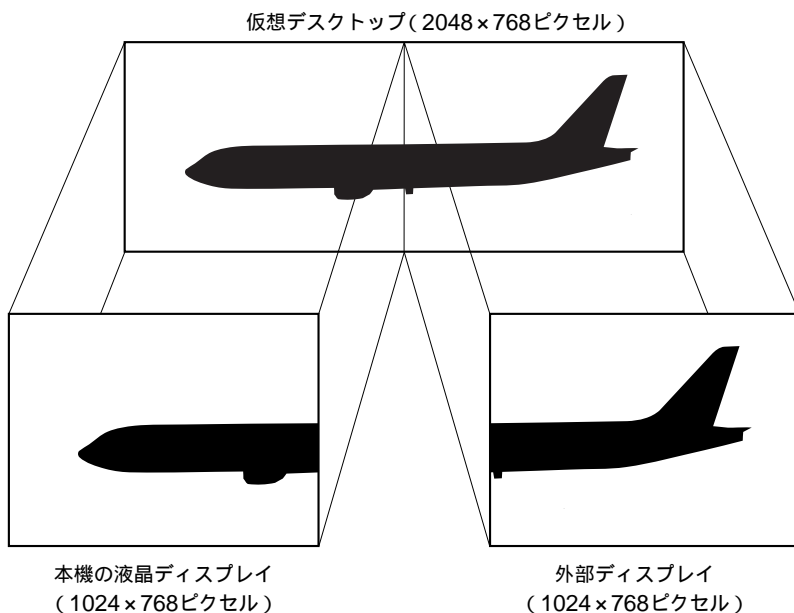
**3** [OK]をクリックする。

# デュアルディスプレイを使う

## デュアルディスプレイとは

デュアルディスプレイとは、複数のディスプレイを使って、ひとつの大きな仮想デスクトップを実現する機能です。

### 仮想デスクトップの例

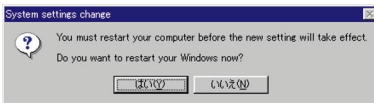


画面が広く使えるだけでなく、片方の画面にアプリケーション本体を置き、もう片方の画面にツールパレットやアイコンバーを置くなど、くふう次第で画面を効率よく使うことができます。

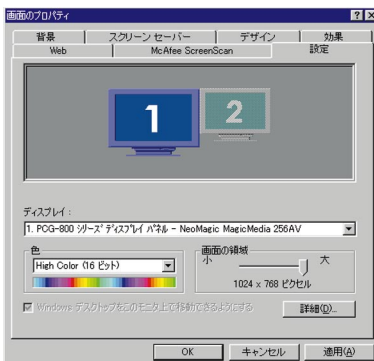
## デュアルディスプレイを設定する

本機では、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの組み合わせか、液晶ディスプレイとTVの組み合わせで、デュアルディスプレイを利用できます。

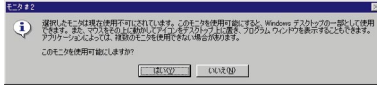
- 1 [スタート]ボタンをクリックして[設定]にポインターを合わせ、[コントロールパネル]をクリックする。  
「コントロールパネル」が表示されます。
- 2 [画面]をダブルクリックする。  
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 3 [設定]タブをクリックする。
- 4 [詳細]をクリックする。  
「NeoMagic MagicMedia 256AVのプロパティ」が表示されます。
- 5 [NeoMagic]タブをクリックする。
- 6 [デュアルディスプレイ設定]をチェックし、[OK]をクリックする。



- 7 [OK]をクリックする。  
Windowsが再起動されます。
- 8 手順1～3の操作で「画面のプロパティ」を表示する。



## 9 数字の2が書かれているモニターの絵をクリックする。



## 10 [OK] をクリックする。

## 11 [OK] をクリックする。

デュアルディスプレイが有効になります。

## 画面の色と解像度を変更する

仮想デスクトップを構成する各ディスプレイごとに、画面の色数と解像度を設定できます。

「画面のプロパティ」で、変更したいディスプレイをクリックし、「色」リストで色数を、「画面の領域」のスライダーで解像度を設定します。

## 仮想デスクトップのつながりを変更する

仮想デスクトップのつながりかたを変更できます。

「画面のプロパティ」で、数字の2が書かれているモニターの絵をドラッグし、数字の1が書かれているモニターと接するように移動させます。仮想デスクトップが、表示されている画面の形に変わります。



## デュアルディスプレイを解除する

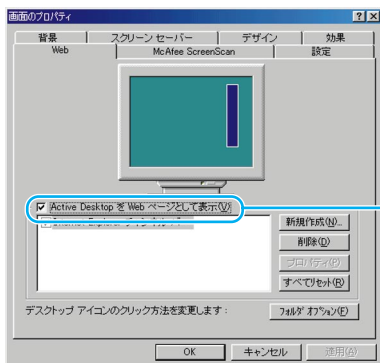
「デュアルディスプレイを設定する」(126ページ)と同様の操作を行い、手順6で[デュアルディスプレイ設定]のチェックをはずし、Windowsを再起動します。

# アクティブデスクトップをWindows 98のデスクトップ画面からはずす

本機の初期設定では、Microsoft Internet Explorer 4.01の機能の1つである「アクティブデスクトップ」が標準のデスクトップ画面になっています。

このアクティブデスクトップ画面を、Windows 98のデスクトップ画面に表示しないよう、変更することもできます。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[設定]にポインターを合わせ、[コントロールパネル]をクリックする。  
「コントロールパネル」が表示されます。
- 2 [画面]をダブルクリックする。  
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 3 [Web]タブをクリックする。
- 4 [Active DesktopをWebページとして表示]をクリックして、チェックをはずす。



ここをクリックして  
チェックをはずします。

- 5 [OK]をクリックする。  
Windows 98のデスクトップ画面からアクティブデスクトップがはずれます。



# タッチパッドを便利に使う

本機に付属している「マウスウェア」を使うことで、タッチパッドをより便利に使えます。ほとんど手やポインターの位置を動かさずに片手で本機を快適に操作できます。

- タップ機能の使い方(フィンガージェスチャー)
- マウスボタンに機能を割り当てる(ボタンカスタマイズ)
- ポインターの位置を動かさずに、垂直または水平方向にスクロールする(スクローラー)
- Windowsのよく使う機能を1つのグリッドにまとめて使用する(ハイパージャンプ)
- スクロールバーを使わずに画面をスクロールする(ユニバーサルスクロール)

## タップ機能を使う

左、右のマウスボタンのクリック、左右ボタンの同時クリック、ダブルクリックやドラッグといった動作をタッチパッド面を1~3本の指を使ってタップ(タッチパッド面を指で軽くたたく)すると同じ操作をすることができます。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[プログラム]にポインターを合わせ、[マウスウェア]から[マウスのプロパティ]をクリックする。

「マウスのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。



## 2 [タッチパッド]タブをクリックし、「タップの使用をオン」を チェックする。

1～3本の指で操作できる設定項目が表示されます。



## 3 [OK]をクリックする。

タップ機能が使えるようになります。

### タップジェスチャーとマウスボタン

マウスボタン	タップジェスチャー
左ボタンのクリック	タッチパッド面を1本の指で素早くタップする。
左右ボタンの同時クリック	タッチパッド面を2本の指で素早くタップする。
右ボタンのクリック	タッチパッド面を3本の指で同時に素早くタップする。
各ボタンのダブルクリック	上記のジェスチャーをトントンと2回繰り返す。
各ボタンのドラッグ	上記のジェスチャーを2回繰り返し、2回目の後すぐにドラッグする。

👁️ タップジェスチャーでボタンを押したときの機能は変更できます。詳しくは「マウスボタンに機能を割り当てる」(次ページ)をご覧ください。

### タップ機能を無効にするには

上記手順2の画面で「タッチパッド」タブをクリックし、「タップの使用をオン」のチェックをはずしてください。

## マウスボタンに機能を割り当てる

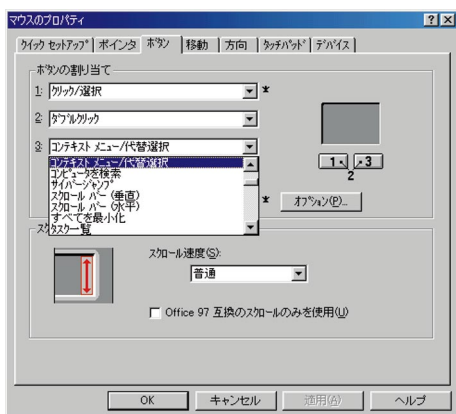
マウスウェアでは、左、右、左右ボタンを押したときの機能を、メニューから選んで置き換えられます。タップジェスチャーを使ってボタンを押したときの機能も置き換えられます。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[プログラム]にポインターを合わせ、[マウスウェア]から[マウスのプロパティ]をクリックする。

「マウスのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

- 2 [ボタン]タブをクリックする。

リストボックスにボタン割り当ての設定項目が表示されます。



- 3 変更したい設定項目をクリックして選び、マウスボタンに割り当てる。

- 4 [OK]をクリックする。

変更した設定が有効になります。

### ご注意

少なくともいずれか1つのボタンには「クリック/選択」に設定する必要があります。「クリック/選択」になっていないと、警告ダイアログボックスが表示されます。

## スクローラー機能を使う

スクローラー機能を使うと、マウスポインターの位置を動かさずに、タッチ패드面の右端を上下になぞると垂直方向にスクロールすることができます。また、タッチ패드面の下端を左右になぞると水平方向にスクロールすることができます。

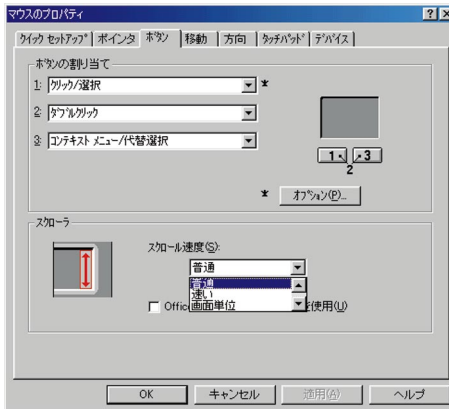
スクロールの速度を変更することもできます。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[プログラム]にポインターを合わせ、[マウスウェア]から[マウスのプロパティ]をクリックする。

「マウスのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

- 2 [ボタン]タブをクリックする。

スクロールの速度の設定項目が表示されます。



- 3 変更したい設定項目を、好みの動作にする。

普通	標準的なスクロール速度です。
遅い	スクロール速度が遅くなります。
速い	スクロール速度が速くなります。
画面単位	1画面ずつスクロールします。
なし	まったくスクロールしません。

- 4 [OK]をクリックする。

変更した設定が有効になります。

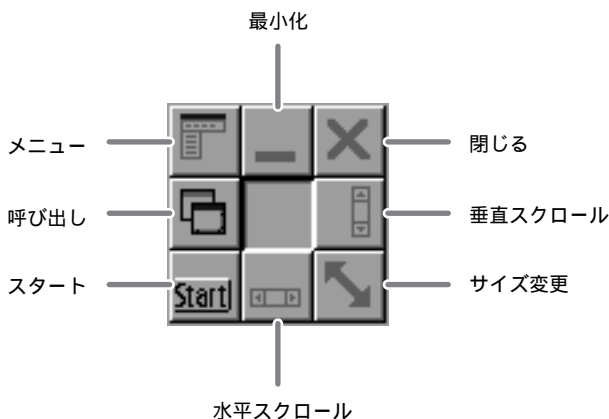
## ハイパージャンプ機能を使う

ハイパージャンプ機能を使うと、よく使う機能を1つのグリッドにまとめた形で使用することができます。

ハイパージャンプ機能を使うには、あらかじめマウスポタンの1つに「ハイパージャンプ」を割り当てておく必要があります。詳しくは131ページの「マウスポタンに機能を割り当てる」をご覧ください。

**1** 操作したいウィンドウ上にマウスポインターを動かす。

**2** 割り当てられたボタンをクリックする。  
「ハイパージャンプ」グリッドが表示されます。



メニュー	ハイパーメニューを実行します。 このアイコンをクリックすると、マウスポインターのあるウィンドウのメニューが表示されます。
最小化	現在のアクティブなウィンドウを最小化します。
閉じる	アクティブなウィンドウを閉じます。
垂直スクロール	垂直スクロールバーにジャンプします。
サイズ変更	ウィンドウのサイズを変更する、ウィンドウの角へジャンプします。
水平スクロール	水平スクロールバーにジャンプします。
スタート	スタートメニューをアクティブにします。
呼び出し	最後にアクティブだったウィンドウを呼び出します。

## ユニバーサルスクロール機能を使う

ユニバーサルスクロール機能を使うと、スクロールバーを使わずに画面をスクロールすることができます。

ユニバーサルスクロール機能を使うには、あらかじめマウスボタンの1つに「ユニバーサルスクロール」を割り当てておく必要があります。詳しくは131ページの「マウスボタンに機能を割り当てる」をご覧ください。

- 1 操作したいウィンドウ上にマウスポインターを動かす。
- 2 割り当てられたボタンをクリックする。  
マウスポインターの形が変わります。



ユニバーサルスクロール用の  
マウスポインター

- 3 動かしたい方向にタッチパッド面をなぞる。  
動かした方向に画面が移動します。

ユニバーサルスクロールを終了するには  
いずれかのマウスボタンをクリックします。

---

# その他

# 第4章

# 使用上のご注意

## 本機の取り扱いについて

- 本体に手やひじをつくなどして力を加えないでください。本機の液晶ディスプレイはガラスできています。力を加えると、ガラスが割れてしまいます。
- 衝撃を加えたり、落としたりしないでください。記録したデータが消失したり、本機の故障の原因となります。
- 炎天下や窓をしめきった自動車内など、異常な高温になる場所には置かないでください。本機が変形し、故障の原因となることがあります。
- クリップなどの金属物を本機の中に入れないでください。
- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。

## 結露について

結露とは本機を寒い場所から急に暖かい場所に持ち込んだときなどに、本機の表面や内部に水滴がつくことで、そのままご使用になると故障の原因となります。

結露が起きたときは、電源を入れずに約1時間放置してください。

## 液晶ディスプレイについて

- 液晶ディスプレイの表面を濡れたもので拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- 液晶ディスプレイに物をのせたり、落としたりしないでください。また、手やひじをつくなどして力を加えないでください。
- 本機を戸外など寒冷な場所から室内へ持ち込むと、液晶ディスプレイに結露が生じることがあります。結露が生じたら、水滴をよく拭き取ってからご使用ください。水滴を拭き取る時は、ティッシュペーパーをお使いになることをおすすめします。液晶面が冷えているときは、水滴を拭き取っても、また結露が生じてしまいます。液晶面が室温に暖まるまでお待ちください。
- 液晶ディスプレイは非常に精密度の高い技術でつくられていますが、黒い点が現れたり、赤と青、緑の点が消えないことがあります。(有効画素99.99%以上)また、見る角度によってすじ状の色むらや明るさのむらが見える場合があります。これらは、液晶ディスプレイの構造によるもので、故障ではありません。

## ハードディスクの取り扱いについて

ハードディスクは、フロッピーディスクに比べて記憶密度が高く、データの書き込みや読み出しに要する時間も短いという特長があります。その一方、



ほこりや振動に弱い装置でもありません。また、フロッピーディスク同様に磁気を帯びた物に近い場所での使用は避けなければなりません。

ハードディスクにはほこりや振動からデータを守るための安全機構が組み込まれていますが、記憶したデータを失ってしまうことのないよう、次の点に特にご注意ください。

- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- 電源を入れたまま、本機を動かさないでください。
- データの書き込み中や読み込み中は、電源を切ったり再起動したりしないでください。
- 急激な温度変化(毎時10 以上の変化)のある場所では使用しないでください。

何らかの原因でハードディスクが故障した場合、データの修復はできませんのでご注意ください。

## バックアップを取る

ハードディスクは非常に多くのデータを保存することができますが、その反面、ひとたび事故で故障すると多量のデータが失われ、取り返しのつかないこととなります。万一のためにも、ハードディスクの内容は定期的にバックアップを取ることをおすすめします。アプリケーションプログラムはオリジナルがCD-ROMやフロッピーディスクにありますので、バックアップが必要なのはデータなどです。ハードディスクのバックアップ、バックアップの内容の戻しかたについて詳しくは、Windows 98のヘルプをお読みください。

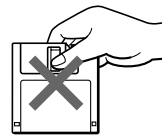
## ハードディスクドライブを取りはずさないでください

故障の原因になります。

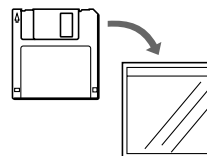
## フロッピーディスクの取り扱いについて

フロッピーディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにごご注意ください。

- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものに近づけないでください。フロッピーディスクに記録されているデータが消えてしまうことがあります。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。フロッピーディスクが変形し、使用できなくなります。
- 手でシャッターを開けてディスクの表面に触れないでください。フロッピーディスクの表面の汚れや傷により、データの読み書きができなくなることがあります。



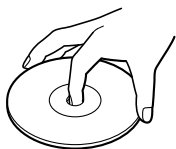
- フロッピーディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、フロッピーディスクはフロッピーディスクドライブから取り出して、必ずケースなどに入れて保管してください。



## CD-ROMの取り扱いについて

CD-ROMに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- 文字の書かれていない面（再生面）に触れないようにして持ちます。



- 紙などを貼ったり、傷つけたりしないでください。



- ほこりやちりの多いところ、直射日光の当たるところ、暖房器具の近く、湿気の多いところには保管しないでください。
- CD-ROMに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、CD-ROMは必ずケースなどに入れて保管してください。

## ACアダプターについて

本機には、付属のACアダプター（極性統一形プラグ・EIAJ規格）をご使用ください。上記以外のACアダプターを使用すると、故障の原因になることがあります。



極性統一形プラグ

## コンピューターウイルスについて

コンピューターウイルスとは、コンピューターの中のファイルやプログラムに悪影響を与えるプログラムのことです。ほとんどがいたずら半分で作成されたものですが、下記の「コンピューターウイルスに侵入されると...」に見られるような被害が起きてしまいます。

コンピューターウイルスは他のプログラムと異なり、それ自体が増殖し、データのコピーなどを通じて他のコンピューターにも悪影響を及ぼしていきます。

### コンピューターウイルスに侵入されると...

- 意味不明なメッセージや、ウイルスが侵入したことを知らせるメッセージが画面上に表示される。
- ファイルが勝手に消去される。
- ハードディスク上の情報が意味のないものに書き換えられる。
- 画面上に意味のないものが表示される。
- ハードディスクの空き容量が急に少なくなる。

### コンピューターウイルスを侵入させないために

- 見知らぬ人から送られてきた、またはネットワーク経由で入手した文書やプログラムなどのデータは必ずウイルスチェックをする。

- 本機にはコンピュータウィルス検査・ウィルス除去用ソフトウェアとして、「VirusScan」ソフトウェアが付属しています。使いかたについて詳しくは、「VirusScan」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。また、ウィルスに関するデータファイルを常に更新することをお勧めします。インターネット上で、下記のURLから最新のデータファイルを入手できます。  
<http://www.mcafee.com/japanese/>
- コンピューターウィルスはフロッピーディスクなどを介して広がる場合がありますので、他人のフロッピーディスクなどを使うときはご注意ください。フロッピーディスクなどのデータを共有する場合は、共有する人を限定してください。

ウィルスが侵入して被害を受けてしまったときに備えて、日頃から作成した文書のバックアップをとる習慣をつけましょう。

## ソフトウェアの不正コピー禁止について

本機に付属のソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。これらのソフトウェアを不正にコピーすることは法律で禁止されています。

また、店頭で購入したソフトウェアを人に貸したり、人からソフトウェアを借りてコピーして使うことは禁じられています。ソフトウェアの使用許諾書をよくお読みのうえ、お使いください。

## データのバックアップについて

ハードディスクドライブに保存している文書などのデータは、定期的にバックアップをとるようおすすめします。データの損失については、一切責任を負いかねます。

## ソフトウェアと周辺機器の動作について

一般的にWindows 98用、DOS/V用などと表記している市販ソフトウェアや周辺機器の中には、本機で使用できないものがあります。ご購入に際しては、販売店または各ソフトウェアおよび周辺機器の販売元にご確認ください。市販ソフトウェアおよび周辺機器を使用された場合の不具合や、その結果生じた損失については、一切責任を負いかねます。

## お手入れ

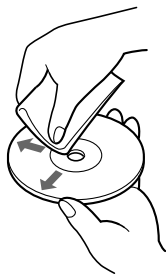
- 本機についたゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。
- 液晶ディスプレイは、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。汚れてきたと思ったら、こまめに拭くように心がけてください。

### ご注意

- 濡れたもので液晶ディスプレイを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。  
化学ぞうきんをお使いになるときは、その注意書きに従ってください。

## CD-ROMのお手入れ

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、読みとりエラーの原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方へ軽く拭きます。



- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた布で拭いたあと、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

## リモコンプラグのお手入れについて

リモコンプラグが汚れていると雑音の原因になることがあります。常によい音でお聞きいただくために、リモコンの先端のプラグ部をときどき柔らかい布でからぶきしてください。

# 保証書と アフターサービス

## 保証書

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より3ヶ月間です。ユーザー登録していただいたお客様は1年間になります。

## アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックをこの取扱説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはVAIOテクニカルレスポンスセンターへご連絡ください

VAIOテクニカルレスポンスセンターについては、添付の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

### 保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。

詳しくは保証書をご覧ください。

### 保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

## 修理について

当社ではノートブックコンピューターの修理は引取修理を行っています。当社指定業者がお客様宅に修理機器をお引き取りにうかがい、修理完了後にお届けします。詳しくは添付の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

### データのバックアップのお願い

修理に出すまえに、ハードディスクなどの記録媒体のプログラムおよびデータは、お客様にてバックアップされますようお願いいたします。当社の修理により、ハードディスク内のプログラムおよびデータが万一消去あるいは変更された場合に関しても、当社は一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

なお、ハードディスクなどの記録媒体そのものの故障の場合には、プログラムおよびデータの修復はできません。

### 交換部品の所有権について

修理によって交換された旧部品は、当社の所有となりますので、あらかじめご了承ください。

## 部品の保有期間について

当社ではノートブックコンピューターの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店か、VAIOテクニカルレスポンスセンター修理窓口にご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名：PCG-808またはPCG-803
- 製造番号：
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：

---

# 主な仕様

## 本体

---

### プロセッサ

モバイルPentium® II プロセッサ  
266 MHz (PCG-808)、233MHz (PCG-803)

---

### チップセット

Intel® 440BXチップセット

---

### 2次キャッシュ

512 Kバイト

---

### メインメモリ

64 Mバイト (SDRAM)  
最大192Mバイトまで拡張可能

---

### メモリスロット

SODIMMスロット(1)

---

### グラフィックアクセラレーター

256ビット高速グラフィックアクセラレーター  
NeoMagic Magic Graph 256AV  
(NM2200)

---

### ビデオメモリ

2.5 Mバイト (ビデオチップ内蔵)

---

### 液晶ディスプレイ表示モード

1,024 × 768ドット (約1,677万色)  
800 × 600ドット (約1,677万色)<sup>1)</sup>  
640 × 480ドット (約1,677万色)<sup>1)</sup>  
<sup>1)</sup> グラフィックアクセラレーターのデザイン  
により実現

---

### 外部ディスプレイ表示モード

1,280 × 1,024ドット (256色)  
1,024 × 768ドット (約1,677万色)  
800 × 600ドット (約1,677万色)  
640 × 480ドット (約1,677万色)

---

### フロッピーディスクドライブ

3.5インチ、1.44 Mバイト / 1.2 Mバイト /  
720 Kバイト

---

### ハードディスクドライブ

4Gバイト

---

## CD-ROMドライブ

最大24倍速、平均17倍速  
マルチセッション対応、12 / 8 cm対応トレイ  
タイプ

---

## 外部接続端子

### MONITORコネクター

アナログRGB、ミニD-SUB15ピン(1)

### FDD/PRINTERコネクター

ECP、D-SUB25ピン(1)

### MOUSE/KEYBOARDコネクター

PS / 2、ミニDIN6ピン(1)

### SERIALコネクター

RS-232C、D-SUB9ピン(1)

### USBコネクター

USB4ピン(1)

### VIDEO OUTコネクター

NTSC / PAL対応、ミニジャック(1)

### MIC入力コネクター

モノラルミニジャック(1)

### ライン入力コネクター

ステレオミニジャック(1)

### ヘッドフォン出力コネクター

ステレオミニジャック、リモコン機能対応(1)

### モデムコネクター

モジュラージャック(1)

### 赤外線通信ポート

IrDA 1.1、最大4 Mbps(1)

---

## PCカードスロット

Type III × 1、Type I / II × 2、ZV portおよび  
Cardbus対応

---

## オーディオ機能

SoundBlasterPro互換(16ビットステレオ)、  
ステレオスピーカー

---

## 内蔵ファックスモデム

最大56 Kbps (K56flex) / 14,400bps  
(ファックス時)、ボイス機能対応、ハンズフ  
リー電話機能対応

---

## ポインティングデバイス

タッチパッド

---

### 電源・その他

電源

ACアダプターまたはリチウムイオンバッテリー

バッテリー駆動時間

約2~4時間(1本) 約4~8時間(2本)

動作温度

5 ~ 35 (温度勾配10 /時以下)

動作湿度

20%~80%(結露のないこと)

保存温度

-20 ~ 60 (温度勾配10 /時以下)

保存湿度

20%~90%(結露のないこと)

外形寸法

約297 × 38<sup>2)</sup> × 236 mm(幅/高さ/奥行き)

質量

約2.4 kg(バッテリー1本装着時)

<sup>2)</sup>最薄部

---

### ACアダプター

電源

AC 100~240 V、50/60 Hz  
(付属電源コードはAC100V用)

消費電力

最大80 W

出力電圧・電流

最大19.5 V、3.3 A

動作温度

5 ~ 35 (温度勾配10 /時以下)

動作湿度

20%~80%(結露のないこと)

保存温度

-20 ~ 60 (温度勾配10 /時以下)

保存湿度

20%~90%(結露のないこと)

外形寸法

約60 × 30 × 125 mm(幅/高さ/奥行き)

質量

約300 g

---

## バッテリーパック

出力電圧・容量

14.8 V、2600 mAh

動作温度

5 ~ 35 (温度勾配10 /時以下)

動作湿度

20%~80%(結露のないこと)

保存温度

-20 ~ 60 (温度勾配10 /時以下)

保存湿度

20%~90%(結露のないこと)

外形寸法

約77 × 19 × 141 mm(幅/高さ/奥行き)

質量

約340 g

---

### 付属品・別売り品

---

#### 付属品

「はじめにお読みください」をご覧ください。

---

#### 別売り品

ACアダプター

PCGA-AC71

バッテリーパック

PCGA-BP7

ドッキングステーション

ネットワークドッキングステーション

PCGA-DB8

パーソナルドッキングステーション

PCGA-DH8

メモリーモジュール

32Mバイト増設メモリーモジュール

PCGA-MM732

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

その  
他

# リカバリCDで本機を再セットアップする

ここでは、付属のプロダクト リカバリ CD-ROM(以後、リカバリCDと略します)を使って、本機を再セットアップする方法を説明します。

## リカバリCDとは

リカバリCDには、出荷時のハードディスク中のすべてのファイルが保存されています。誤ってハードディスクを初期化してしまったり、プリインストールされているソフトウェアを消してしまった場合には、リカバリCDを使ってハードディスクの内容を出荷時の状態に戻すことができます。

リカバリCDを使うと、次のことができます

- ハードディスクを初期化したうえで、すべてのファイルを復元する。
- ハードディスクを初期化せずに、すべてのファイルを復元する。

### ご注意

- 付属のリカバリCDは本機でのみ使用できます。他の製品では動作しません。
- リカバリCDで再セットアップできるのは、本機に標準で付属されているソフトウェアのみです。ご自分でインストールしたソフトウェアや、作成したデータを復元することはできません。またWindows 98だけを復元することもできません。
- ご自分で変更された設定は、再セットアップ後はすべて初期値に戻ります。再セットアップ後に、もう1度設定し直してください。
- ハードディスクを初期化した場合、それ以前にハードディスク上にあったファイルはすべて消えてしまいます。また、ハードディスクを初期化しない場合でも、ハードディスク上のファイル保存されることを保証するものではありません。再セットアップを行う前に、大切なデータは必ずフロッピーディスクに保存するなどして、バックアップをとっておいてください。
- ハードディスクを初期化せずにすべてのファイルを復元した場合、システムが正常に動作しないことがあります。このような場合は、もう1度再セットアップを行って、ハードディスクを初期化してから、すべてのファイルを復元してください。
- リカバリCDで再セットアップしたあと、続いてWindows 98のセットアップを行う必要があります。その際、付属のMicrosoft Windows 98 ファーストステップガイドの表紙に記載されている、Product IDが必要になります。Microsoft Windows 98 ファーストステップガイドは大切に保管してください。



## 準備する

- 1 CD-ROMドライブを本機に取り付ける。  
詳しくは、「CD-ROMを使う」(43ページ)をご覧ください。  
本機をドッキングステーションに装着しているときは、ドッキングステーションを取りはずします。
- 2 本機をACアダプターにつなぎ、AC電源を接続する。

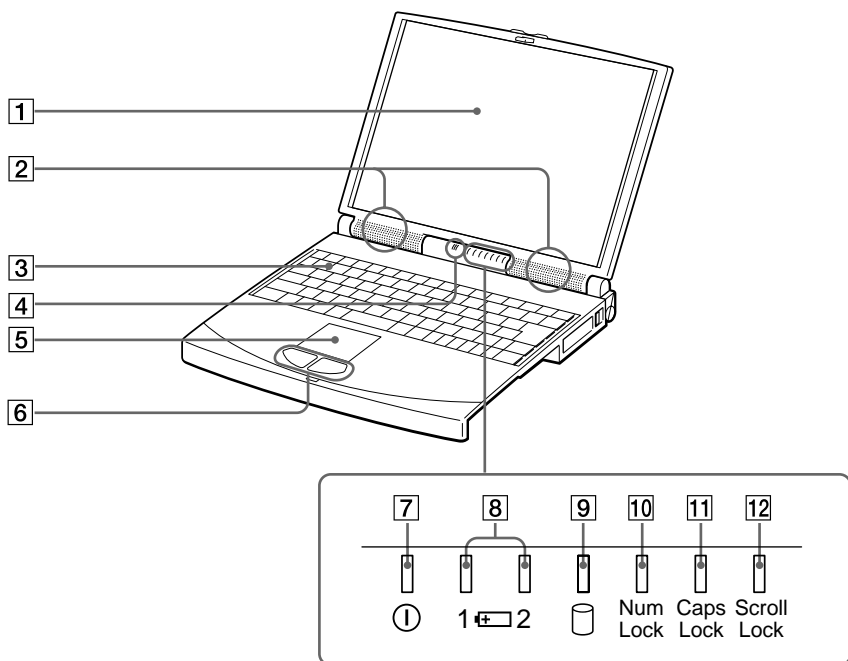
## 再セットアップする

以下の手順を行います。

- 1 付属のリカバリCDをCD-ROMドライブに入れてから、[スタート]ボタンをクリックし、[スタート]メニューの[Windowsの終了]をクリックする。
- 2 「電源を切れる状態にする」をクリックして選択し、[OK]をクリックする。
- 3 F2キーを押しながら、電源を入れる。  
BIOSセットアップ画面が表示されるまで、F2キーを押し続けてください。
- 4 Escキーを押す。
- 5 または キーで[Get Default Values]を選択し、Enterキーを押す。
- 6 「Load default configuration now?」と表示されるので、「YES」を選択して、Enterキーを押す。
- 7 Enterキーを押す。
- 8 「Save configuration changes and exit now?」と表示されるので、「YES」を選択して、Enterキーを押す。  
リカバリCDから本機が再起動します。
- 9 画面の指示にしたがって操作する。  
操作を続けるかどうかを聞かれたときはYキーを押し、Enterキーを押してください。

# 各部のなまえ

詳しい説明は、( )内のページをご覧ください。



① 液晶ディスプレイ  
(22、119ページ)

② 内蔵スピーカー  
(59、151ページ)

③ キーボード(28、150ページ)

④ 内蔵マイク(59ページ)

⑤ タッチパッド(26、102ページ)

⑥ 左 / 右ボタン(26、131ページ)

⑦ パワーランプ(23ページ)

⑧ バッテリー1 / 2ランプ  
(47ページ)

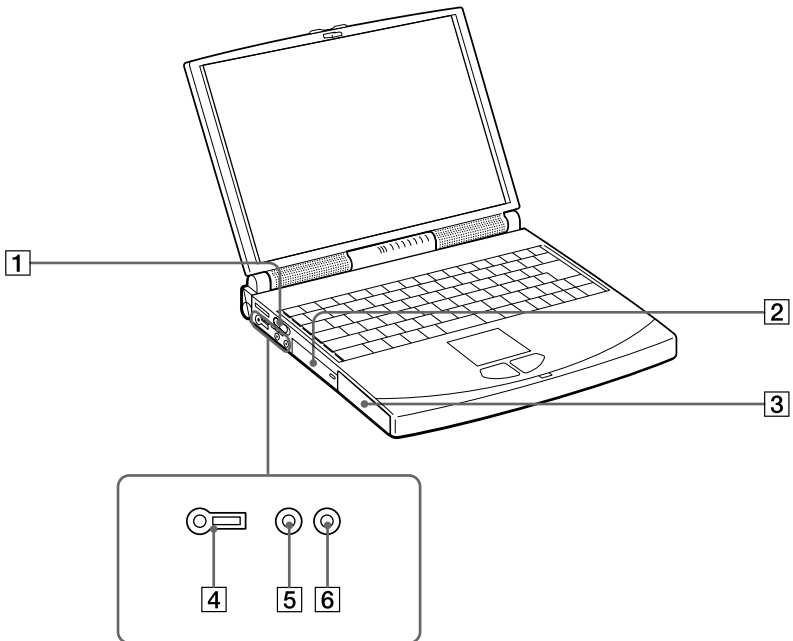
⑨ ハードディスクランプ

⑩ Num Lockランプ(156ページ)

⑪ Caps Lockランプ

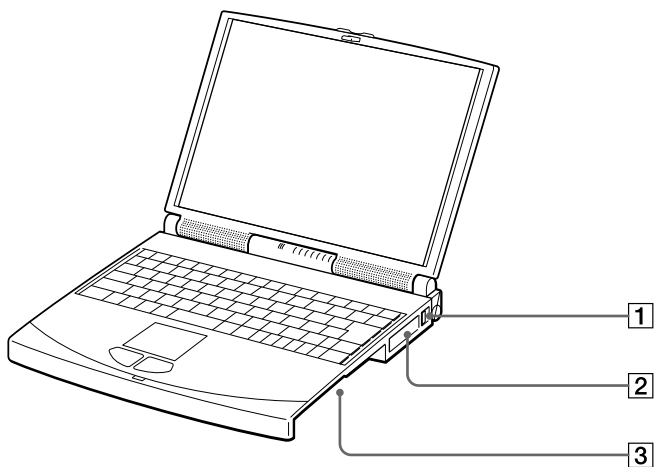
⑫ Scroll Lockランプ

## 本機左側面



- ❶ パワースイッチ(23ページ)
- ❷ 内蔵ハードディスク
- ❸ バッテリーベイ(48ページ)
- ❹ 〰(ヘッドホン)コネクター  
(69、85ページ)
- ❺ 〰(マイク)コネクター  
(85ページ)
- ❻ 〰(LINE IN)コネクター

## 本機右側面

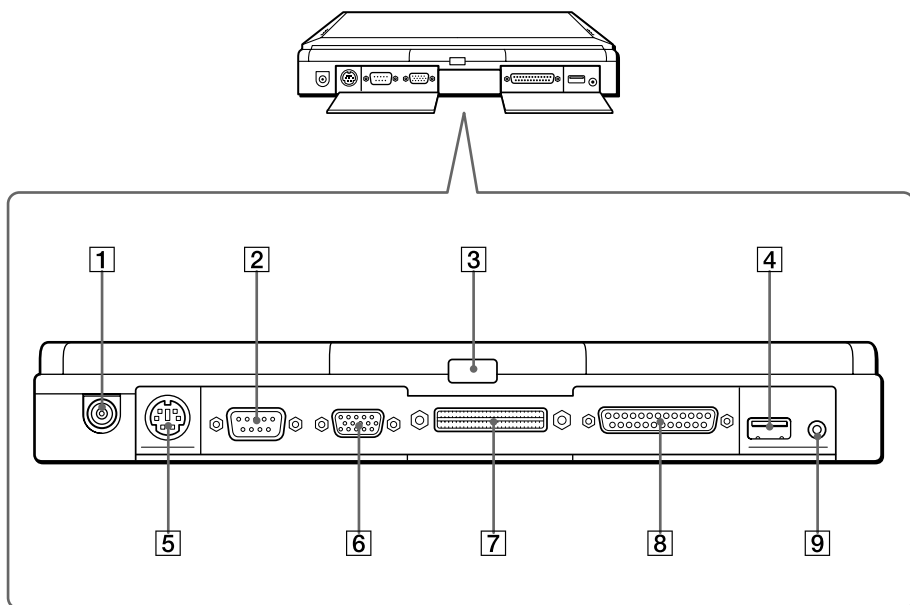


① モジュージャック (75ページ)

② PCカードスロット (92ページ)

③ マルチパーパスベイ  
(39、43ページ)

## 本機後面













- |                                     |                                     |
|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 1 DC INコネクター (22ページ)                | 6 □ MONITORコネクター (79、80ページ)         |
| 2 SERIALコネクター (80、83ページ)            | 7 ドッキングコネクター (86ページ)                |
| 3 赤外線通信ポート (63、81ページ)               | 8 □ / □ FDD/PRINTERコネクター (38、78ページ) |
| 4 USBコネクター (84ページ)                  | 9 ⇨ VIDEO OUTコネクター (80ページ)          |
| 5 □ / □ MOUSE/KEYBOARDコネクター (86ページ) |                                     |

# キーボードショートカット


## Windowsキーとの主な組み合わせと機能

キー操作の表記

例：Windowsキーを押しながらFキーを押す。→  +F


組み合わせ	機能
 +F1	Windowsのヘルプを表示します。
 +Tab	タスクバーに表示されているボタンの選択を切り換えます。
 +E	エクスプローラー <sup>1)</sup> を表示します。
 +F	「ファイルやフォルダ」の検索ウィンドウを表示します。 [スタート]メニューから[検索]を選んだときと同じです。
 +Ctrl+F	「ほかのコンピュータ」の検索ウィンドウを表示します。 [スタート]メニューから[検索]を選んだときと同じです。
 +M	表示されているすべてのウィンドウを最小化します。
Shift+  +M	最小化されているすべてのウィンドウを元のサイズに戻します。
 +R	「ファイル名を指定して実行」ウィンドウを表示します。 [スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行...]を選んだときと同じです。
 +Fn+Insert <sup>2)</sup>	「システムのプロパティ」ウィンドウを表示します。 「コントロールパネル」の[システム]アイコンをダブルクリックしたときと同じです。









<sup>1)</sup> コンピューターの内容(ファイルやフォルダ)をツリー図で表示します。作成したファイルなどがコンピューターのどこに保存されているか、一目で確認できます。


<sup>2)</sup> 本機だけの操作です。他機で操作する場合は、 +Pauseを押します。

## Fnキーとの主な組み合わせと機能

### キー操作の表記

例：Fnキーを押しながらEsc(エスケープ)キーを押す。→ Fn +  (Esc)

組み合わせ	機能
Fn +  (Esc)	本機の液晶ディスプレイとハードディスクドライブへの電源供給を停止して、使用電力を削減します。CPUへの電源供給も停止します。(システムサスペンドモード)
Fn + j (F2)	使用電源の状況を表示します。 例)  AC電源で使用中心  バッテリーを充電中
Fn + * (F3)	本機の内蔵スピーカーの音声を入/切します。
Fn + < (F4)	本機の内蔵スピーカーの音量が調節できます。このコマンドを実行すると、数秒間だけ音量表示が表示されます。このときに または キーを押すと大きくなり、 または キーを押すと小さくなります。(64段階で調節できます)
Fn + ☀ (F5)	液晶ディスプレイの明るさを調節できます。このコマンドを実行すると、数秒間だけ明るさ表示が表示されます。このときに または キーを押すと明るい画像になり、 または キーを押すと暗い画像になります。(9段階で調節できます)
Fn +  /  (F7)	MONITORコネクタに接続したコンピューター用ディスプレイと、本機の液晶ディスプレイの表示を切り換えます。 液晶ディスプレイのみ 液晶ディスプレイと外部ディスプレイ同時表示 外部ディスプレイのみ 液晶ディスプレイのみ ...
Fn +  /  (F8)	VIDEO OUTコネクタに接続したテレビなどの外部モニターと、本機の液晶ディスプレイの表示を切り換えます。 液晶ディスプレイのみ 液晶ディスプレイと外部モニター同時表示 液晶ディスプレイのみ...
Fn +  (F9)	充電されたバッテリーが本機に取り付けられているときに、電源の入った状態でドッキングステーションから取りはずしできるようにします。

組み合わせ	機能
Fn+  (F12)	本機の液晶ディスプレイとハードディスクドライブだけでなく、CPUやRAMへの電源供給も停止します。使用環境はハードディスクに書き込まれるので、復帰後もそのまま作業できます。(システムハイバネーションモード)
Fn+E	本体のマルチパーパスベイにCD-ROMドライブを取り付けているときは、CD-ROMをイジェクトします。ドッキングステーションにCD-ROMドライブを取り付けているときは、動きません。
Fn+F	画面の解像度を液晶パネルの解像度より低くしているとき、液晶ディスプレイの表示を拡大/縮小することができます。
Fn+D	液晶ディスプレイへの電源を切り、ビデオスタンバイ状態になります。いずれかのキーを押すともとの状態に戻ります。



# 故障かな？と思ったら

VAIOテクニカルレスポンスセンターにご相談になる前にもう1度チェックしてみてください。それでも具合が悪いときはVAIOテクニカルレスポンスセンターまたはお買い上げ店にご相談ください。

## ご注意

接続し直すときは、かならず「電源を入れる」(22ページ)の手順にしたがい、いったん電源を切ってください。

症状	原因 / 対策
電源が入らない。	<ul style="list-style-type: none"><li>● 本機とACアダプター、ACアダプターと電源コード、電源コードとコンセントがそれぞれしっかりつながっているか確認する。</li><li>● バッテリーが正しく装着されているか確認する。</li><li>● バッテリーが放電しきっている。バッテリーを充電し、電源を入れ直す。</li><li>● 結露している。1時間くらい待って電源を入れ直す。</li><li>● 本機からACアダプターとバッテリーパックを1度はずしてから、再度ACアダプターを接続し、電源を入れる。</li></ul>
液晶ディスプレイに何も表示されない。	<ul style="list-style-type: none"><li>● ビデオスタンバイモードになっている。いずれかのキーを押す。</li><li>● 外部モニターに表示が切り換えられている。Fnキーを押しながら、F7キーを何回か押す。</li></ul>
外部ディスプレイの表示サイズ、表示位置がおかしい。	ディスプレイの調整つまみで設定する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。
テレビの画面が異常に暗い。	MONITORコネクタに接続ケーブルをつないでいるときは、ケーブルをはずす。
テレビに何も表示されない	<ul style="list-style-type: none"><li>● ケーブルが正しく接続されているか確認する。</li><li>● 画面の色数がTrue Color(24ビット)または16色のときは、テレビに画像を表示できません。</li></ul>

症状	原因 / 対策
内蔵モデムからダイヤルできない。または、「モデムが Communication Center によって検出されていません。」などのメッセージが表示される。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● お使いの電話回線がトーン式ダイヤルかパルス式ダイヤルかを確認し、モデムのダイヤル方法を確認する。(74ページ) PBX回線をお使いの場合は、76ページの設定を行ってください。</li> <li>● 電話回線のコンセントに直接テレホンコードを接続しているか確認する。テレホンコードが長すぎないか、電話機の子機に接続していないか確認する。(76ページ)</li> <li>● テレホンコードを「カチッ」と音がするまでモジュラージャックに差し込む。(75ページ)</li> <li>● 3分以内に3回以上同じところにダイヤルした場合はリダイヤル規制がかかり、連続してダイヤルすることができません。3分以上時間を置いてからリダイヤルしてください。</li> <li>● 158ページの「モデムの設定」をご覧ください。</li> </ul>
モデムはダイヤルしているが、接続できない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 158ページの「ダイヤルの設定」をご覧ください。</li> </ul>
携帯電話で接続できない。COMポートの設定を変えない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 160ページの「COMポートの設定」をご覧ください。</li> </ul>
インターネットに接続できない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 田キーを押して[スタート]メニューを表示させ、[プログラム] [アクセサリ] [インターネットツール]の順に選択し、[インターネット接続]をクリックして、設定を確認する。</li> </ul>
CD-ROMが再生できない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● CD-ROMドライブが正しく装着されているか確認する。(43ページ)</li> <li>● CD-ROMが正しくトレイに置かれているか確認する。(44ページ)</li> <li>● CD-ROMの再生面を柔らかい布できれいにふき、汚れをとる。</li> <li>● 結露している。1時間くらい待って電源を入れ直してから、もう1度再生してみる。</li> <li>● 再生音量を確認する。(70ページ)</li> </ul>
CD-ROMの再生時、音がとぎれる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● CD-ROMの再生面を柔らかい布できれいにふき、汚れをとる。</li> <li>● 再生用のバッファの量を調整する。詳しくは、Windows 98のヘルプをご覧ください。</li> </ul>

症状	原因 / 対策
CD-ROMが取り出せない。	45ページをご覧ください。
フロッピーディスクが取り出せない。	40ページをご覧ください。
画面上のポインターが動かない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 印刷キーを押して[スタート]メニューを表示させ、キーまたは キーを押して[Windowsの終了]を選び、Enterキーを押す。</li> <li>• 上記の操作で電源が切れないときは、CtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを押し、本機を再起動する。</li> <li>• 上記の操作でも何も起こらないときは、パワースイッチを4秒以上▷の方向にずらして電源を切る。</li> <li>• CD-ROMを再生しているときなどに、ポインターが動かなくなってしまった場合は、CtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを押し、CD-ROMの再生を強制的に終わらせ、本機を再起動する。</li> </ul>
フロッピーディスクが読めない。	フロッピーディスクドライブを外付けドライブとして使うときは、2HD 1.2Mバイトのフロッピーディスクの読み書きはできません。
電源を入れた後、「No System disk or disk error. Replace and press any key when ready.」というメッセージが出て、ハードディスクを立ち上げられない。	フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っているときは、イジェクトボタンを押して、取り出す。その後、キーボードのいずれかのキーを押す。
「マイコンピュータ」からフロッピーディスクを選んで初期化しようとしたができない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。(41ページ)</li> <li>• フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブにきちんと入っているを確認する。</li> <li>• 「アプリケーションが使用中です」というメッセージが出たときは、フロッピーディスクの内容がウィンドウで表示されている。ウィンドウ表示されているときは初期化できないので、フロッピーディスクのウィンドウを閉じる。</li> </ul>
「ディスクがいっぱいです」というメッセージが表示され、ファイルなどをフロッピーディスクに保存できない。	フロッピーディスクの容量の空きがない。容量の空きが充分にある、別のフロッピーディスクを使って、保存し直す。

症状	原因 / 対策
「書き込み禁止」というメッセージが表示された。	フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。(41ページ)
スピーカーから音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本機の内蔵スピーカーが「切」になっている。Fnキーを押しながら、F3キーを押す。</li> <li>● 本機の内蔵スピーカーの音量が最小になっている。Fnキーを押しながら、F4キーを押したあと、またはキーを押して音量を上げる。(151ページ)</li> <li>● 再生音量を確認する。(70ページ)</li> <li>● 外部スピーカーをお使いの場合は、本機とスピーカーが正しく接続されているか確認する。</li> <li>● 外部スピーカーの音量が最小になっている。音量つまみで音量を上げる。詳しくは、スピーカーに付属の取扱説明書をご覧ください。</li> <li>● 〇コネクタにケーブルをつないでいるときは、ケーブルをはずす。</li> <li>● ドッキングステーションのマルチパスベイにCD-ROMドライブを取り付けた場合、音楽CDを再生しても本機の内蔵スピーカーから音はでません。</li> </ul>
Fnキーを押しながらF3キーを押すと「Sound Disable」と表示される。	「システムのプロパティ」画面の「デバイスマネージャ」タブをクリックしてから、サウンドデバイスを使用できるように設定する。
日本語が入力できない。	「文字を入力する」(30ページ)をご覧ください。
アルファベットのかわりに数字が入力される。	Num Lockキーを押して、Num Lockランプを消灯させる。
入力した文字が表示されない。	文字を入力したいアプリケーションソフトウェアのウィンドウが前面に出ていない。(画面上では薄い色のウィンドウになります。)ウィンドウのどこかをクリックするか、AltキーとTabキーを同時に押して目的のアプリケーションソフトウェアを前面に出し、使える状態にする。
URLで使われる半角の「~」が入力できない。	MS-IME98ツールバーで「直接入力」または「半角英数」を選び、Shiftキーを押しながら「^」を押す。 MS-IME98ツールバーについて詳しくは、「文字を入力する」(30ページ)をご覧ください。
全角の「~」が入力できない。	MS-IME98ツールバーで「ひらがな」を選んで、ひらがなで「から」と入力し、「~」が選ばれるまでスペースキーを押す。 MS-IME98ツールバーについて詳しくは、「文字を入力する」(30ページ)をご覧ください。

症状	原因 / 対策
指がタッチパッドの端までできてしまい、これ以上動かせない。	指をいったんタッチパッドからはなし、中央に戻す。
指がタッチパッドに触れただけで、クリックしてしまう。	タッチパッドの設定を変更してください。詳しくは、「タッチパッドの設定を変更する」(102ページ)をご覧ください。
ハードディスクから起動できない。	フロッピーディスクドライブに、フロッピーディスクが入っていないか確認する。
誤ってハードディスクを初期化してしまった。	リカバリCDを使って、本機を再セットアップする必要があります。「リカバリCDで本機を再セットアップする」(144ページ)をご覧ください。
画面上のすべてのものが動かなくなりました。	CtrlキーとAltキー、Deleteキーを同時に押して再起動する。
電源が切れない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CtrlキーとAltキー、Deleteキーを同時に押して再起動する。うまく再起動できないときは、パワースイッチを4秒以上▷の方向にずらす。</li> <li>• ACアダプターとバッテリーパックをはずす。</li> </ul>
PCカードが使えない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows対応でないPCカードは使えません。</li> <li>• IRQが足りない。Sony Notebook Setupで、現在使用していないデバイスを一時的に使用できないようにする。(105ページ)</li> <li>• PCカードを2枚取り付けるときは、Sony Notebook Setupで、現在使用していないデバイスを一時的に使用しないようにする。(105ページ)</li> </ul>
ファンの音が大きい。	PowerPanelの「放熱制御の方法」を「サイレント」に変更する。詳しくは、「PowerPanel」のヘルプをご覧ください。
急に省電力モードに入る。	PowerPanelの「パワーマネジメント オフ」ボタンで省電力機能を無効にする。(108ページ)

## モデムの設定

モデムがWindowsに正しく認識されているか確認します。

- 1 [スタート]ボタンをクリックし、[設定]を選択して[コントロールパネル]をクリックする。
- 2 [モデム]アイコンをダブルクリックする。
- 3 [検出結果]タブをクリックする。
- 4 [COM2]を選択し、[詳細情報]をクリックする。  
[詳細情報...]ダイアログボックスが表示されたら、モデムは正しく認識されています。

正しく認識されていないときは

次の点を確認してください。

- COMポートのリソース (IRQなど) が他のデバイスと競合していないか確認します。  
[システムのプロパティ]の[デバイスマネージャ]で、デバイスのアイコンに！がついているものは、他のデバイスと競合を起こしています。
- モデムの設定をいったん削除し、もう一度組み込み直します。  
[システムのプロパティ]の[デバイスマネージャ]で、[モデム]の中の[Sony Internal Modem]を削除します。Windowsを再起動するとモデムが検出され、対応するドライバが自動的に組み込まれます。

## ダイヤルの設定

うまく接続できないときは、以下の項目を確認してください。

ケーブルの接続を確認する

「発信音が聞こえません」や「ダイヤル先のコンピュータが応答しません」といったメッセージが表示されたときは、モジュラーケーブルの接続を確認します。本体側のモジュラージャックと壁側のモジュラージャックの接続を確認します。予備のケーブルがあれば、ケーブルを交換して試してみます。

接続速度を遅くしてみる

電話回線の状態がよくないときには、接続速度を遅くするとうまく接続できる場合があります。

- 1 [スタート]ボタンをクリックし、[設定]を選択して[コントロールパネル]をクリックする。
- 2 [モデム]アイコンをダブルクリックする。
- 3 [Sony Internal Modem]を選択し、[プロパティ]をクリックする。
- 4 [最高速度]に遅めの数値 (標準は115200) を選ぶ。
- 5 少しずつ数値を小さくして試す。

ダイヤルトーンを検出しないようにする

ダイヤルトーン(受話器を上げたときの「ツー」という音)の検出に失敗してダイヤルできないときは、ダイヤルトーンを検出しないようにします。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[設定] [コントロールパネル]の順に選択する。
- 2 [コントロールパネル]の中の[モデム]をダブルクリックする。
- 3 [全般]タブに表示されているモデムから使用したいモデムを選択し、[プロパティ]をクリックする。
- 4 [接続]タブをクリックし、「トーンを待ってからダイヤルする」のチェックをはずす。
- 5 [OK]をクリックする。
- 6 「モデムのプロパティ」の[閉じる]をクリックする。

接続中の動作が長く続くとき

接続中の動作が長く続き、接続が完了しないときは、いったん回線を切断してかけ直します。高い通信速度で接続する場合、まれに接続に失敗して、接続確認の動作が終わらなくなることがあります。

ダイヤルアップネットワークやプロトコルの設定を確認する

「ダイヤル先のコンピュータから切断されました。接続のアイコンをダブルクリックして、やり直してみてください。」や「ダイヤル先のコンピュータは、ダイヤルアップネットワーク接続を確立できません。パスワードを確認してから、やり直してみてください。」といったメッセージが表示されるときは、プロバイダやネットワークに接続するための設定を確認します。

設定などに問題がなかった場合は、ダイヤルアップネットワークとプロトコルを組み込み直してください。

ダイヤルアップネットワークの設定の確認

- 1 [マイコンピュータ]をダブルクリックし、[ダイヤルアップネットワーク]をダブルクリックする。
- 2 接続先のアイコンを右クリックし、[プロパティ]をクリックする。
- 3 契約しているプロバイダーから提供された資料にしたがって設定を確認する。特に、次の点を重点的に確認してください。
  - [全般]タブの[電話番号]の設定(ISDN用の回線が別番号になっていることもあります)
  - [サーバーの種類]タブの設定
  - [サーバーの種類]タブの[TCP/IP設定]ボタンでの設定

## プロトコルの設定の確認

- 1 [スタート]ボタンをクリックし、[設定]を選択して[コントロールパネル]をクリックする。
- 2 [ネットワーク]アイコンをダブルクリックする。
- 3 契約しているプロバイダーから提供された資料にしたがって設定を確認する。特に、次の点を重点的に確認してください。
  - [現在のネットワークコンポーネント]に組み込まれているコンポーネント
  - 各コンポーネントのプロパティの設定

## COMポートの設定

本機では、標準状態でCOM1～COM4までが使われています。

新しい周辺機器（PCカード等）を接続するとCOM5が割り当てられますが、ソフトウェアによってはCOM5をサポートしていないものがあり、正しく周辺機器等を使用できない場合があります。このような場合には、割り当てられているCOMポートの設定を変更します。

標準状態のCOMポートの割り当ては、以下の通りです。

COM1：シリアルポート

COM2：内蔵モデム

COM3：赤外線通信ポート

COM4：赤外線通信仮想ポート

COMポートの設定を変更するためには、次の(1)、(2)の方法があります。

### (1) 使用しないデバイスを無効にする

使用しないデバイスを無効に設定し、そのデバイスが使っていたCOMポートをほかの周辺機器が使用できるよう解放します。

- 1 Sony Notebook Setupを起動する。
- 2 [使用デバイス]タブをクリックし、以下のデバイスのうち使わないもののチェックを外す。
  - [シリアル通信ポート(COM1)]
  - [内蔵モデム]
  - [赤外線通信ポート]
- 3 本機の電源を切り、周辺機器を接続してから周辺機器と本機の電源を入れる。空いているCOMポートが周辺機器に割り当てられます。正しく設定されているか、[デバイスマネージャ]で確認してください。



## (2) COM4を空け、新しい周辺機器にCOM4を割り当てる

赤外線通信ポートをCOM4からCOM5に変更し、増設する周辺機器にCOM4を割り当てます。

- 1 [マイコンピュータ]を右クリックし、[プロパティ]をクリックする。
- 2 [デバイスマネージャ]タブをクリックする。
- 3 一覧から[赤外線]の中の[赤外線通信デバイス]を選び、[削除]をクリックする。
- 4 [デバイス削除の確認]のダイアログボックスが表示されるので、[指定された設定から削除]を選択し、[OK]をクリックして本機を再起動する。
- 5 [スタート]ボタンをクリックし、[設定]を選択して[コントロールパネル]をクリックする。
- 6 [ハードウェアの追加]アイコンをダブルクリックする。
- 7 [新しいハードウェアを自動的に検出しますか?]と表示されたら、[いいえ]を選ぶ。
- 8 インストールするハードウェアの種類は[赤外線]を選ぶ。
- 9 [赤外線デバイスウィザード]画面で、[製造元]に〔スタンダード赤外線デバイス〕、[モデル]に〔ラップトップまたはデスクトップのビルトイン赤外線ポート〕を選ぶ。
- 10 [一般の赤外線シリアルポート(COM3)]が選択されていることを確認し、[次へ]をクリックする。
- 11 [ポートを変更]を選び、[次へ]をクリックする。
- 12 通信ポートに[COM5]を選び、[次へ]をクリックする。
- 13 [赤外線デバイスは正常にセットアップされました。]と表示されたら[完了]をクリックして再起動する。
- 14 [コントロールパネル]の[赤外線モニター]をダブルクリックする。
- 15 [オプション]タブをクリックし、ひとつめのチェックボックスの下に[アプリケーションをサポートしているポートCOM5とLPT3]と表示されていることを確認する。
- 16 本機の電源を切り、周辺機器を接続してから周辺機器と本機の電源を入れる。COM4ポートが周辺機器に割り当てられます。正しく設定されているか、[デバイスマネージャ]で確認してください。

# 索引

## 五十音順

### ア行

- インストール 16
- インターネット
  - インターネットとは 51
  - インターネットを楽しむ 52
- ウェイトセーバー 49
- 液晶ディスプレイ 136, 142, 151
- 液晶プロジェクター
  - 液晶プロジェクターをつなぐ 80
- 音楽CD
  - CDを再生する 68

### カ行

- 外部スピーカー
  - 外部スピーカーをつなぐ 85
- 外部ディスプレイ
  - 外部ディスプレイをつなぐ 79
- 外部マイク
  - 外部マイクをつなぐ 85
- キーボード
  - キーボードショートカット 150
  - キーボードを使う 28
  - キーボードをつなぐ 86
- 起動ドライブ
  - 起動ドライブを指定する 101
- クリック
  - ダブルクリック 27
  - 右クリック 27
- 結露 136
- コンピューターウイルス 138

### サ行

- 再起動 25
- 省電力動作モード 25
  - システムサスペンドモード 112
  - システムハイバネーションモード 113
- シリアルケーブル 66
- スピーカー
  - 外部スピーカーをつなぐ 85
  - 内蔵スピーカー 59, 146, 151
- 赤外線
  - 赤外線通信ポート 63, 82, 149
  - 赤外線データ通信 63
  - 赤外線データ通信の設定を変更する 97
- 赤外線通信ポートアダプター 82

### ソフトウェア 71

- Adobe Acrobat Reader 16
- Adobe PhotoDeluxe 14
- BatteryScope 14, 114
- Communication Center 56
- Digital Media Park 14, 68
- Intellisync for Windows 65
- MouseWare 27
- Navin' You Version 2.0 Lite 71
- PictureGear 14, 71, 83
- PowerPanel 14, 108
- Sony Notebook Setup 96
- VirusScan 139
- 不正コピー禁止について 139
- ワードパッド 30

### タ行

- ターミナルアダプターカード 91
- タッチパッド
  - スクロールする 27
  - タッチパッドの設定を変更する 102
  - タッチパッドを使う 26
  - タッチパッドを便利に使う 27, 129
  - ダブルクリックする 27
  - ドラッグする 27
  - 右クリックする 27
- ダブルクリック 27
- データ
  - 書き込み禁止にする 41
  - バックアップをとる 139
  - やりとりする 63
- ディスプレイ
  - 外部ディスプレイをつなぐ 79
  - ディスプレイの設定を変更する 117
- ディスプレイパネル
  - 開く 22
- デジタルスチルカメラ
  - デジタルスチルカメラから画像を取り込む 13, 81
  - デジタルスチルカメラを使う 81
- デジタルビデオカメラ
  - デジタルビデオカメラから画像をとり込む 13
- デバイス
  - 一時的に使用できないように設定する 105
  - 詳細な設定をする 106
- デュアルディスプレイ 125
- テレビ

テレビをつなぐ 80  
電源  
電源を入れる 22  
電源を切る 24  
電話  
電話を受ける 60  
電話をかける 59  
電話を準備する 56  
留守番電話として使う 60  
電話回線  
電話回線のコンセントの種類 77  
電話回線をつなぐ 74  
トーン式ダイヤル 74  
ドッキングステーション 86  
ドラッグ 27  
**ナ行**  
内蔵ハードディスク 147  
内蔵モデム  
内蔵モデムを電話回線につなぐ 74  
日本語入力 30  
ネットワーク  
ネットワークにつなぐ 66  
ネットワークカード 66, 91  
**ハ行**  
ハードウェアリソース 105  
ハードディスク  
取り扱いについて 136  
パスワード  
削除する 105  
登録する 103  
変更する 104  
バックアップを取る 137  
バッテリー  
充電する 50  
情報を見る 116  
残量を確認する 114  
消費電力を節約する 108  
セカンドバッテリー 49  
取り付ける 48  
取りはずす 49, 50  
ランプ 47  
バッテリーベイ 48, 147  
パラレルポート  
パラレルポートの設定を変更する 99  
パルス式ダイヤル 74  
パワーマネージメント機能 108  
ビデオCD 68

ビデオカード 91  
ファックス  
ファックスを受信する 62  
ファックスを準備する 56  
ファックスを送信する 61  
プリンター  
プリンターをつなぐ 78  
フロッピーディスク  
入れる 40  
使用できるフロッピーディスク 41  
初期化する 40  
データを書き込み禁止にする 41  
取り扱いはについて 137  
取り出す 40  
フロッピーディスクドライブ  
外付けドライブとして使う 38  
取り付ける 38  
取りはずすには 39  
内蔵ドライブとして使う 39  
プロバイダー 52  
ヘッドホン 69  
ヘルプ 16  
ポインター 26  
本機の情報を確認する 96

**マ行**  
マイク 59, 146  
マイクをつなぐ 85  
マウス  
マウスをつなぐ 86  
マウスウェア 129  
マルチパーパスベイ 39, 43, 148  
右ボタン 26, 27  
メモリー 142  
増設する 87  
メモリーカード 67, 91  
文字入力 30  
モジュラージャック 75  
モデム 74, 158

**ラ行**  
リカバリCD  
本機を再セットアップする 144  
留守番電話 60

**ワ行**  
ワードパッド 30

## アルファベット順

### A

ACアダプター 22  
AC電源 22  
Adobe Acrobat Reader 16  
Adobe PhotoDeluxe 14  
AMS機能 70

### B

BatteryScope 14, 114

### C

CD-ROM  
 入れる 44  
 お手入れ 140  
 使用できるディスク 46  
 取り扱いについて 138  
 取り出す 45  
CD-ROMドライブ  
 取り付ける 43  
 取りはずす 43  
Communication Center 56

### D

Digital Media Park 14, 68

### I

Intellisync for Windows 65  
Internet Explorer 128  
IrDA 63, 97  
ISDN 7, 54

### L

LAN 66

### N

Navin' You Version 2.0 Lite 71

### P

PBX 7, 76  
PCカード  
 PCカードとは 91  
 PCカードを使う 91  
 PCカードを取り出す 94  
 PCカードを取り付ける 92  
PHS 55  
PictureGear 14, 71, 83  
PowerPanel 14, 108  
PS/2 86

### R

RAMボード  
 取り付ける 87  
 取りはずす 90

### S

SCSIカード 91  
Sony Notebook Setup 96

### T

TAカード 91

### V

VirusScan 139

### W

Windows 98 23

この説明書は再生紙を使用しています。



ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川6-7-35

使い方のご相談、技術的なお問い合わせは  
VAIOテクニカルレスポンスセンターへ  
0466-30-3000

カスタマー登録、一般的なお問い合わせは  
VAIOカスタマー専用デスクへ  
03-3584-6651

---

Sony online <http://www.world.sony.com/>

「Sony online」は、インターネット上のソニーのエレクトロニクスとエンターテインメントのホームページです。

---

お電話の前に、必ず付属の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

Printed in Japan